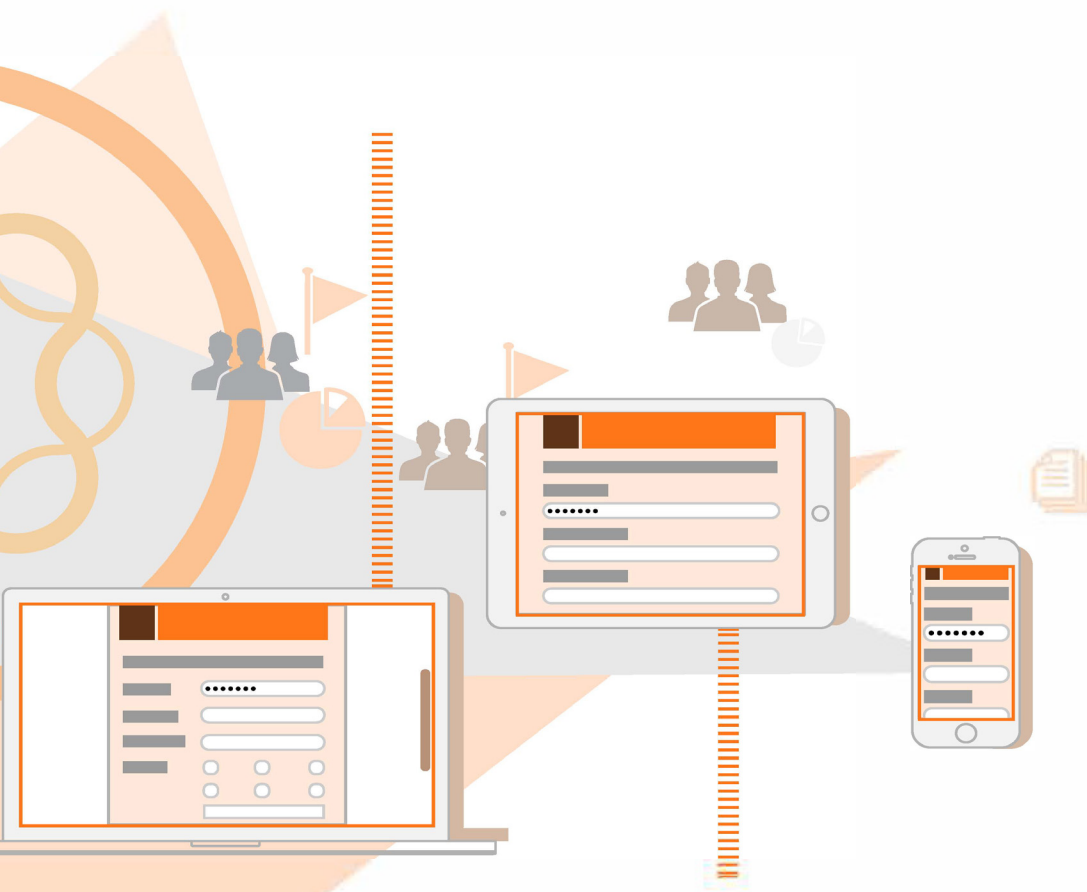


JEE 上の Adobe Experience Manager Forms へのアップグレード (WebLogic 版)



AEM 6.3 Forms

法的通知

法律上の注意については、<https://helpx.adobe.com/jp/legal/legal-notice.html>を参照してください。

目次

章1	このドキュメントの内容	1
	このドキュメントの対象読者	1
	このガイドで使用する表記	1
	追加情報	2
章2	アップグレードの概要	3
	JEE上のAEM Formsのインストール、設定、およびデプロイ	3
	JEE上のAEM Formsのアップグレードが機能する方法	4
	アップグレードとデプロイメントのチェックリストを確認します	4
章3	AEM Formsモジュールのインストール	5
	事前準備	5
	インストールの概要	5
	インストーラーの確認	5
	DVD インストールメディアの確認	5
	ダウンロードしたファイルの確認	6
	ダウンロードしたアーカイブファイルの展開	6
	設定されているCRXリポジトリのバージョンの識別	6
	インストールに関する考慮事項	7
	インストールパス	7
	一時ディレクトリ	7
	Linux または UNIX にインストールするための Windows ステージングプラットフォームへのインストール	8
	インストールに関する一般的な注意	8
	JEE上のAEM Formsのインストール	9
	アップグレードのためのConnectors for ECMの準備	10
	アウトオブプレースアップグレードのためのConnectors for ECMの準備	11
	次の手順	11

章4	JEE上のAEM Formsをデプロイするための設定	12
	JEE上のAEM Formsの設定とデプロイの際の考慮事項	12
	一般的な考慮事項	12
	Configuration ManagerのCLIバージョンとGUIバージョンの比較	12
	WebLogicアプリケーションサーバーの考慮事項	13
	JEE上のAEM Forms Server クラスター設定時の考慮事項	13
	リポジトリのアップグレード時の考慮事項	14
	アップグレードのための事前設定タスク	14
	JEE上のAEM Formsの設定とデプロイ	15
	Adobe Experience Manager Formsを設定	15
	データベースの設定	16
	CRXの設定	16
	(リモートホストのみ) CRX 設定サマリー	17
	PDF Generator用のAcrobatの設定	17
	設定の概要	17
	アプリケーションサーバーおよびデータベースの設定	18
	インストール検証サンプル (IVS) EAR ファイルの選択	19
	JEE上のAEM Forms EARのデプロイ	20
	Adobe Experience Manager Forms データベースの初期化	20
	セッションIDの移行エラー	21
	Central Migration Bridge Serviceのデプロイ	21
	Adobe Experience Manager Forms コンポーネントのデプロイ	21
	データの移行	22
	Adobe Experience Manager Forms コンポーネントの設定	22
	Connector for EMC®Documentum®の設定	22
	Connector for IBM®Content Managerの設定	23
	Connector for IBM®FileNetの設定	23
	Connector for Microsoft®SharePoint®の設定	24
	ネイティブファイル変換のためのAdobe Experience Manager Forms Serverの設定	24
	PDF GeneratorのSystem Readiness Test	25
	Acrobat Reader DC Extensionsの設定	25
	サマリー、および次の手順	25
章5	CRXリポジトリのアップグレードとコンテンツの移行	26
	TarMKで実行されているCRX3リポジトリのコンテンツの移行	26
	RDBMKまたはMongoDBで実行されているCRX3リポジトリのコンテンツの移行	29

章6	デプロイメント後のタスク	31
一般的なタスク		31
JEE 上の AEM Forms がメンテナンスモードで実行中かどうかの確認		31
メンテナンスモードのオフ		31
シリアル化エージェントの設定		31
正しい日付、時刻およびタイムゾーンの設定		31
システムイメージバックアップの実行		32
クライアント SDK の URL とポート番号の設定		32
委任 RSA ライブラリと委任 BouncyCastle ライブラリの起動		32
アプリケーションサーバーの再起動		33
デプロイメントの確認		33
Administration Console へのアクセス		33
JEE 上の AEM Forms の管理者のデフォルトパスワードの変更		33
OSGi Management Console へのアクセス		34
ログファイルの表示		34
作成者インスタンスと発行インスタンスの設定		35
作成者インスタンスの設定		35
発行インスタンスの設定		35
作成者インスタンスと発行インスタンス間の通信		36
IPv6 実装の設定		37
Adobe Reader 用日本語フォントのインストール		37
モジュールの Web アプリケーションへのアクセス		37
Acrobat Reader DC 拡張 Web アプリケーションへのアクセス		38
LiveCycle で使用される Forms Manager および Forms Portal の URL のリダイレクトの有効化		38
Workspace へのアクセス		39
HTML ワークスペースへのアクセス		39
Forms Manager へのアクセス		39
PDF Generator Web アプリケーションへのアクセス		39
Document Security へのアクセス		39
User Management へのアクセス		40
Workbench へのアップグレード		41
CSIv2 Inbound Transport の設定		41
JBoss 用 JMS の有効化		41
アダプティブフォームおよび Correspondence Management アセットの移行		42
Adobe Correspondence Management Utilities バンドルの削除		42
Adobe Sign の再設定		42
分析とレポートの再設定		42
Content Repository Connector サービスの設定		43

モジュールのWebアプリケーションへのアクセス	.43
Acrobat Reader DC 拡張 Web アプリケーションへのアクセス	.44
LiveCycle で使用される Forms Manager および Forms Portal の URL のリダイレクトの有効化	.44
Workspace へのアクセス	.44
HTML ワークスペースへのアクセス	.45
Forms Manager へのアクセス	.45
PDF Generator Web アプリケーションへのアクセス	.45
Document Security へのアクセス	.45
Document Security エンドユーザー Web アプリケーションへのアクセス	.45
Document Security 管理者 Web アプリケーションへのアクセス	.46
Document Security エンドユーザーロールの割り当て	.46
User Management へのアクセス	.46
作成者インスタンスと発行インスタンスの設定	.47
作成者インスタンスの設定	.47
発行インスタンスの設定	.47
発行ノードの設定	.47
作成者インスタンスと発行インスタンス間の通信	.48
発行インスタンス URL の定義	.48
ActivationManagerImpl の発行インスタンス URL の定義	.48
逆複製キューの設定	.49
作成者インスタンス URL の定義	.49
IPv6 実装の設定	.49
Adobe Reader 用日本語フォントのインストール	.49
PDF Generator の設定	.50
環境変数	.50
HTTP プロキシサーバーを使用するようにアプリケーションサーバーを設定	.50
Adobe PDF プリンターをデフォルトのプリンターとして設定	.51
デフォルトプリンターの設定	.51
Acrobat Professional の設定 (Windows ベースのコンピューターのみ)	.51
PDF Generator で使用するための Acrobat の設定	.51
Acrobat のインストールの検証	.52
Acrobat の信頼できるディレクトリリストへの一時ディレクトリの追加	.52
PDF Generator へのフォントの追加	.52
JEE 上の AEM Forms 以外のアプリケーション	.53
Windows 専用アプリケーションへの新しいフォントの追加	.53
その他のアプリケーションへの新しいフォントの追加	.54
OpenOffice スイートへの新しいフォントの追加	.54
HTML から PDF への変換の設定	.54
HTML から PDF への変換の設定	.54
HTML から PDF への変換における Unicode フォントのサポート	.54

Network Printer Clientのインストール	.56
PDF Generator ネットワークプリンタークライアントのインストール	.56
Windows でネイティブのプリンターの追加ウィザードを使用したPDFG	
ネットワークプリンターの設定	.57
プロキシサーバーのポート転送を使用したPDF Generator Network Printer Client のインストールと設定	.57
ファイル制限機能の設定の変更	.58
監視フォルダーのパフォーマンスパラメーター	.58
PDF Generator のパフォーマンスパラメーターの設定	.58
保護フィールドを含むMicrosoft Word 文書に対するPDF変換の有効化	.58
Document Securityに対するSSLの設定	.59
LDAPアクセスの設定	.59
User Management の設定 (ローカルドメイン)	.59
User Management のLDAP 設定 (エンタープライズドメイン)	.59
FIPSモードの有効化	.61
FIPS モードのオンまたはオフ	.61
Connector for EMC Documentumの設定	.61
Connector for EMC Documentum の設定	.62
複数の接続ブローカーのサポートの追加	.65
Connector for IBM Content Managerの設定	.65
Connector for IBM Content Manager の設定	.66
「Use Credentials from process context」 ログインモードを使用した接続	.68
Connector for IBM FileNetの設定	.70
アダプティブフォームおよびCorrespondence Managementアセットの移行	.74
Adobe Correspondence Management Utilitiesバンドルの削除	.74
Adobe Sign の再設定	.74
分析とレポートの再設定	.75
Content Repository Connectorサービスの設定	.75
章7 付録-コマンドラインインターフェイスを使用したインストール	.76
概要	.76
JEE上のAEM Formsのインストール	.76
エラーログ	.77
章8 付録- Configuration Managerコマンドラインインターフェイス	.78
操作の順序	.78
コマンドラインインターフェイスのプロパティファイル	.79
JEE上のAEM Formsコマンドのアップグレード	.80
JEE 上の AEM Forms のコア設定の更新コマンド	.80

（自動オプションのみ）既存の自動データベースの移行コマンド	80
デプロイメント完了後の設定コマンド	81
JEE 上の AEM Forms のホストおよび認証情報	82
JEE 上の AEM Forms データベースの情報	82
一般的な設定プロパティ	83
共通のプロパティ	83
JEE 上の AEM Forms プロパティの設定	85
アプリケーションサーバーの設定および検証のプロパティ	86
WebLogic の設定および検証のプロパティ	86
アプリケーションサーバーのプロパティ	86
JEE 上の AEM Forms プロパティのデプロイ	88
JEE 上の AEM Forms プロパティの初期化	88
JEE 上の AEM Forms コンポーネントプロパティのデプロイ	88
PDF Generator 用の管理者ユーザーの追加	89
Connector for IBM Content Manager の設定	89
Connector for IBM FileNet の設定	90
Connector for EMC Documentum の設定	91
Connector for Microsoft SharePoint の設定	92
コマンドラインインターフェイスの使用	93
JEE 上の AEM Forms の設定 CLI の使用	93
CRX CLI の使用の設定	93
アプリケーションサーバートポロジの検証 CLI の使用	93
データベース接続の検証 CLI の使用	93
アプリケーションサーバーの設定 CLI の使用	94
アプリケーションサーバー設定の検証 CLI の使用	94
（WebSphere および Weblogic のみ）JEE 上の AEM Forms デプロイ CLI の使用	94
JEE 上の AEM Forms 初期化 CLI の使用	94
JEE 上の AEM Forms Server の検証 CLI の使用	94
JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイ CLI の使用	95
JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイメントの検証 CLI の使用	95
PDF Generator のシステム準備設定の確認	95
PDF Generator の管理者ユーザーの追加	95
Connector for IBM Content Manager の設定	95
Connector for IBM FileNet の設定	96
Connector for EMC Documentum の設定	96
Connector for Microsoft SharePoint の設定	97
使用例	97
Configuration Manager CLI のログ	97
次の手順	97

章9 付録- SharePointサーバーでのConnector for Microsoft SharePointの設定	98
インストールと設定	98
SharePoint サーバーの必要システム構成	98
インストールに関する考慮事項	98
SharePointサーバー2007でのインストールと設定	99
Web パーツのインストーラーの抽出	99
バッチファイルの編集	99
バッチファイルの実行	100
サービスモデル設定の IIS Web アプリケーションのフォルダーへのコピー	100
SharePoint Server 2010およびSharePoint server 2013でのインストールと設定	101
環境変数の編集	101
Web パーツのインストーラーの抽出	101
Connector のインストールとアクティベート	101
機能の有効化または無効化	102
Microsoft SharePoint Server 2010 のコネクタおよび Microsoft SharePoint Server 2013 の アンインストール	105

1. このドキュメントの内容

JEE 上の AEM Forms は、ビジネスプロセスの自動化と効率化を支援するエンタープライズサーバープラットフォームです。JEE 上の AEM Forms は次のコンポーネントで構成されます。

- サーバー機能とランタイム環境を提供する J2EE ベースの Foundation
- JEE 上の AEM Forms を設計、開発、テストするためのツール
- JEE サーバー上の AEM Forms にデプロイされ、機能サービスを提供するモジュールとサービス

JEE 上の AEM Forms の機能について詳しくは、「[AEM Forms の概要](#)」を参照してください。

1.1. このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、JEE 上の AEM Forms のインストール、アップグレード、設定、管理またはデプロイを担当する管理者や開発者を対象にしています。読者は J2EE アプリケーションサーバー、オペレーティングシステム、データベースサーバーおよび Web 環境に関する十分な知識を持っている必要があります。

1.2. このガイドで使用する表記

JEE 上の AEM Forms のインストールおよび設定に関するドキュメントでは、共通のファイルパスについて次の命名規則を使用します。

名前	デフォルト値	説明
[aem-forms root]	ウィンドウ : C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms Linux および Solaris : /opt/adobe/Adobe_Experience_Manager_Forms	JEE モジュール上の AEM Forms すべてに使用されているインストールディレクトリ。インストールディレクトリには、Configuration Manager 用のサブディレクトリが含まれます。このディレクトリには、SDK およびサードパーティ製品に関連するディレクトリも含まれます。
[appserver root]	Windows 上の WebLogic Server : C:\Oracle\Middleware\wlserver_<version>\ WebLogic Server (Linux および Solaris) : /opt/Oracle/Middleware/wlserver_<バージョン>/	JEE モジュール上の AEM Forms すべてに使用されているアプリケーションサーバーディレクトリ。
[server name]	Server1 (WebLogic Server の場合)	
WL_HOME	WebLogic Server 10g (Windows) : C:\bea\ WebLogic Server 10g (Linux および Solaris) : /opt/bea/ WebLogic Server (Windows) : C:\¥Oracle¥Middleware¥ WebLogic Server (Linux および Solaris) : /opt/Oracle/Middleware/	WL_HOME 環境変数に指定されている、WebLogic Server のインストールディレクトリ。

名前	デフォルト値	説明
[appserverdomain]	WebLogic 12c Server (Windows) : C:\bea\user_projects\domains\base_domain\ WebLogic Server (Windows) : C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\base_domain\ WebLogic 12c Server (Linux および UNIX) : /opt/bea/user_projects/domains/ base_domain/ WebLogic Server (Linux および UNIX) : /opt/Oracle/Middleware/user_projects/ domains/base_domain/	
[dbserver root]	データベースタイプとインストール時の設定によって異なります。	JEE 上の AEM Forms のデータベースサーバーがインストールされている場所。
[AEM_temp_dir]	Windows の場合 : C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms\tmp Linux の場合 : /opt/adobe/Adobe_Experience_Manager_Forms/tmp	JEE サーバー 上の AEM Forms の一時ディレクトリ。
[CRX_home]	Windows の場合 : C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms\crx-repository Linux の場合 : /opt/adobe/Adobe_Experience_Manager_Forms\crx-repository	CRX リポジトリをインストールするために使用するディレクトリ。

このガイドに記述されているディレクトリの場所に関するほとんどの情報は、すべてのプラットフォームに当てはまります (Windows 以外のオペレーティングシステムでは、すべてのファイル名とパスにおいて大文字と小文字が区別されます)。プラットフォーム固有の情報は、必要に応じて特記します。

1.3. 追加情報

次の表では、JEE 上の AEM Forms についてより詳しく知るために役立つリソースを紹介します。

情報	参照先
JEE 上の AEM Forms とモジュール	AEM Forms の概要
以前のバージョンからの JEE 上の AEM Forms へのアップグレード	JEE 上の AEM Forms へのアップグレードの準備 JEE 上の AEM Forms へのアップグレード (WebLogic 版)
管理タスクの実行	管理ヘルプ
JEE 上の AEM Forms 用のすべてのドキュメント	JEE 上の AEM Forms ドキュメント
現在のバージョンに関するパッチアップデート、テクニカルノート、および追加情報	アドビエンタープライズサポート

2. アップグレードの概要

2.1. JEE 上の AEM Forms のインストール、設定、およびデプロイ

JEE 上の AEM 6.1 Forms または JEE 上の AEM 6.2 Forms から JEE 上の AEM 6.3 Forms へのアップグレードに関連するほとんどの作業は、Configuration Manager で行われます。アップグレードに固有のタスクは、設定およびデプロイメントプロセスにシームレスに統合されています。

JEE 上の AEM Forms のインストール、設定、デプロイには次のプロセスが含まれています。

インストール：インストールプログラムを実行して JEE 上の AEM Forms をインストールします。JEE 上の AEM Forms をインストールすると、必要なすべてのファイルが、使用するコンピューター上の 1 つのインストールディレクトリ構造内に配置されます。デフォルトのインストールディレクトリは C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms (Windows) または、/adobe/Adobe_Experience_Manager_Forms (Linux または UNIX) ですが、これ以外のディレクトリにファイルをインストールすることもできます。

構成とアセンブリ：JEE 上の AEM Forms を構成すると、JEE 上の AEM Forms の動作方法を決定するさまざまな設定が変更されます。製品のアセンブリでは、設定の指示に従って、すべてのインストール済みコンポーネントがデプロイ可能な EAR および JAR ファイルに配置されます。コンポーネントに対してデプロイメントのための設定とアセンブリを行うには、Configuration Manager を実行します。

アプリケーションサーバーの設定：Configuration Manager でアプリケーションサーバーが設定されるように選択できます。アップグレードの環境を準備する際に既に複数の設定タスクを実行しましたが、Java™ Virtual Machine (JVM™) 引数の設定、データソース接続の設定、タイムアウト値の設定など、JEE 上の AEM Forms のインストール後に行うタスクがさらにいくつかあります。

デプロイ：製品のデプロイでは、アセンブリされた複数の EAR ファイルといくつかの補助ファイルを、JEE 上の AEM Forms を実行する予定のアプリケーションサーバーにデプロイします。複数のモジュールを設定およびアセンブリした場合は、デプロイ可能なコンポーネントがデプロイ可能な EAR ファイル内にパッケージングされています。また、コンポーネントおよび LiveCycle アーカイブファイル (LCA) は、JAR ファイルとしてパッケージングされています。Configuration Manager によって、EAR ファイル、コンポーネントおよびアーカイブファイルがアプリケーションサーバーに自動的にデプロイされます。

デプロイ：製品のデプロイでは、アセンブリされた複数の EAR ファイルといくつかの補助ファイルを、JEE 上の AEM Forms を実行する予定のアプリケーションサーバーにデプロイします。複数のモジュールを設定およびアセンブリした場合は、デプロイ可能なコンポーネントがデプロイ可能な EAR ファイル内にパッケージングされています。コンポーネントおよび LCA は、JAR ファイルとしてパッケージングされています。Configuration Manager は、コンポーネントおよびアーカイブファイルをアプリケーションサーバーに自動的にデプロイします。EAR ファイルを JBoss に手動でデプロイする必要があります。

データベースの初期化：データベースを初期化すると、User Management やその他のコンポーネントで使用するテーブルが作成されます。Configuration Manager では、EAR デプロイメントプロセス後に JEE 上の AEM Forms データベースを初期化します。

2.2. JEE 上の AEM Forms のアップグレードが機能する方法

JEE 上の AEM Forms へアップグレードするには、次のタスクを実行します。

- 1) アップグレード用の環境を準備します
- 2) J2EE 上の AEM Forms をインストールします
- 3) Configuration Manager を実行し、設定、アップグレード、デプロイメントのプロセスを開始します
- 4) CRX リポジトリをアップグレードし、重要な既存のデータを移行します
- 5) デプロイメント後のアップグレードタスクを実行します

2.3. アップグレードとデプロイメントのチェックリストを確認します

『[アップグレードのチェックリストと計画](#)』ガイドを使用して、JEE 上の AEM Forms へのアップグレードに必要な情報がすべて揃っていることを確認できます。このチェックリストを使用して、アップグレードプロセスによって JEE 上の AEM Forms が適切にインストールされたこと、およびすべてのコンポーネントやモジュールが機能していることも確認します。

3. AEM Forms モジュールのインストール

3.1. 事前準備

3.1.1. インストールの概要

モジュールをインストールする前に、JEE 上の AEM Forms の実行に必要なソフトウェアとハードウェアが使用環境に含まれていることを確認してください。また、各インストールオプションについて理解し、必要に応じて環境を整えておく必要があります。詳しくは、インストールの準備（シングルサーバーまたはサーバークラスター）、アップグレードの準備に関する各ガイドを参照してください。JEE 上の AEM Forms の完全なドキュメントは、http://www.adobe.com/go/learn_aemforms_tutorials_63_jp から入手できます。

アップグレードする場合は、JEE 上の AEM Forms のインストールおよび設定を実行する前に、既存のデータをバックアップする必要があります。同じデータベースの新しいバージョンに移行する場合は、『[JEE 上の AEM Forms のインストールの準備](#)』ガイドの説明に従ってデータベースを準備し、バックアップ／復元／移行ユーティリティを使用して、データを新しいデータベースに移行します。新しいオペレーティングシステムやアプリケーションサーバーに移行する場合は、『[JEE 上の AEM Forms のインストールの準備](#)』ガイドで設定情報を確認します。

JEE 上の AEM Forms では、インストールプログラムにコマンドラインインターフェース（CLI）も提供しています。CLI の使用に関する説明については、「付録 - コマンドラインインターフェースのインストール」を参照してください。Configuration Manager 用の CLI もあります。「付録 - コマンドラインインターフェースのインストール」も参照してください。これらの CLI は、インストールプログラムや Configuration Manager の GUI がサポートされていないサーバー環境で JEE 上の AEM Forms の上級ユーザーが使用したり、ユーザーがバッチ（非インタラクティブ）インストール機能を実装する際に使用したりすることを前提としています。

3.1.2. インストーラーの確認

インストールプロセスを開始する前に、インストーラーファイルについて、次のベストプラクティスを確認してください。

DVD インストールメディアの確認

入手したインストールメディアが破損していないことを確認します。JEE 上の AEM Forms をインストールするコンピューターのハードディスクにインストールのメディアコンテンツをコピーする場合は、必ず、すべての DVD コンテンツをハードディスクにコピーしてください。インストールエラーを避けるには、Windows のパスの最大長を超えるディレクトリパスに DVD インストールイメージをコピーしないでください。

インストールファイルのローカルコピーを使用するか DVD から直接 JEE 上の AEM Forms をインストールします。ネットワーク上で JEE 上の AEM Forms のインストールを行うと、インストールは失敗します。

ダウンロードしたファイルの確認

アドビの Web サイトからインストーラーをダウンロードした場合は、MD5 チェックサムを使用してインストーラーファイルの整合性を検証してください。次のいずれかを実行し、ダウンロードファイルの MD5 チェックサムを計算して、アドビライセンス Web サイトで公開されているチェックサムと比較します。

- **Linux** : md5sum コマンドを実行します。
- **Solaris** : digest コマンドを実行します。
- **Windows** : WinMD5 などのツールを実行します。
- **AIX** : md5sum コマンドを実行します。

ダウンロードしたアーカイブファイルの展開

アドビの Web サイトから ESD をダウンロードした場合は、aemforms_server_6_3_0_weblogic_all_win.zip (Windows) または aemforms_server_6_3_0_weblogic_all_unix.tar.gz (Linux または Solaris) アーカイブファイル全体をコンピューターに展開します。Solaris の場合は、gunzip コマンドを使用して .gz ファイルを展開します。

注 : 元の ESD ファイルのディレクトリ階層は変更しないでください。

設定されている CRX リポジトリのバージョンの識別

- 1) AEM Forms の Web コンソールを開きます。デフォルトの URL は `http://[port]:[server]/lc/system/console/bundles` です。
- 2) ステータスメニューを開いてから、Sling 設定オプションをクリックします。
- 3) 実行モードプロパティの値を確認します。実行モードプロパティの 2 番目の値は、CRX リポジトリのバージョンを指定します。例えば、次の実行モードでは、リポジトリのバージョンは CRX3 です。

```
Run Modes = [livecycle, crx3, author, samplecontent, crx3tar]
```

3.2. インストールに関する考慮事項

3.2.1. インストールパス

正常にインストールするには、インストールディレクトリに対する読み取り、書き込みおよび実行権限が必要です。インストールパスについては、以下も考慮してください。

- JEE 上の AEM Forms をインストールするときに、インストールパスに 2 バイト文字または拡張ラテン文字（àâçéèëëïïôùûÄÖÛ など）を使用しないでください。
- Windows では、JEE 上の AEM Forms インストールディレクトリのパスには、非 ASCII 文字（例えば、é や ñ などのインターナショナル文字）を使用しないでください。
- UNIX 系のシステムでは、モジュールを正常にインストールするため、ルートユーザーでログインする必要があります。ルートユーザー以外でログインした場合は、権限（読み取り、書き込み、実行の権限）を持っている別のディレクトリにインストール先を変更してください。
- Windows に JEE 上の AEM Forms をインストールするには、管理者権限が必要です。

3.2.2. 一時ディレクトリ

一時ファイルは、一時ディレクトリに生成されます。生成された一時ファイルが、インストーラーの終了後も残る場合があります。これらのファイルは手動で削除することができます。

Linux でのインストールでは、インストールプログラムにより、ログインしているユーザーのホームディレクトリがファイルを格納するための一時ディレクトリとして使用されます。そのため、次のようなメッセージがコンソールに表示される場合があります。

```
WARNING: could not delete temporary file /home/<username>/ismp001/1556006
```

インストールが完了したら、次のディレクトリから一時ファイルを手動で削除する必要があります。

- (Windows) 環境変数で設定されている TMP または TEMP パス
- (Linux または Solaris) ログインユーザーのホームディレクトリ

UNIX 系のシステムでは、root 以外のユーザーは次のディレクトリを一時ディレクトリとして使用できます。

- (Linux) /var/tmp または /usr/tmp
- (Solaris) /var/tmp または /usr/tmp

3.2.3. LinuxまたはUNIXにインストールするためのWindowsステージングプラットフォームへのインストール

Linux または UNIX プラットフォームにデプロイするために、JEE 上の AEM Forms を Windows にインストールして設定することができます。この機能を使用して、ロックダウンされた Linux または UNIX 環境にインストールできます。ロックダウンされた環境にはグラフィカルユーザーインターフェイスはインストールされていません。Linux または UNIX プラットフォームの場合、インストールプログラムにより、Configuration Manager で製品を設定するために使用されるバイナリがインストールされます。

その後、Windows を実行するコンピューターを、デプロイ可能なオブジェクトのステージング場所として使用できます。これらのオブジェクトは、アプリケーションサーバーへのデプロイメント用に Linux または UNIX コンピューターにコピーできます。Windows ベースのコンピューター上のアプリケーションサーバーと、JEE 上の AEM Forms をインストールする Linux または UNIX ターゲットコンピューターは、同じである必要があります。

3.2.4. インストールに関する一般的な注意

- Windows の場合は、インストール中にオンアクセスウイルススキャンソフトウェアを無効にすることにより、インストールに要する時間が短縮されます。詳しくは、「[AEM Forms が稼働しているサーバーでのウイルス対策ソフトウェアの使用](#)」を参照してください。
- UNIX 系のシステムにインストールするが、リリース DVD からは直接インストールしない場合は、インストールファイルに実行権限を設定します。
- デプロイメントの際に権限の問題を回避するため、アプリケーションサーバーを実行する場合と同じユーザーで、JEE 上の AEM Forms インストーラーおよび Configuration Manager を実行してください。
- UNIX 系コンピューターにインストールする場合は、指定するインストールディレクトリ名にスペースを含めないでください。
- インストール中にエラーが発生した場合は、インストールプログラムで install.log ファイルが作成され、エラーメッセージが記録されます。このログファイルは、[aem-forms root]/log ディレクトリに作成されます。

3.3. JEE 上の AEM Forms のインストール

- 1) インストールプログラムを起動します。
 - (Windows) インストールメディア上、またはインストーラーをコピーしたハードディスク上のフォルダーの¥server¥Disk1¥InstData¥Windows_64¥VM ディレクトリに移動します。install.exe ファイルを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。
 - (Windows 以外) 適切なディレクトリに移動して、コマンドプロンプトで ./install.bin と入力します。
 - (Linux) /server/Disk1/InstData/Linux/NoVM
 - (Solaris) /server/Disk1/InstData/Solaris/NoVM
- 2) プロンプトが表示されたら、インストールプログラムで使用する言語を選択して、「OK」をクリックします。
- 3) ようこそ画面で「次へ」をクリックします。
- 4) インストーラーを実行するコンピューターに、以前のバージョンがインストールされている場合は、アップグレードの準備画面が表示されます。

注：新しいコンピューターでアウトオブプレースアップグレードを実行する場合は、この画面は表示されません。

- 現在のインストールを JEE 上の AEM Forms にアップグレードするには：

オペレーティングシステムを変更せずに、同じコンピューター上でインプレースアップグレードまたはアウトオブプレースアップグレードを実行する場合に、このオプションを選択します。インストールプログラムは、JEE 上の AEM Forms にアップグレードするためのデータを既存のインストールから準備します。

- **Adobe Experience Manager Forms** をインストールするには：JEE 上の AEM Forms を新規にインストールします。

「次へ」を選択して、続行します。

- 5) インストールフォルダーを選択画面で、デフォルトのディレクトリをそのまま使用するか、「選択」をクリックして JEE 上の AEM Forms のインストールのインストール先ディレクトリに移動してから、「次へ」をクリックします。存在しないディレクトリの名前を入力すると、そのディレクトリが作成されます。

「デフォルトのフォルダーに戻す」をクリックすると、デフォルトのディレクトリパスに戻すことができます。

注：AEM 6.1 Forms および AEM 6.2 Forms のデフォルトのインストールディレクトリでは、同一の名前を使用します。AEM 6.1 Forms または AEM 6.2 Forms から AEM 6.3 Forms にアップグレードするには、ディレクトリの名前を変更するか、別の場所に AEM 6.3 Forms をインストールします。

- 6) **(Windows のみ)** 手動インストールオプション画面で、目的のデプロイメントオプションを選択し、「次へ」をクリックします。
 - **Windows (ローカル)**：ローカルサーバーに JEE 上の AEM Forms をインストールおよびデプロイする場合は、このオプションを選択してください。

- リモート（下記のリモートオペレーティングシステムを対象とする）：デプロイメント用のステージングプラットフォームとして Windows を使用する場合は、このオプションを選択します。その後、リモートサーバー上のターゲットオペレーティングシステムを選択します。Windows 上でインストールを行っている場合でも、デプロイメント対象として UNIX オペレーティングシステムを選択できます（[Linux または UNIX にインストールするための Windows ステージングプラットフォームへのインストール](#)を参照）。

注：保護されたデータソースが WebLogic で使用されている場合、adobe-lifecycle-weblogic.ear ファイルは、リモートマシンにデプロイできません。詳しくは、この [Technote](#) を参照してください。

- 7) JEE 上の AEM Forms の使用許諾契約書を読み、「同意します」を選択して使用許諾契約書の条件に同意し、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書に同意しない場合は、操作を継続することはできません。
- 8) プリインストールの概要画面で、詳細を確認して「インストール」をクリックします。インストールプログラムによりインストールの進行状況が表示されます。
- 9) リリースノートの情報を確認して「次へ」をクリックします。
- 10) インストール完了画面の詳細情報を確認します。
- 11) 「**Configuration Manager を起動**」チェックボックスはデフォルトで選択されています。「完了」をクリックして Configuration Manager を実行します。

Connectors for ECM をアップグレードする場合は、「**Configuration Manager を起動**」の選択を解除して「完了」をクリックし、「アップグレードのための Connectors for EMC の準備」に移動してください。

3.4. アップグレードのための Connectors for ECM の準備

Connectors for ECM を以前のバージョンから AEM 6.3 Forms にアップグレードするには、AEM 6.3 Forms をインストールした後、Configuration Manager を起動してアップグレードプロセスを完了する前に、アプリケーションサーバーシステムを設定します。

AEM 6.3 Forms にアップグレードするには、次の 2 つの方法があります。

- インプレース：AEM 6.1 Forms または AEM 6.2 Forms をホストする既存のアプリケーションサーバーで実行。
- アウトオブプレース：既存のアプリケーションサーバーの新しいバージョンで実行、または物理的に別のコンピュータで実行。

3.4.1. アウトオブプレースアップグレードのための Connectors for ECM の準備

このタスクは、新しいコンピューターまたは新しいアプリケーションサーバーインスタンスに移行する場合のアウトオブプレースアップグレードが必要です。

注：新しいコンピューターでアップグレードを実行しない場合は、手順2に進みます。

- 1) (新しいコンピューターへのアウトオブプレースアップグレードのみ) 新しいアプリケーションサーバーをホストする Forms サーバーに ECM リポジトリのクライアントをインストールします。
- 2) アップグレードを開始する前に、新しいアプリケーションサーバーで Connectors for ECM に関連するすべての設定（管理コンソールの設定は除きます）を実行します。構成にあわせて、「Connector for EMC Documentum の設定」、「Connector for IBM FileNet サービスの設定」、「Connector for IBM Content Manager の設定」を参照してください。
- 3) 現在の LiveCycle または AEM Forms サーバーの [appserverdomain] ディレクトリに移動し、ターゲットサーバーの適切なディレクトリに adobe-component-ext.properties ファイルをコピーします。
- 4) アプリケーションサーバーを再起動します。

重要：Connector for EMC Documentum または Connector for IBM FileNet の場合、デフォルトのリポジトリプロバイダーをリポジトリプロバイダーに設定する必要があります。そうでない場合は、アップグレードデプロイメントが失敗します。これらのコネクタのいずれかに対して、ECM リポジトリプロバイダーをデフォルトのリポジトリプロバイダーとして設定した場合、管理コンソールを開き、サービス／LiveCycle [connector type]／設定に移動します。「リポジトリプロバイダー」オプションを選択し、「保存」をクリックします。

これで、Configuration Manager を実行して、アップグレードを続行することができます。

3.5. 次の手順

ここで、JEE 上の AEM Forms をデプロイするための設定をする必要があります。[aem-forms root]\configurationManager\bin にある ConfigurationManager.bat ファイルまたは ConfigurationManager.sh ファイルを使用して、Configuration Manager を後で実行することもできます。

4. JEE 上の AEM Forms をデプロイするための設定

4.1. JEE 上の AEM Forms の設定とデプロイの際の考慮事項

4.1.1. 一般的な考慮事項

- 設定では、データベースの JDBC ドライバーの場所を指定する必要があります。Oracle および SQL Server のドライバーは、[aem-forms root]/lib/db/[database] ディレクトリにあります。IBM Web サイトから IBM DB2 ドライバーをダウンロードできます。サポート対象のドライバーのバージョンとダウンロード場所についての完全なリストは、「[サポートされているプラットフォームの組み合わせ](#)」を参照してください。
- 一時ディレクトリ：ローカルディレクトリを一時ディレクトリとして使用することをお勧めします。一時ディレクトリはクラスターのすべてのノード上に存在していなければならない、かつ一時ディレクトリのパスはクラスターのすべてのノードで同じでなければなりません。
- 既存のインストールと同じオペレーティングシステム上でアップグレードする場合、Configuration Manager で既存の GDS の場所を指定できます。ディレクトリを変更する場合は、Configuration Manager の JEE 上の AEM Forms を設定（4/5）の手順を実行する前に、既存の GDS ディレクトリの内容を新しい場所にコピーします。
- 既存のインストールと同じオペレーティングシステム上でアップグレードする場合、Configuration Manager で既存の CRX リポジトリの場所を指定できます。ディレクトリを変更する場合は、Configuration Manager の JEE 上の AEM Forms を設定（4/5）の手順を実行する前に、既存の CRX リポジトリの内容を新しい場所にコピーします。
- クラスター環境では、Configuration Manager が行う自動設定に加えて、いくつかの手順を手動で実行する必要があります。

4.1.2. Configuration Manager の CLI バージョンと GUI バージョンの比較

この項では、Configuration Manager の GUI バージョンについて説明します。コマンドラインインターフェイス (CLI) バージョンの使用については、「[付録 - Configuration Manager コマンドラインインターフェイス](#)」を参照してください。

設定タスク	Configuration Manager GUI	Configuration Manager CLI	手動
JEE 上の AEM Forms の設定	Yes	Yes	No
アプリケーションサーバーを設定します WebLogic および WebSphere アプリケーションサーバーのみが、Configuration Manager を使用して設定できます。	Yes	はい	はい
(WebLogic のみ) JDBC モジュールを JEE 上の AEM Forms EAR にパッケージ	はい	いいえ	Yes
アプリケーションサーバーの設定を検証 WebLogic および WebSphere アプリケーションサーバーのみが、Configuration Manager を使用して検証できます。	Yes	はい	Yes

設定タスク	Configuration Manager GUI	Configuration Manager CLI	手動
JEE 上の AEM Forms EAR のデプロイ JEE 上の AEM Forms EAR は、WebLogic および WebSphere アプリケーションサーバーでのみ、Configuration Manager を使用してデプロイできます。	Yes	はい	Yes
JEE 上の AEM Forms データベースの初期化	Yes	Yes	No
JEE 上の AEM Forms Server 接続の検証	Yes	Yes	No
JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイ	Yes	Yes	No
JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイの検証	Yes	はい	Yes
JEE 上の AEM Forms コンポーネントの設定	Yes	はい	はい

4.1.3. WebLogic アプリケーションサーバーの考慮事項

- Configuration Manager を使用して、アプリケーションサーバーの設定またはアプリケーションサーバーへのデプロイを行う場合は、Configuration Manager を実行する前に、そのアプリケーションサーバーを手動で起動しておく必要があります。別のコンピューターにインストールされているアプリケーションサーバーを設定することもできます。
- デュアルスタックマシン (IPV6 と IPV4 をサポート) 上で Configuration Manager を実行する前に、Administration Server、Node Manager および管理対象サーバーのリスンアドレスの割り当てが完了していることを確認します。この操作を行っていない場合は、リスンアドレスを割り当てた後、それぞれを再起動します。詳しくは、「WebLogic Server の設定」節を参照してください。
- データソースを保護するには、「JDBC モジュールを JEE 上の AEM Forms EAR にパッケージ (データソースをセキュリティで保護)」を選択します。

注：XML フォームを処理するために JEE 上の AEM Forms の実装が必要な場合は、このタスクを選択しないでください。代わりに、Technote (http://kb2.adobe.com/jp/cps/844/cpsid_84435.html) の手順を実行して、WebLogic アプリケーションサーバーの JNDI アーティファクトへのアクセスを保護します。

- Configuration Manager では、カスタムファイル名を持つ EAR ファイルのデプロイまたはデプロイ解除をサポートしていません。EAR ファイルがカスタムファイル名を使用している場合は、アプリケーションサーバーに対して手動でデプロイまたはデプロイ解除する必要があります。
- アップグレードされた環境で同じ WebLogic アプリケーションサーバーインスタンスを使用している場合、最初にアプリケーションサーバーから既存の EAR ファイルのデプロイを手動で解除する必要があります。
- リモートアプリケーションサーバーを設定する場合は、そのアプリケーションサーバーのライブラリファイルを Configuration Manager で使用できるようにするため、Configuration Manager を実行しているコンピューターにもアプリケーションサーバーをインストールしてください。

4.1.4. JEE 上の AEM Forms Server クラスター設定時の考慮事項

- クラスター内の各ノードで、同じパスにローカルサーバーフォントとカスタムフォントのディレクトリを配置することをお勧めします。ローカルフォントディレクトリの代わりに共有フォントディレクトリを使用すると、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

4.1.5. リポジトリのアップグレード時の考慮事項

以前のバージョンで crx-repository をインストールして設定している場合は、次の手順を実行します。

- [CRX_home] フォルダのバックアップを作成します。リレーショナルデータベースまたは MongoDB を使用している場合は、データベースの完全バックアップを作成します。
- CRX から OAK への移行ユーティリティをダウンロードして解凍します。ユーティリティは <https://repo.adobe.com/jp/nexus/content/groups/public/com/adobe/granite/crx2oak/1.6.8/> から入手できます。

4.2. アップグレードのための事前設定タスク

- 1) インストールプログラムで Configuration Manager が自動的に起動しなかった場合は、[aem_forms root]/configurationManager/bin ディレクトリに移動し、ConfigurationManager.bat/sh スクリプトを実行します。
- 2) 言語を選択するよう求められた場合は、選択して「OK」をクリックします。
- 3) 既存の設定データを使用するよう求められた場合は、「OK」をクリックします。
- 4) ようこそ画面で「次へ」をクリックします。
- 5) アップグレードタスクの選択画面で、既存のインストールから AEM 6.3 Forms にアップグレードするための適切なオプションを選択します。「次へ」をクリックして、続行します。
- 6) モジュール画面で、設定してデプロイするモジュールを選択し、「次へ」をクリックします。

注：既存のシステム上のモジュールと同じかそれ以上の数のモジュールをインストールおよびデプロイする必要があります。

注：適切な設定と機能のために、一部のモジュールは他のモジュールとのテクニカルな依存関係をもちます。相互依存するモジュールが選択されていない場合、Configuration Manager はダイアログを表示し、それより先の操作はできなくなります。

- AEM Forms では、Adaptive Forms、Correspondence Management、HTML5 Forms、Forms Portal、HTML Workspace、Process Reporting、OSGi 上の Forms 中心ワークフローの各機能で crx-repository が使用されます。これらの機能を使用する予定がある場合、crx-repository は必要になります。
 - AEM Forms Document Security を使用する場合、crx-repository は必要ありません。
- 7) タスク選択画面で、実行するタスクを選択し、「次へ」をクリックします。

注：アップグレード時に、「AEM Forms データベースを初期化」オプションを選択する必要があります。また、アップグレードに関する問題を回避するため、すべてのタスクをスキップせずに連続して実行する必要があります。

- 8) インプレースアップグレードとアウトオブプレースアップグレード画面で情報を参照し、すべての前提条件が実行されていることを確認して、「次へ」をクリックします。
- 9) アップグレード前のステップ画面またはアップグレード前のステップ（続き）画面で要件を確認し、ご使用の環境に関連するすべてのタスクを実行して、「次へ」をクリックします。
- 10) (同じコンピューター上でのアウトオブプレースアップグレードのみ) 以前のシャットダウン画面では、既存のアプリケーションサーバーを停止する必要があることが示されます。「次へ」をクリックします。

4.3. JEE 上の AEM Forms の設定とデプロイ

4.3.1. Adobe Experience Manager Forms を設定

- 1) Adobe Experience Manager Forms を設定 (1/5) 画面で、「設定」をクリックし、完了後に「次へ」をクリックします。
- 2) Adobe Experience Manager Forms を設定 (2/5) 画面で、「次へ」をクリックしてデフォルトのディレクトリをそのまま使用するか、「参照」をクリックして Adobe Experience Manager Forms がフォントへのアクセスに使用するディレクトリに移動して選択します。その後で「次へ」をクリックします。

ヒント：この画面上の値を変更するには、「設定を編集」をクリックします。このボタンは、Configuration Manager を最初に実行したときには使用できませんが、2 回目およびそれ以降の実行では使用できるようになります。

- (オプション)「**Adobe** サーバーフォントディレクトリ」のデフォルトの場所を変更するには、パスを入力するか、ディレクトリを参照します。
- 「カスタマーフォントディレクトリ」のデフォルトの場所を変更するには、「参照」をクリックするか、カスタマーフォントの新しい場所を指定します。

注：アドビシステムズ社以外が提供しているフォントを使用するユーザーの権利は、それらのフォントを所有する会社が提供する使用許諾契約書に拘束されるもので、アドビソフトウェアを使用するための使用許諾契約書は適用されません。アドビシステムズ社以外が提供しているフォントをアドビソフトウェアで使用する前に、適用される、アドビシステムズ社以外の使用許諾契約書すべてに準拠していることを確認してください。特に、サーバー環境でフォントを使用する際は注意が必要です。

- (オプション)「システムフォントディレクトリ」のデフォルトの場所を変更するには、パスを入力するか、ディレクトリを参照します。リストにさらにディレクトリを追加するには、「追加」をクリックします。
 - (オプション) FIPS を有効にするには、「**連邦情報処理規格 (FIPS) 140-2 の暗号化を有効にします**」を選択します。このオプションは、連邦情報処理規格 (FIPS) を適用する場合にのみ選択してください。
- 3) Adobe Experience Manager Forms を設定 (3/5) 画面で、「参照」をクリックし、「一時ディレクトリの場所」を指定します。

注：一時ディレクトリがローカルファイルシステムに存在することを確認してください。Adobe Experience Manager Forms では、リモートの場所の一時ディレクトリはサポートされません。

注：一時ディレクトリを指定しない場合は、システム設定のデフォルトの一時ディレクトリが使用されます。一時ディレクトリはクラスターのすべてのノード上に存在していなければならない、かつ一時ディレクトリのパスはクラスターのすべてのノードで同じでなければなりません。

- 4) Adobe Experience Manager Forms を設定 (4/5) 画面で、「参照」をクリックして、グローバルドキュメントストレージ (GDS) ディレクトリのパスを指定し、「次」をクリックします。

注：既存の GDS ディレクトリを指定するか、その内容を新しく指定した場所にコピーする必要があります。

- 5) 永続的なドキュメントストレージを設定 (5/5) 画面で、GDS ディレクトリのほかに、永続的なドキュメントストレージのオプションを選択します。次のいずれかを選択します。

- **GDSを使用**：すべての永続的なドキュメントストレージにファイルシステムベースの GDS を使用します。このオプションでは、最高のパフォーマンスを実現し、ストレージの場所として GDS だけを使用します。
- **データベースを使用**：永続的なドキュメントや長期間有効な成果物の保存に、AEM Forms データベースを使用します。ただし、ファイルシステムベースの GDS も必要です。データベースを使用することにより、バックアップと復元の手順が簡単になります。

「設定」をクリックし、JEE 上の AEM Forms EAR にこのディレクトリ情報を設定します。設定が完了したら、「次へ」をクリックします。

4.3.2. データベースの設定

- 1) Adobe Experience Manager Forms データベース画面で、Configuration Manager がデータベースに接続できるように、Adobe Experience Manager Forms データベースのインスタンスについての情報を指定します。

「接続を検証」をクリックして、入力した情報が有効であること、および Configuration Manager がデータベースに接続できることを確認し、「次へ」をクリックして続行します。

注：上記の情報は、JEE 上の AEM Forms が接続するデータベースに適用されます。このデータベースには、以前のバージョンの既存のデータベース（サポートされている場合）、または設定済みで既存のデータが移行されている新しいデータベースのいずれかを使用できます。（「[JEE 上の AEM Forms へのアップグレードの準備](#)」を参照してください）。

注：上記の情報は、JEE 上の AEM Forms が接続するデータベースに適用されます。このデータベースは、設定済みで既存の LiveCycle データが移行されている新しいデータベースです。

注：JDBC ドライバーが `[aem-forms root]/lib/db/<database>` ディレクトリ内にある適切なデータベースドライバーを指定していることを確認してください。以前のバージョンがインストールされたマシン上でアップグレードを行い、これまでの設定データを再利用する場合、JDBC ドライバーは以前のインストールからの古い互換性のないドライバー JAR に事前設定されます。「データベースの種類」リストから他のデータベースを選択して、必要なデータベースを再選択してください。

4.3.3. CRX の設定

- 1) CRX 設定画面では、CRX リポジトリを設定し、それを `adobe-livecycle-cq-author.ear` EAR ファイルにインストールすることができます。

- 1) リポジトリのパスを指定します。デフォルトの場所は、`[aem-forms root]/crx-repository` です。

注：CRX レポジトリパスに空白が含まれていないことと、コンテンツレポジトリがクラスターのすべてのノードで使用できることを確認してください。設定が完了したら、コンテンツレポジトリをローカルノードから（CRX 設定画面で指定した）同じ場所にあるすべてのノードにコピーします。

- 2) アップグレードする場合は、以前のバージョンのコピー元となる `crx-repository` のパスを指定します。

3) 必要に応じてリポジトリタイプを選択し、次の点について記録します。

- CRX3 TAR は、クラスターデプロイメントではサポートされていません。
- CRX3 Mongo DB を選択する場合、Mongo データベース名とデータベースの URL を指定します。URL の形式は、`mongodb://<HOST>:<Port>` です。

HOST : MongoDB を実行しているマシンの IP アドレス。

Port : MongoDB に使用されるポート番号。デフォルトのポート番号は 27017 です。

- CRX3 RDB は、Oracle 12c または IBM DB2 10.5 データベースでのみサポートされています。このオプションを選択すると、CRX リポジトリの RDB MK (ドキュメント MK) への永続化が設定されます。

注 : すでに AEM 6.3 Forms にアップグレードされていて、モジュールの追加や削除のために Configuration Manager を実行している場合、アップグレード中に選択したオプションと CRX リポジトリタイプオプションが一致していることを確認してください。

4) 「設定」をクリックして、指定した場所に必要なレポジトリを作成します。

注 : JEE 上の AEM Forms がリモートで実行されている場合は、「**Server is running on remote host**」を選択し、リモートホスト上のリポジトリへのパスを指定します。

「次へ」をクリックして、続行します。

注 : パッケージが構成済みになると、Configuration Manager を再実行して削除することはできません。デプロイ済みパッケージをアンインストールするには、Package Manager を使用してアンインストールおよび削除する必要があります。

4.3.4. (リモートホストのみ) CRX 設定サマリー

1) リモートでデプロイする場合は、`[aem-forms root]/configurationManager/export/crx-quickstart/` ディレクトリの内容を、CRX 設定画面で指定したリモートホストの場所へコピーします。

注 : クラスター化されたデプロイメントの場合、`[aem-forms root]/configurationManager/export/crx-quickstart/` ディレクトリの内容を、すべてのクラスターノードホスト上の指定した場所にコピーする必要があります。

4.3.5. PDF Generator 用の Acrobat の設定

1) Acrobat を PDF Generator に合わせて設定画面で、「設定」をクリックして、Adobe Acrobat および必要な環境設定を設定するスクリプトを実行します。完了したら「次へ」をクリックします。

注 : この画面では、Configuration Manager がローカルで実行されている場合にのみ、必要な設定が実行されます。Adobe Acrobat DC Pro が既にインストールされている必要があります。インストールされていないと、この手順は失敗します。

4.3.6. 設定の概要

1) Adobe Experience Manager Forms の設定の概要画面で、「次へ」をクリックします。設定したアーカイブは `[aem-forms root]/configurationManager/export` ディレクトリに配置されます。

4.3.7. アプリケーションサーバーおよびデータベースの設定

- 1) アプリケーションサーバーの設定の詳細画面で、各フィールドの情報を指定して（すべてのフィールドが必須です）、「サーバー接続を検証」をクリックします。

検証が正常に完了したら、「次へ」をクリックします。

注：Administration Server および管理対象サーバーのリسنアドレスは、Weblogic 管理コンソールで指定された値に一致する必要があります。

注：WebLogic アプリケーションサーバーのサーバーインスタンス名には完全修飾ホスト名を入力する必要があります。ホスト名では大文字と小文字が区別されます。デフォルト値の localhost では動作しません。

- 2) アプリケーションサーバーの設定の選択画面で、Configuration Manager で実行するタスクを選択し、「次へ」をクリックします。
- 3) サーバー設定の設定画面（「サーバー設定を設定」を選択した場合のみ表示）で、フィールドの情報を入力し、「次へ」をクリックします。

注：LCM では、-Dadobe.cache.multicast-address 引数および -Dadobe.cache.bind-address jvm 引数を設定しません。場合によっては、これらの引数を手動で設定する必要があります。詳しくは、「サーバーの開始引数の設定」を参照してください。

- 4) データソース JDBC ドライバーのクラスパスを設定画面（「パッケージ化された JDBC モジュール」を指定して「データソースを設定」オプションを選択した場合のみ表示）で、JDBC ドライバーのパスを入力し、「次へ」をクリックします。
- 5) データソース設定画面（グローバルスコープのデータソースを指定して「データソースを設定」オプションを選択した場合のみ表示）で、フィールドの情報を指定し、「データベース接続をテスト」をクリックします。接続のテストが正常に終了したら、「次へ」をクリックします。必要な情報について詳しくは、F1 キーを押してください。

データソースは、Configuration Manager で自動的に設定する代わりに、手動で設定することもできます。自動データソース設定を上書きするには、画面の下で「続行する前に今すぐ手動でデータソースを設定してください」を選択します。

Configuration Manager を実行したまま、アプリケーションサーバーの管理コンソールにアクセスし、『Adobe Experience Manager Forms のインストールおよびデプロイ（WebLogic 版）』ガイドの「データベース接続の設定」の説明に従ってデータソースを設定します。

注：Weblogic クラスターでは、JDBC ドライバーのパスはクラスターのすべてのノードで同じである必要があります。

- 6) JDBC モジュールを Adobe Experience Manager Forms EAR にパッケージ（1/2）画面（「パッケージされた JDBC モジュール」オプションを指定して「データソースを設定」を選択した場合のみ表示）で、JDBC 設定の詳細情報を指定して、「データベース接続をテスト」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
- 7) JDBC モジュールを Adobe Experience Manager Forms EAR にパッケージ（2/2）画面（「パッケージされた JDBC モジュール」オプションを指定して「データソースを設定」を選択した場合のみ表示）で、WebLogic 用の暗号化されたデータベースパスワードを生成するための詳細情報を指定します。次のいずれかのオプションを使用します。

既存の WebLogic で暗号化されたパスワードを使用

データベース用に暗号化されたパスワードが既にある場合は、このオプションを選択します。WebLogic の暗号化ユーティリティを使用して、データベース接続のテスト用に前の画面で入力したパスワードを暗号化することができます。

WebLogic で暗号化されたパスワードを生成

データベース用に暗号化されたパスワードを生成し、必要な詳細を指定する場合は、このオプションを選択します。データベース接続のテスト用に前の画面で入力したプレーンテキストのパスワードが、「パスワード」フィールドに自動的に入力されます。「パスワードを暗号化」をクリックして、暗号化されたデータベースパスワードを生成します。

重要: これは、WebLogic アプリケーションサーバーによって暗号化されたデータベースパスワードであり、アプリケーションサーバーのパスワードではありません。

「設定」をクリックして、JDBC モジュールを Adobe Experience Manager Forms EAR にパッケージし、完了したら、「次へ」をクリックします。

- 8) ノードマネージャー、管理対象サーバー、および管理サーバーを再起動します。
- 9) アプリケーションサーバーの設定画面で、「設定」をクリックします。プロセスが完了したら、「次へ」をクリックします。
- 10) アプリケーションサーバーの設定の検証画面で、検証するタスクを選択し、「検証」をクリックします。プロセスが完了したら、「次へ」をクリックします。

注：JDBC モジュールが Adobe Experience Manager Forms EAR ファイルにパッケージされていると、Configuration Manager によって、アプリケーションサーバーの設定の検証中にデータソースの検証に失敗したことが報告されます。このメッセージは無視できます。

注：グローバル範囲のデータソースを使用している場合は、データソースの検証に失敗する場合があります。この場合は、WebLogic サーバーを再起動し、データソースを再び検証してください。

4.3.8. インストール検証サンプル (IVS) EAR ファイルの選択

- 1) (Forms、Output、Mobile Forms、および Assembler のみ) Adobe Experience Manager Forms インストール検証サンプル (IVS) EAR ファイル画面では、サービス用の 3 つのサンプルアプリケーションをインストールできます。これらのサンプルファイルをインストールするには、「**IVS EAR をデプロイメントセットに含めます**」を選択し、「次へ」をクリックします。

EAR ファイルが表示されます (モジュール画面で各モジュールを選択した場合のみ)。

注：IVS EAR ファイルは実稼働環境にデプロイしないでください。

4.3.9. JEE 上の AEM Forms EAR のデプロイ

- 1) (インプレースアップグレードのみ) アプリケーションサーバーから JEE 上の AEM Forms ES EAR をデプロイ解除の画面で情報を確認し、必要なタスクを実行してから、「次へ」をクリックします。
- 2) Adobe Experience Manager Forms EAR をデプロイ画面で、デプロイする EAR ファイルを選択し、「デプロイ」をクリックします。デプロイには数分かかる場合があります。デプロイメントが正常に完了したら、「次へ」をクリックします。

注：この手順の後で、必ず、管理対象サーバー、ノードマネージャー、管理サーバーを停止し、この逆の順序でそれらを起動してください。再起動した後、adobe という名前のディレクトリが [appserverdomain] に作成されていることを確認します。このことは、実行時の問題を引き起こす可能性のある [appserverdomain]/null ディレクトリが作成されないようにするために必要です。[appserverdomain]/null ディレクトリが作成された場合は、削除してください。

注：以下のエラーメッセージが表示されても、無視して AEM Forms の設定を続行してください。

```
ERROR [stderr] (http-/0.0.0.0:8080-4) com.adobe.idp.common.errors.exception.IDPException|
[com.adobe.idp.storeprovider.jdbc.DBStatement] errorCode:12552 errorCodeHEX:0x3108
```

注：サーバーを再起動する前に、AEM が起動して実行されていることを確認します。AEM が起動して実行されておらずサーバーが再起動されている場合は、リポジトリデータの破損につながるおそれがあります。次の手順を実行し、AEM が起動および実行していることを確認します。

- a) error.log ファイルでアクティビティを確認します。アクティビティが安定して、アクションが実行されていないことを確認してください。error.log ファイルのデフォルトパスは、<aem-forms_root>/crx-repository/logs/error.log です。
- b) ブラウザーウィンドウで、URL `http://[host]:[port]/lc/system/console/bundles` を開き、1 つのバンドルのみがインストール状態になっていることを確認します。
- c) サーバーを再起動します。

4.3.10. Adobe Experience Manager Forms データベースの初期化

- 1) Adobe Experience Manager Forms データベースの初期化画面で、アプリケーションサーバーに指定したホスト名とポート番号が正しいことを確認してから、「初期化」をクリックします。データベースの初期化タスクによって、データベースにテーブルが作成され、デフォルトのデータがテーブルに追加されて、データベースに基本的なロールが作成されます。初期化が正常に完了したら、「次へ」をクリックします。

注：この手順はスキップしないでください。スキップするとアップグレードが失敗します。このプロセスは既存のデータに影響しません。

指示があったら、アプリケーションサーバーを手動で再起動します。

- 2) Adobe Experience Manager Forms の情報画面で、**Adobe Experience Manager Forms** のユーザー ID とパスワードを入力します。これらのデフォルトの値はそれぞれ administrator と password です。

Adobe Experience Manager Forms にアップグレードする際には、以前の LiveCycle インストールの管理者パスワードを入力します。

「サーバー接続を検証」をクリックし、完了したら、「次へ」をクリックします。

注：サーバーの検証が失敗した場合、サーバーを再起動しますが、error.log が安定していて http://[server]:[port]/lc にアクセス可能な場合のみ再起動してください。それでも検証が失敗する場合は、サーバーをもう一度再起動してください。

注：この画面に表示されるサーバー情報はデプロイメント時のデフォルト値です。

注：この手順の後で、必ず、管理対象サーバー、ノードマネージャー、管理サーバーを停止し、この逆の順序でそれらを起動してください。再起動した後、adobe という名前のディレクトリが [appserverdomain] に作成されていることを確認します。このことは、実行時の問題を引き起こす可能性のある [appserverdomain]/null ディレクトリが作成されないようにするために必要です。[appserverdomain]/null ディレクトリが作成された場合は、削除してください。

サーバー接続の検証は、デプロイメントや検証でエラーが発生した場合に、トラブルシューティングの対象を絞り込むのに役立ちます。接続テストが正常に終了しても以降の段階でデプロイメントや検証のエラーが発生する場合は、接続の問題をトラブルシューティングのプロセスから除外できます。

注：以下のエラーメッセージが表示されても、無視して AEM Forms の設定を続行してください。

```
ERROR [stderr] (http-/0.0.0.0:8080-4) com.adobe.idp.common.errors.exception.IDPException|
[com.adobe.idp.storeprovider.jdbc.DBStatement] errorCode:12552 errorCodeHEX:0x3108
```

4.3.11. セッション ID の移行エラー

LiveCycle の古いインスタンスからセッション ID を移行中に発生したエラーを確認し、修正して、「次へ」をクリックします。これらのエラーの修正は重要です。修正しなかった場合、アップグレード後にワークフローの呼び出しが失敗する可能性があります。

4.3.12. Central Migration Bridge Service のデプロイ

- 1) Central Migration Bridge Service デプロイメント設定画面が表示される場合は、この画面で「**Central Migration Bridge Service** をデプロイメントに含める」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。

4.3.13. Adobe Experience Manager Forms コンポーネントのデプロイ

- 1) Adobe Experience Manager Forms コンポーネントのデプロイメント画面で、「デプロイ」をクリックします。ここでデプロイされるコンポーネントは、サービスのデプロイ、統合および実行を目的として JEE 上の AEM Forms に組み込まれたサービスコンテナにプラグインされる Java アーカイブファイルです。デプロイメントの進行状況を確認するには、「**進行状況ログを表示**」をクリックします。デプロイメントが正常に完了したら、「次へ」をクリックします。
- 2) Adobe Experience Manager Forms コンポーネントのデプロイメント検証画面で、「検証」をクリックします。検証の進行状況を確認するには、「**進行状況ログを表示**」をクリックします。検証が正常に完了したら、「次へ」をクリックします。

4.3.14. データの移行

- 1) Adobe Experience Manager Forms の運用に必要なデータを移行画面で、「開始」をクリックし、移行が完了したら、「次へ」をクリックします。

4.3.15. Adobe Experience Manager Forms コンポーネントの設定

- 1) Adobe Experience Manager Forms コンポーネントの設定画面で、Configuration Manager で実行するタスクを選択し、「次へ」をクリックします。

注：Connectors for ECM モジュールをアップグレードする場合は、この画面でこれらを選択しないでください。Adobe Experience Manager Forms でそのモジュールを初めてライセンスする場合にのみ、モジュールを選択し、必要に応じて次の各手順を実行します。

4.3.16. Connector for EMC® Documentum® の設定

注：リモートの JEE 上の AEM Forms デプロイメントの場合は、Configuration Manager を使って Connector for EMC Documentum を設定することはできません。

注：JEE 上の AEM Forms は、EMC Documentum バージョン 6.7 SP1 および 7.0 のマイナーアップデートのみをサポートします。ECM が適切にアップグレードされていることを確認してください。

注：コネクタ用のクライアントのインストール、JAR のファイルおよび設定変更のコピーの作業が、クラスターのすべてのノードで実行されていることを確認してください。

- 1) EMC Documentum のクライアントを指定画面で、「**Connector for EMC Documentum** コンテンツサーバーを設定します」を選択して、次の情報を指定します。詳細情報を入力して、「確認」をクリックし、完了したら、「次へ」をクリックして次に進みます。
 - **EMC Documentum** クライアントバージョンを選択：EMC Documentum コンテンツサーバーで使用するクライアントバージョンを選択します。
 - **EMC Documentum** クライアントのインストールディレクトリのパス：「参照」をクリックしてディレクトリパスを選択します。
- 2) EMC Documentum Content Server 設定を指定画面で、EMC Documentum Server の詳細情報を入力し、「次へ」をクリックします。入力する必要がある情報について詳しくは、F1 キーを押してください。
- 3) Connector for EMC Documentum を設定画面で、「**Documentum Connector** を設定」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
- 4) Connector for EMC Documentum に必要な手動設定画面で、一覧の手動による手順を確認および実行し、「次へ」をクリックします。

4.3.17. Connector for IBM®Content Manager の設定

注：リモートの JEE 上の AEM Forms デプロイメントの場合は、Configuration Manager を使って Connector for IBM Content Manager を設定することはできません。

注：AEM Forms は、IBM Content Manager をサポートしています。「[サポートされているプラットフォームの組み合わせ](#)」ドキュメントを確認して、ECM がサポートされているバージョンにアップグレードされていることを確認してください。

注：コネクタ用のクライアントのインストール、JAR のファイルおよび設定変更のコピーの作業が、クラスターのすべてのノードで実行されていることを確認してください。

- 1) IBM Content Manager のクライアントを指定画面で、「**Connector for IBM Content Manager を設定**」を選択し、「IBM Content Manager クライアントのインストールディレクトリのパス」を入力します。「**確認**」をクリックし、完了したら、「**次へ**」をクリックして次に進みます。
- 2) IBM Content Manager サーバーの設定を指定画面で、IBM Content Manager Server の詳細情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。
- 3) Connector for IBM Content Manager を設定画面で「**IBM Content Manager Connector を設定**」をクリックします。完了したら、「**次へ**」をクリックします。
- 4) Connector for IBM Content Manager に必要な手動設定画面で、一覧の手動による手順を確認および実行し、「**次へ**」をクリックします。

4.3.18. Connector for IBM®FileNet の設定

注：リモートの JEE 上の AEM Forms デプロイメントの場合は、Configuration Manager を使って Connector for IBM FileNet を設定することはできません。

注：AEM Forms は、IBM FileNet のバージョン 5.0 および 5.2 のみをサポートしています。ECM が適切にアップグレードされていることを確認してください。

注：コネクタ用のクライアントのインストール、JAR のファイルおよび設定変更のコピーの作業が、クラスターのすべてのノードで実行されていることを確認してください。

- 1) IBM FileNet のクライアントを指定画面で、「**Client for IBM FileNet Content Manager を指定**」を選択し、次の設定を指定します。
 - **IBM FileNet クライアントのバージョンを選択**：IBM FileNet Content Server で使用するクライアントバージョンを選択します。
 - **IBM FileNet クライアントのインストールディレクトリのパス**：「**参照**」をクリックしてディレクトリパスを選択します。

注：IBM FileNet クライアントを含むディレクトリ名に、ハイフン (-)、下線 (_)、カンマ (,)、ドット (.) などの特殊文字がある場合は、IBM FileNet の検証に失敗する場合があります。

「**確認**」をクリックし、完了したら、「**次へ**」をクリックして次に進みます。

- 2) IBM FileNet Content Server の設定を指定画面で、必要な詳細情報を入力し、「次へ」をクリックします。詳しくは、F1 キーを押してください。
- 3) IBM FileNet Process Engine のクライアントを指定画面で、必要な詳細情報を入力し、「確認」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
- 4) IBM FileNet Process Engine サーバーの設定を指定画面で、必要な詳細情報を入力し、「次へ」をクリックします。詳しくは、F1 キーを押してください。
- 5) Connector for IBM FileNet を設定画面で、「**FileNet Connector を設定**」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
- 6) Connector for IBM FileNet に必要な手動設定画面で、一覧の手動による手順を確認および実行し、「次へ」をクリックします。

注：jass.conf.WSI ファイルへのパスに空白が含まれていると、サーバーは開始できません。この場合は、このファイルを別の場所にコピーして、パスに空白が含まれないようにしてください。

4.3.19. Connector for Microsoft®SharePoint® の設定

注：リモートの JEE 上の AEM Forms デプロイメントの場合は、Configuration Manager を使って Microsoft SharePoint のコネクタを設定することはできません。

Adobe Experience Manager Forms Connector for Microsoft SharePoint を設定画面で、次のいずれかのタスクを実行します。

- 後で Microsoft Sharepoint を手動設定するには、「**Adobe Experience Manager Forms Connector for Microsoft SharePoint を設定**」オプションの選択を解除し、「次へ」をクリックします。
- 「**Adobe Experience Manager Forms Connector for Microsoft SharePoint を設定**」オプションを選択したままにします。必要な値を入力し、「SharePoint Connector を設定」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。

注：Administration Console を使用して後で Connector for Microsoft SharePoint を設定する場合は、この手順をスキップできます。

4.3.20. ネイティブファイル変換のための Adobe Experience Manager Forms Server の設定

- 1) (**PDF Generator のみ**) PDF のネイティブ変換に必要な管理者のユーザー資格情報画面で、サーバーコンピューターの管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、「ユーザーを追加」をクリックします。

注：Windows Server 2012 の場合は、管理ユーザーを 1 人以上追加する必要があります。Windows Server 2012 では、追加するユーザーのユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。UAC を無効にするには、コントロールパネル/ユーザーアカウント/ユーザーアカウント制御の有効化または無効化をクリックし、「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピューターの保護に役立たせる」の選択を解除して、「OK」をクリックします。変更を適用するには、コンピューターを再起動します。

4.3.21. PDF Generator の System Readiness Test

- 1) **Document Services PDF Generator System Readiness Test** 画面で、「開始」をクリックして、システムが適切に PDF Generator を設定しているかを検証します。System Readiness Tool レポートを確認し、「次へ」をクリックします。Adobe Experience Manager Forms がリモートマシンにデプロイされている場合は、System Readiness Test が失敗します。

4.3.22. Acrobat Reader DC Extensions の設定

- 1) Adobe Experience Manager Forms Acrobat Reader DC Extensions 証明書の設定画面で、モジュールサービスをアクティブにする Acrobat Reader DC Extensions 証明書に関連付けられている詳細を指定します。

注：「管理コンソールを使用して後から設定」を選択することで、この時点ではこの手順をスキップすることもできます。デプロイメントを完了した後で、管理コンソールを使用して Acrobat Reader DC Extensions 秘密鍵証明書を設定できます。（管理コンソールにログインしたら、ホーム／設定／**Trust Store**の管理／ローカル秘密鍵証明書をクリックします）。

「設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。

4.3.23. サマリー、および次の手順

- 1) 一部の設定を有効にするには、「サーバーを再起動する必要があります」画面で、アプリケーションサーバーの再起動が必要となります。完了したら、「次へ」をクリックします。
- 2) Configuration Manager のタスクの概要リストを確認し、適切なオプションを選択します。
 - 「次の手順を開始」を選択して、JEE 上の AEM Forms ユーザーと管理インターフェイスに関する情報を表示し、JEE 上の AEM Forms の起動と使用に関する手順を説明した html ページを開きます。

注：サーバを再起動するように伝えるメッセージが画面に表示されます。すぐには再起動を行わないでください。[crx-repository]/logs/error.log に変化がなく、すべてのバンドル（署名以外）がアクティブモードであることを確認してから、サーバーを再起動します。「完了」をクリックして Configuration Manager を終了します。

5. CRX リポジトリのアップグレードとコンテンツの移行

AEM Forms の以前のリリースで構成された CRX リポジトリのコンテンツをアップグレードおよび移動するには、次のオプションがあります。

- AEM Forms 環境で CRX3 タイプのリポジトリを TARMK で実行している場合は、永続性タイプはそのまま維持しつつ既存の CRX3 リポジトリのコンテンツを AEM 6.3 Forms にアップグレードできます。CRX3 リポジトリの永続性タイプは変更できません。次のセクションで説明する手順を実行し、既存の CRX3 リポジトリのコンテンツを移行します。

[TarMK で実行されている CRX3 リポジトリのコンテンツの移行](#)

- AEM Forms 環境で CRX3 タイプのリポジトリをリレーショナルデータベースまたは MongoDB で実行している場合は、次のセクションで説明する手順を実行し、既存のコンテンツを移行します。

[RDBMK または MongoDB で実行されている CRX3 リポジトリのコンテンツの移行](#)

5.1. TarMK で実行されている CRX3 リポジトリのコンテンツの移行

次の手順を実行して、CRX リポジトリを AEM Forms TarMK にアップグレードします。

- 1) CRX から OAK への移行ユーティリティをダウンロードして解凍します。ユーティリティは <https://repo.adobe.com/jp/nexus/content/groups/public/com/adobe/granite/crx2oak/1.6.8/> から入手できます。
- 2) (Windows 以外の環境のみ) 基盤のオペレーティングシステムとして UNIX または Linux を使用している場合は、ターミナルウィンドウを開いて `crx-repository` が含まれているフォルダーに移動し、次のコマンドを実行します。

```
chmod -R 755 ../crx-repository
```

- 3) コマンドプロンプトを開いて、次のコマンドを実行します。

注：これらのコマンドをドキュメントからコマンドウィンドウにコピーすると、不要な文字やスペースがいくつか追加される場合があります。コマンドをテキストエディターにコピーして不要な文字を削除してからコマンドを実行してください。

Microsoft Windows を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

- a) `set SLING_HOME=<path of crx-repository>`

注：Configuration Manager の CRX 設定画面で指定した `crx-repository` のパスを使用します。

- b) `java -Xmx4096m -XX:MaxPermSize=2048M -jar <path_of_crx2oak_file>\crx2oak.jar --disable-mmap --load-profile segment-no-ds`

UNIX ベースのオペレーティングシステムを使用している場合は、次のコマンドを実行します。

a) `export SLING_HOME=<path of crx-repository>`

注：Configuration Manager の CRX 設定画面で指定した crx-repository のパスを使用します。

b) `java -Xmx4096m -XX:MaxPermSize=2048M -jar <path_of_crx2oak_file>/crx2oak.jar --disable-mmap --load-profile segment-no-ds`

- 4) アプリケーションサーバーを起動して、[AEM_forms root]\configurationManager\export フォルダーにある adobe-livecycle-cq-author.ear ファイルをアプリケーションサーバーにデプロイします。

注：次の手順に進む前に、ServiceEvent REGISTERED および ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが <crx-repository>/error.log ファイルに出現しなくなるまで待ちます。

- 5) [AEM_installation_directory]\crx-repository\archived-versions\[time-stamp]\fonts\fonts ディレクトリを [AEM_installation_directory]\crx-repository にコピーします。
- 6) CRXDE Lite を開き、/libs/fd/signatures/install に移動して aemfd-signatures-bootdelegated-lib-pkg パッケージを削除してから、「すべて保存」をクリックします。
- 7) AEM サーバーをシャットダウンします。
- 8) [AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\install\adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip を [aem-forms-root] 以外の任意の場所にコピーします。
- 9) 前の手順でコピーした adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip パッケージを解凍します。
- 10) core-common-pkg-[version.zip] パッケージを [extracted-adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip package]\jcr_root\etc\packages\day cq60\fd\[adobe-aemds-common-pkg-<version>.zip]\jcr_root\etc\packages\day cq60\fd から [AEM-Installation-Directory]\crx-repository\install ディレクトリにコピーします。
- 11) 次のパッケージを [AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\install から [AEM-Installation-Directory]\crx-repository\install ディレクトリにコピーします。
 - adobe-lc-forms-lccontent-pkg.zip
 - adobe-lc-landingpage-pkg.zip
 - adobe-lc-processreporting-pkg.zip
 - adobe-lc-workspace-pkg.zip
 - adobe-rightsmanagement-indexer-pkg.zip
- 12) AEM Forms を使用するには、AEM Forms アドオンパッケージ (adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip) とともに、RSA ライブラリと BouncyCastle ライブラリをインストールする必要があります。これらの委任ライブラリを起動するには、以下の手順を実行します。
 - a) [AEM installation]\crx-repository\conf\にある sling.properties を開いて編集します。[AEM_installation_directory]\crx-repository\bin\start.bat を使用して AEM を起動する場合は、[AEM_installation_directory]\crx-repository\にある sling.properties を編集します。
 - b) 以下のプロパティを sling.properties ファイルに追加します。

```
sling.bootdelegation.class.com.rsa.jsafe.provider.JsafeJCE=com.rsa.*sling.bootdelegation.class.org.bouncycastle.jce.provider.BouncyCastleProvider=org.bouncycastle.*
```

- c) ファイルを保存して閉じます。AEM サーバーを起動します。

注：次の手順を実行する前に、ServiceEvent REGISTERED メッセージと ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが <crx-repository>/error.log ファイルに表示されなくなり、このログファイルが安定した状態になるまで待ちます。

- 13) パッケージマネージャーを使用して、[AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\installにある AEM Forms アドオンパッケージ (adobe-aemfd-[Operating-System]-pkg.zip) をインストールします。

注：パッケージのインストールが完了したら、AEM インスタンスを再起動するよう指示されます。その際、すぐにサーバーを停止しないでください。AEM Forms サーバーを停止する前に、ServiceEvent REGISTERED メッセージと ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが <crx-repository>/error.log ファイルに表示されなくなり、このログファイルが安定した状態になるまで待ちます。また、次の3つのパッケージがインストールされたままになる可能性があることに注意してください。これらのパッケージの状態は無視しても問題ありません。

- Adobe Correspondence Management Migration
- Adobe LiveCycle FormsManager Core
- Forms Common Service

- 14) AEM インスタンスを停止して、次のファイルを削除します。

- [AEM_Installation_Directory]\[crx-repository]\launchpad\ext\bcmail-jdk15-1.35
- [AEM_Installation_Directory]\[crx-repository]\launchpad\ext\bcprov-jdk15-1.35

- 15) AEM サーバーを起動します。

CRX リポジトリのコンテンツは移行されます。

5.2. RDBMKまたはMongoDBで実行されているCRX3リポジトリのコンテンツの移行

- 1) .configまたは.config ファイルを除き、[crx-repository]\install ディレクトリのその他すべてのコンテンツを削除します。
- 2) [crx-repository]\launchpad フォルダーに移動して、次のファイルとフォルダーを削除します。
 - \crx-repository\launchpad\startup
 - \crx-repository\launchpad\org.apache.sling.launchpad.base*.jar
 - \crx-repository\launchpad\sling.properties
 - \crx-repository\launchpad\sling_bootstrap.txt
- 3) [AEM_forms root]\configurationManager\export フォルダーに移動して、adobe-lifecycle-cq-author.ear ファイルを見つけます。
- 4) adobe-lifecycle-cq-author.ear ファイルをアプリケーションサーバーにデプロイします。
- 5) [AEM_installation_directory]\crx-repository\archived-versions\[time-stamp]\fonts\fonts ディレクトリを [AEM_installation_directory]\crx-repository にコピーします。
- 6) CRXDE Lite を開き、/libs/fd/signatures/install に移動して aemfd-signatures-bootdelegated-lib-pkg パッケージを削除してから、「すべて保存」をクリックします。
- 7) AEM サーバーをシャットダウンします。
- 8) [AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\install\adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip を [aem-forms-root] 以外の任意の場所にコピーします。
- 9) 前の手順でコピーした adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip パッケージを解凍します。
- 10) core-common-pkg-[version.zip] パッケージを [extracted-adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip-package]\jcr_root\etc\packages\day\cq60\fd\[adobe-aemds-common-pkg-<version>.zip]\jcr_root\etc\packages\day\cq60\fd から [AEM-Installation-Directory]\crx-repository\install ディレクトリにコピーします。
- 11) 次のパッケージを [AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\install から [AEM-Installation-Directory]\crx-repository\install ディレクトリにコピーします。
 - adobe-lc-forms-lccontent-pkg.zip
 - adobe-lc-landingpage-pkg.zip
 - adobe-lc-processreporting-pkg.zip
 - adobe-lc-workspace-pkg.zip
 - adobe-rightsmanagement-indexer-pkg.zip

- 12) AEM Formsを使用するには、AEM Forms アドオンパッケージ (adobe-aemfd-[Operating System]-pkg.zip) とともに、RSA ライブラリと BouncyCastle ライブラリをインストールする必要があります。これらの委任ライブラリを起動するには、以下の手順を実行します。

- a) [AEM installation]\crx-repository\conf\にある sling.properties を開いて編集します。[AEM_installation_directory]\crx-repository\bin\start.bat を使用して AEM を起動する場合は、[AEM_installation_directory]\crx-repository\にある sling.properties を編集します。
- b) 以下のプロパティを sling.properties ファイルに追加します。

```
sling.bootdelegation.class.com.rsa.jsafe.provider.JsafeJCE=com.rsa.*sling.bootdelegation.class.org.bouncycastle.jce.provider.BouncyCastleProvider=org.bouncycastle.*
```

- c) ファイルを保存して閉じます。AEM サーバーを起動します。

注：次の手順を実行する前に、ServiceEvent REGISTERED メッセージと ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが <crx-repository>/error.log ファイルに表示されなくなり、このログファイルが安定した状態になるまで待ちます。

- 13) パッケージマネージャーを使用して、[AEM-Installation-Directory]\configurationManager\export\crx-quickstart\installにある AEM Forms アドオンパッケージ (adobe-aemfd-[Operating-System]-pkg.zip) をインストールします。

注：パッケージのインストールが完了したら、AEM インスタンスを再起動するよう指示されます。その際、すぐにサーバーを停止しないでください。AEM Forms サーバーを停止する前に、ServiceEvent REGISTERED メッセージと ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが <crx-repository>/error.log ファイルに表示されなくなり、このログファイルが安定した状態になるまで待ちます。また、次の3つのパッケージがインストールされたままになる可能性があることに注意してください。これらのパッケージの状態は無視しても問題ありません。

- Adobe Correspondence Management Migration
- Adobe LiveCycle FormsManager Core
- Forms Common Service

- 14) AEM インスタンスを停止して、次のファイルを削除します。

- [AEM_Installation_Directory]\[crx-repository]\launchpad\ext\bcmail-jdk15-1.35
- [AEM_Installation_Directory]\[crx-repository]\launchpad\ext\bcprov-jdk15-1.35

- 15) AEM サーバーを起動します。

6. デプロイメント後のタスク

6.1. 一般的なタスク

アップグレード準備の一部として、アップグレードプロセスを開始する前に、サーバーをメンテナンスモードにします。次に、アップグレードされた AEM Forms サーバーのメンテナンスモードを無効にしてから、その他のデプロイ後のタスクを実行します。

6.1.1. JEE 上の AEM Forms がメンテナンスモードで実行中かどうかの確認

Web ブラウザーに次のように入力します。

```
http://[hostname]:[port]/dsc/servlet/DSCStartupServlet?maintenanceMode=
=isPaused&user=[administrator username]&password=[password]
```

ブラウザーウィンドウにステータスが表示されます。「true」のステータスはサーバーがメンテナンスモードで動作中であることを示し、「false」のステータスはサーバーがメンテナンスモードではないことを示します。

注：アップグレード前に以前のバージョンをメンテナンスモードに変更していた場合にのみ、「true」を返します。

6.1.2. メンテナンスモードのオフ

注：アップグレード前に以前のバージョンをメンテナンスモードに変更していた場合にのみ適用されます。

Web ブラウザーに次のように入力します。

```
http://[hostname]:[port]/dsc/servlet/DSCStartupServlet?maintenanceMode=
=resume&user=[administrator username]&password=[password]
```

ブラウザーウィンドウに「実行中」のメッセージが表示されます。

6.1.3. シリアル化エージェントの設定

AEM Forms を使用するには、`sun.util.calendar` パッケージをホワイトリストに登録する必要があります。このパッケージをホワイトリストに追加するには、以下の手順を実行します。

- 1) ブラウザーウィンドウで Web コンソールを開きます。デフォルトの URL は `http://[server]:[port]/system/console/configMgr` です。
- 2) デシリアライゼーションファイアウォール設定を検索して開きます。
- 3) ホワイトリストフィールドで `sun.util.calendar` パッケージを追加して「保存」をクリックします。

6.1.4. 正しい日付、時刻およびタイムゾーンの設定

JEE 上の AEM Forms 環境に接続するすべてのサーバーで正しい日付、時刻およびタイムゾーンを設定することで、時間に依存するモジュール（Digital Signatures や Acrobat Reader DC Extensions など）が正常に機能するようになります。例えば、未来の時間に作成された署名は、有効になりません。

同期を必要とするサーバーは、データベースサーバー、LDAPサーバー、HTTPサーバーおよびJ2EEサーバーです。

6.1.5. システムイメージバックアップの実行

実稼働環境に JEE 上の AEM Forms をインストールおよびデプロイした後、このシステムを稼働する前に、JEE 上の AEM Forms を実装したサーバーのシステムイメージバックアップを実行することをお勧めします。CRX リポジトリのバックアップもとってください。

このバックアップには、JEE 上の AEM Forms データベース、GDS ディレクトリ、コンテンツ保存場所のルートディレクトリ（非推奨）およびアプリケーションサーバーを含める必要があります。これは、ハードドライブまたはコンピューター全体の機能が停止した場合に、コンピューターの内容を復元するのに使用できる完全なシステムバックアップです。[管理ヘルプ](#)の「JEE 上の AEM Forms バックアップと回復」トピックを参照してください。

6.1.6. クライアント SDK の URL とポート番号の設定

CRX リポジトリをインストールしている場合にのみ、次の手順を実行します。

AEM Forms クライアント SDK (CSDK) のデフォルトの URL は、`http://localhost:8080` です。デフォルトの URL を現在お使いの AEM Forms 環境の URL に変更してください。現在の URL は、AEM Configuration Manager と CRX リポジトリ間で有効化され、認証されている必要があります。

- 1) ブラウザーウィンドウで Configuration Manager の URL (`http://<server>:<port>/lc/system/console/configMgr`) を開きます。
- 2) 編集のため、Adobe LiveCycle Client SDK Configuration サービスを探して開きます。
- 3) 「サーバー URL」フィールドで、現在お使いの AEM Forms 環境の URL を指定し、「保存」をクリックします。

6.1.7. 委任 RSA ライブラリと委任 BouncyCastle ライブラリの起動

CRX リポジトリをインストールしている場合にのみ、次の手順を実行します。

AEM Forms を使用するには、AEM Forms アドオンパッケージとともに、RSA ライブラリと BouncyCastle ライブラリをインストールする必要があります。これらの委任ライブラリを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1) AEM インスタンスを停止します。
- 2) `[AEM installation directory]\crx-repository\launchpad\` フォルダーに移動して `sling.properties` ファイルを開いて編集します。
- 3) 以下のプロパティを `sling.properties` ファイルに追加します。

```
sling.bootdelegation.class.com.rsa.jsafe.provider.JsafeJCE=com.rsa.*sling.bootdelegation.class.org.bouncycastle.jce.provider.BouncyCastleProvider=org.bouncycastle.*
```

- 4) ファイルを保存して閉じます。AEM インスタンスを再起動します。

注：AEM Forms サーバーを再起動する前に、ServiceEvent REGISTERED メッセージと ServiceEvent UNREGISTERED メッセージが `<crx-repository>/error.log` ファイルに表示されなくなり、このログファイルが安定した状態になるまで待ちます。

6.1.8. アプリケーションサーバーの再起動

JEE 上の AEM Forms を初めてデプロイする際、サーバーはデプロイメントモードになっています。このモードでは、ほとんどのモジュールがメモリ内に置かれます。このため、メモリの消費量が大きく、サーバーは実稼働に適した状態ではありません。アプリケーションサーバーを再起動して、サーバーをクリーンな状態に戻す必要があります。

注：JEE 上の AEM Forms サーバーをアップグレードする場合は、アプリケーションサーバーを再起動する前に、シングルサーバーインストールでは `[Jboss_root]\standalone\tmp` フォルダ、またはクラスターベースのインストールでは `[Jboss_root]\domain\servers<server name>\tmp` フォルダを必ず削除するようにしてください。

6.1.9. デプロイメントの確認

Administration Console にログインして、デプロイメントを確認できます。正常にログインできる場合は、JEE 上の AEM Forms がアプリケーションサーバーで実行されており、データベースにデフォルトのユーザーが作成されていることを意味します。CRX レポジトリデプロイメントを検証するには、CRX ようこそページにアクセスします。

アプリケーションサーバーのログファイルを確認して、コンポーネントが正しくデプロイされたことを確認したり、発生する可能性のあるデプロイメントの問題の原因を特定したりすることができます。

Administration Console へのアクセス

アップグレードした場合は、以前のインストールと同じ管理者ユーザー名およびパスワードを入力します。

- 1) Web ブラウザーに次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/adminui`

例：`http://localhost:8001/adminui`

注：WebLogic Server のデフォルトポート番号は 7001 です。新しい管理対象サーバーを作成した場合は、別のポートが設定されている可能性があります。管理対象サーバーはデフォルトのポートである 8001 を使用します。

- 2) JEE 上の AEM Forms にアップグレードした場合、以前のインストールと同じ管理者ユーザー名およびパスワードを入力します。新規インストールの場合は、デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
- 3) ログイン後、「サービス」をクリックして、サービスの管理ページにアクセスするか、「設定」をクリックして、様々なモジュールの設定を管理できるページにアクセスします。

JEE 上の AEM Forms の管理者のデフォルトパスワードの変更

JEE 上の AEM Forms では、インストール中にデフォルトユーザーを 1 つ以上作成します。これらのユーザーのパスワードは製品資料に記載され、公開されています。セキュリティ要件に応じて、このデフォルトのパスワードを変更する必要があります。

JEE 上の AEM Forms 管理者のユーザーパスワードは、デフォルトで「password」に設定されています。Administration Console / 設定 / User Management / ユーザーとグループでパスワードを変更してください。

- 1) Administration Console に administrator/password 資格情報でログインします。
- 2) 設定／**User Management**／ユーザーとグループの順に移動します。
- 3) ユーザー **Administrator** を検索します。
- 4) **Administrator** ユーザーをクリックします。
- 5) ログイン設定セクションで、パスワードの**変更**をクリックします。
- 6) 新しいパスワードを指定して、「**保存**」をクリックします。
- 7) 変更したパスワードを使って再びログインし、検証します。

OSGi Management Console へのアクセス

OSGi コンソールは、OSGi バンドルとサービス設定を管理するための手段を提供します。OSGi Management Console にアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1) Web ブラウザーに次の URL を入力します。
`http://[ホスト名]:[ポート]/lc/system/console`
- 2) CRX 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。ログイン用のデフォルトのユーザー名とパスワードは、**admin** と **admin** です（CRX 管理者と同じです）。

注：OSGi Management Console には、JEE 上の AEM Forms 管理者または AEM 上級管理者の資格情報ではログインできません。
- 3) ログインすると、さまざまなコンポーネント、サービス、バンドル、その他の設定にアクセスできます。

ログファイルの表示

実行時や起動時のエラーなどのイベントは、アプリケーションサーバーのログファイルに記録されます。アプリケーションサーバーへのデプロイ中に何らかの問題が発生した場合には、ログファイルを参照して問題を見つけることができます。ログファイルは、テキストエディターを使用して開くことができます。

次のログファイルが [appserverdomain]/servers/[managed server name]/logs ディレクトリにあります。

- - [managed server name].log
- - [managed server name].out

次の CRX ログファイルは [CRX_home]/ にあります。ログ

- error.log
- audit.log
- access.log
- request.log
- update.log

6.1.10. 作成者インスタンスと発行インスタンスの設定

CRX リポジトリをインストールおよび設定している場合にのみ、次のタスクを実行して、作成者インスタンスと発行インスタンスを設定してください。

作成者インスタンスの設定

作成者インスタンスは、JEE 上の AEM Forms サーバーに埋め込まれています。これは、作成者インスタンスの設定を更新する必要がないことを意味します。インスタンスは、JEE 上の AEM Forms インスタンスからすべての構成設定を引き継ぎます。

発行インスタンスの設定

作成者インスタンスと発行インスタンスは別々に実行する必要があります。2つのインスタンスを別々のマシンに構成することができます。

注：発行インスタンスには、クラスタートポロジは推奨されません。発行インスタンスを単独で使用するか、発行インスタンスのファームを設定します。

注：デフォルトでは、発行インスタンスは対応する作成者インスタンスと同じモードを実行するように設定されています。そのモードは、TarMK、MongoMK または RDBMK のいずれかになります。発行インスタンスを TarMK モードで実行します。

発行ノードの設定

- 1) 発行インスタンス用のアプリケーションサーバーのプロファイルを、同じマシンまたは別のマシンに新規作成します。
- 2) 作成者インスタンスで、[aem-forms root]/configurationManager/export/ ディレクトリに移動します。
- 3) adobe-lifecycle-cq-publish.ear ファイルをコピーし、手順 1 で作成したアプリケーションサーバーのプロファイルにデプロイします。
- 4) [aem-forms root]/configurationManager/export/crx-quickstart ディレクトリの内容を、発行インスタンス用のファイルサーバーにコピーします。
- 5) (作成者インスタンスが RDBMK を実行するように設定されている場合) 発行インスタンスにコピーしたインストールディレクトリから、次のファイルを削除します。
 - org.apache.jackrabbit.oak.plugins.document.DocumentNodeStoreService.cfg
 - org.apache.sling.datasource.JNDIDataSourceFactory-oak.cfg
- 6) -Dcom.adobe.livecycle.crx.home=<location for crx-repository> パラメーターを使用して、発行サーバーを起動します。ここで、<location for crx-repository> は発行インスタンス用の crx-repository ディレクトリのコピー元の場所です。例えば、cq-quickstart ディレクトリの内容を C:\CM-publish\crx-repository ディレクトリにコピーした場合、<location for crx-repository> パラメーターは Dcom.adobe.livecycle.crx.home=C:\CM-publish\crx-repository になります。

注：同じコンピューター上に作成者インスタンスと発行インスタンスが両方ある場合には、発行インスタンスを起動する際に必ず別のポートを使用するようにしてください。

重要：CRX リポジトリパスに空白が含まれていないことを確認してください。

作成者インスタンスと発行インスタンス間の通信

作成者インスタンスと発行インスタンス間の双方向通信を有効にします。

発行インスタンス URL の定義

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish.html` に移動します。
- 2) 「編集」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。
- 3) 「**Transport**」タブをクリックして、パブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。

`http://<publishHost>:<publishPort>/lc/bin/receive?sling:authRequestLogin=1`

注：ロードバランサーによって複数の発行インスタンスが管理されている場合は、URI フィールドにその URL を指定します。

- 4) 「**OK**」をクリックします。

注：別のクラスターに対しては、1つの作成者インスタンス（できればマスターインスタンス）でこれらの手順を実行する必要があります。

ActivationManagerImpl の発行インスタンス URL の定義

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/system/console/configMgr` に移動します。ログイン用のデフォルトのユーザー名とパスワードは、admin と admin です（CRX 管理者と同じです）。
- 2) 「com.adobe.livecycle.content.activate.impl.ActivationManagerImpl.name」設定の横にある「編集」アイコンをクリックします。
- 3) 「ActivationManager Publish URL」フィールドで、対応する発行インスタンスの URL を指定します。
- 4) 「保存」をクリックします。

逆複製キューの設定

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish_reverse.html` に移動します。
- 2) 「編集」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。
- 3) 「**Transport**」タブをクリックして、対応するパブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。

注：ロードバランサーによって複数の発行インスタンスが管理されている場合は、URI フィールドにその URL を指定します。

- 4) 「**OK**」をクリックします。

作成者インスタンス URL の定義

- 1) `http://<publishHost>:<publishPort>/lc/system/console/configMgr` に移動します。ログイン用のデフォルトのユーザー名とパスワードは、`admin` と `admin` です（CRX 管理者と同じです）。
- 2) 「`com.adobe.livecycle.content.activate.impl.VersionRestoreManagerImpl.name`」設定の横にある「編集」アイコンをクリックします。
- 3) 「VersionRestoreManager Author URL」フィールドで、対応する作成者インスタンスの URL を指定します。
注：ロードバランサーによって複数の作成者インスタンスが管理されている場合は、「VersionRestoreManager Author URL」フィールドにその URL を指定します。
- 4) 「保存」をクリックします。

IPv6 実装の設定

注：マシン／サーバーが1つのIPv6アドレスを使用している場合のみ、次の手順を実行します。

IPv6 アドレスをサーバーおよびクライアントコンピューターにマップするには：

- 1) `C:\Windows\System32\drivers\etc` ディレクトリを開きます。
- 2) `hosts` ファイルをテキストエディターで開きます。
- 3) IPv6 アドレスのマッピングをホスト名に追加します。例えば、以下のように行います。
`2001:1890:110b:712b:d1d:9c99:37ef:7281 <ipv6_hostname>`
- 4) ファイルを保存して閉じます。

マシンへのアクセスに IPv6 アドレスではなくマップされたホスト名が使用されていることを確認します。

Adobe Reader 用日本語フォントのインストール

ドキュメントフラグメントで日本語フォントを使用する場合は、Adobe Reader 用日本語サポートパッケージをインストールする必要があります。インストールしないと、文字やフォームのレンダリングおよび機能が正常に実行されません。言語パックをインストールするには、Adobe Reader のダウンロードページにアクセスします。

6.1.11. モジュールの Web アプリケーションへのアクセス

JEE 上の AEM Forms のデプロイ後には、次のモジュールに関連付けられた Web アプリケーションにアクセスできます。

- Acrobat Reader DC エクステンション
- ワークスペース
- HTML Workspace
- ユーザー管理

- Correspondence Management
- PDF Generator Web アプリケーション
- PDF Generator
- Document Security

デフォルトの管理者権限を使用して Web アプリケーションにアクセスし、そのアプリケーションにアクセス可能であることを確認したら、他のユーザーがログインしてアプリケーションを使用できるように追加のユーザーとロールを作成できます（[管理ヘルプ](#)を参照）。

Acrobat Reader DC 拡張 Web アプリケーションへのアクセス

注：Acrobat Reader DC Extensions 証明書を適用して、新しいユーザーのユーザーロールを適用する必要があります（管理ヘルプの「証明書を Acrobat Reader DC Extensions で使用するための設定」を参照）。

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/ReaderExtensions`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

注：ログインするには、管理者またはスーパーユーザーの権限が必要です。他のユーザーが Reader Extensions Web アプリケーションにアクセスできるようにするには、User Management でユーザーを作成し、そのユーザーに Acrobat Reader DC Extensions Web アプリケーションロールを付与する必要があります。

LiveCycle で使用される Forms Manager および Forms Portal の URL のリダイレクトの有効化

LiveCycle から AEM Forms にアップグレードすると、Forms Manager および Forms Portal の LiveCycle で使用できる URL が機能しなくなります。次の手順を実行して追加パッケージをインストールし、リダイレクトを有効にします。

- 1) パッケージマネージャを開きます。デフォルトの URL は `http:[server]:[port]/lc/crx/packmgr` です。
- 2) 「パッケージの追加」をクリックし、`[aem-forms_root]/deploy/crx` フォルダーに移動します。
- 3) 次のパッケージを選択してアップロードします。
 - `adobe-lc-formsmanager-upgrade-pkg.zip`
 - `adobe-aemds-formsportal-upgrade-pkg.zip`
- 4) 各パッケージで「インストール」をクリックします。

Workspace へのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/workspace`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

HTML ワークスペースへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/lc/ws`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

Forms Manager へのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/lc/fm`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

PDF Generator Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/pdfgui`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

Document Security へのアクセス

User Management で Document Security エンドユーザーロールのユーザーを作成し、そのユーザーに関連付けられたログイン情報を使用して Document Security の管理者またはエンドユーザーのアプリケーションにログインする必要があります。

注：デフォルトの管理者ユーザーは、Document Security エンドユーザー Web アプリケーションにはアクセスできません。ただし、このユーザーのプロファイルに必要なロールを追加できます。新しいユーザーを作成したり、既存のユーザーを修正したりするには、管理コンソールを使用します。

Document Security エンドユーザー Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/edc`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

Document Security 管理者 Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/adminui`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) サービス／**Document Security** をクリックします。

ユーザーおよびロールの設定について詳しくは、管理ヘルプを参照してください。

Document Security エンドユーザーロールの割り当て

- 1) 管理コンソールにログインします（「管理コンソールへのアクセス」を参照してください。）
- 2) 設定／**User Management**／ユーザーとグループをクリックします。
- 3) 「キーワード」ボックスに `all` と入力し、条件 2 リストで「グループ」を選択します。
- 4) 「検索」をクリックし、該当するドメインについて、表示されるリストの「すべてのプリンシパル」をクリックします。
- 5) 「ロールアサイン」タブをクリックし、「ロールを検索」をクリックします。
- 6) ロールのリストで、「**Rights Management End User**」の横にあるチェックボックスを選択します。
- 7) 「OK」をクリックし、「保存」をクリックします。

User Management へのアクセス

User Management を使用すると、管理者は 1 つまたは複数のサードパーティユーザーディレクトリに同期するすべてのユーザーおよびグループのデータベースを管理できます。User Management により、認証、承認、およびユーザー管理を、JEE 上の AEM Forms のモジュール（Acrobat Reader DC Extensions、Workspace、Document Security、Forms ワークフロー、Forms Standard、PDF Generator など）で行うことができます。

- 1) 管理コンソールにログインします。
- 2) ホームページで、設定／**User Management** をクリックします。

注：User Management でのユーザー設定について詳しくは、User Management ページの右上隅にある「**User Management ヘルプ**」をクリックしてください。

6.1.12. Workbench へのアップグレード

JEE 上の AEM Forms サーバーのアップグレードが完了し、適切に動作していることを確認したら、JEE 上の AEM Forms アプリケーションの作成と変更を引き続き行うために、新しいバージョンの Workbench をインストールします。

6.1.13. CSIv2 Inbound Transport の設定

デフォルトの Global Security が有効な状態での IBM WebSphere をインストールすると、CSIv2 Inbound Transport オプションが SSL-required に設定されます。この設定は、Output および Forms コンポーネントの失敗を引き起こします。CSIv2 Inbound Transport オプションを SSL-Supported に変更したことを確認します。オプションを変更するには、次の操作を行います。

- 1) IBM WebSphere 管理コンソールにログインします。
- 2) 「**Security**」を展開して、「**Global security**」をクリックします。
- 3) Authentication セクションで、「**RMI/IIOP security**」を展開して、「**CSIv2 inbound communications**」をクリックします。
- 4) CSIv2 Transport Layer セクションで、「**Transport**」の値を「**SSL-Supported**」に設定します。
- 5) 「**適用**」をクリックします。

6.1.14. JBoss 用 JMS の有効化

JMS サービスは、デフォルトで無効になっています。JMS サービスを有効にするには、以下の手順を実行します。

- 1) 次のタグを standalone_full.xml から lc_turnkey.xml にコピーします。

```
<extension module="org.jboss.as.messaging">....</extension>
<subsystem xmlns="urn:jboss:domain:messaging:1.4"> </subsystem>
```

- 2) add-user.bat スクリプトを実行して、アプリケーションユーザーを作成します。Guest グループにアプリケーションユーザーを追加します。

注：JMS DSC コンポーネントは、接続ユーザー名とパスワードが必要です。新規追加されたアプリケーションユーザーが Send/Receive 操作のための JMS Queue/Topic を使用する権限を持っていることを確認してください。

注：デフォルトでは、lc_turnkey.xml ファイルの security-setting match="#">..... </security-settings> スニペットには、JMS の Send/Receive 読み取り権限を持つ guest ロールがあります。アプリケーションユーザーを作成する必要があります。

- 3) JMS DSC 設定を変更して、新規作成されたアプリケーションユーザーを含めます。
- 4) JMS Service 設定で、org.jnp.interfaces.NamingContextFactory を org.jboss.as.naming.InitialContextFactory に変更します。

6.1.15. アダプティブフォームおよび Correspondence Management アセットの移行

移行ユーティリティにより、以前のバージョンのアセットが AEM 6.3 Forms で使用できるようになります。AEM パッケージ共有からユーティリティをダウンロードできます。手順について詳しくは、<https://helpx.adobe.com/jp/aem-forms/6-3/migration-utility.html> を参照してください。

Adobe Correspondence Management Utilities バンドルの削除

AEM Forms では、Correspondence Management Utilities バンドルに AEM Forms の以前のリリースが付属しています。このバンドルは、AEM 6.3 Forms のセットアップには必要ありません。次の手順を実行してバンドルをアンインストールします。

- 1) ブラウザーウィンドウで `http://[server]:[port]/lc/system/console/bundles` URL を開きます。
- 2) Adobe Correspondence Management Utilities バンドルを検索して開きます。
- 3) バンドルを削除するアイコンをクリックします。

Adobe Sign の再設定

Adobe Sign を以前のバージョンの AEM Forms で設定している場合は、AEM クラウドサービスから Adobe Sign を再設定します。詳しくは、<https://helpx.adobe.com/content/help/jp/aem-forms/6-3/adobe-sign-integration-adaptive-forms.html> を参照してください。

分析とレポートの再設定

AEM 6.3 Forms では、ソースのトラフィック変数とインプレッションの成功イベントは利用できません。このため、AEM 6.3 Forms にアップグレードすると、AEM Forms は Adobe Analytics サーバーへのデータ送信を停止し、アダプティブフォームとアダプティブドキュメントの分析レポートは使用できなくなります。また、AEM 6.3 Forms には、フォームバージョン分析用のトラフィック変数と、フィールドの処理時間に関する成功イベントが導入されています。このため、AEM Forms 環境で分析とレポートを再設定してください。手順について詳しくは、<https://helpx.adobe.com/content/help/jp/aem-forms/6-3/configure-analytics-forms-documents.html> を参照してください。

フォームの平均記入時間とアダプティブドキュメントの平均読み取り時間を計算する方法が変更されました。したがって、AEM 6.3 Forms にアップグレードすると、これらの指標が古いデータ（以前の AEM Forms リリースのデータ）は、Adobe Analytics でしか使用できなくなります。これは、AEM Forms の分析レポートには表示されません。これらの指標について、AEM Forms の分析レポートでは、アップグレードが実行された後に取得されたデータを表示します。

6.1.16. Content Repository Connector サービスの設定

デフォルトでは、Content Repository Connector サービスは、`http://localhost:8080/lc/crx/server/` という URL を使用して設定されます。次の手順を実行して、使用する環境に合わせてサービスを構成します。

- 1) AEM Forms Admin UI に、資格情報 `administrator/password` を使用してログインします。管理 UI のデフォルト URL は `http://[IP]:[Port]/adminui` です。
- 2) サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理に移動します。
- 3) 編集のため、Content Repository Connector を検索して開きます。
- 4) 設定タブを開き、Experience Management Server フィールドのデフォルトの URL を、使用する環境の URL に変更します。

IP

アプリケーションサーバーを実行しているマシンの IP アドレス。

ポート

AEM Forms が使用しているポート番号。JBoss、WebLogic、WebSphere のデフォルトのポート番号は、それぞれ 8080、8001、9080 です。

6.2. モジュールの Web アプリケーションへのアクセス

JEE 上の AEM Forms のデプロイ後には、次のモジュールに関連付けられた Web アプリケーションにアクセスできます。

- Acrobat Reader DC エクステンション
- ワークスペース
- HTML Workspace
- ユーザー管理
- Correspondence Management
- PDF Generator Web アプリケーション
- PDF Generator
- Document Security

デフォルトの管理者権限を使用して Web アプリケーションにアクセスし、そのアプリケーションにアクセス可能であることを確認したら、他のユーザーがログインしてアプリケーションを使用できるように追加のユーザーとロールを作成できます（[管理ヘルプ](#)を参照）。

6.2.1. Acrobat Reader DC 拡張 Web アプリケーションへのアクセス

注：Acrobat Reader DC Extensions 証明書を適用して、新しいユーザーのユーザーロールを適用する必要があります（管理ヘルプの「証明書を Acrobat Reader DC Extensions で使用するための設定」を参照）。

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/ReaderExtensions`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

注：ログインするには、管理者またはスーパーユーザーの権限が必要です。他のユーザーが Reader Extensions Web アプリケーションにアクセスできるようにするには、User Management でユーザーを作成し、そのユーザーに Acrobat Reader DC Extensions Web アプリケーションロールを付与する必要があります。

6.2.2. LiveCycle で使用される Forms Manager および Forms Portal の URL のリダイレクトの有効化

LiveCycle から AEM Forms にアップグレードすると、Forms Manager および Forms Portal の LiveCycle で使用できる URL が機能しなくなります。次の手順を実行して追加パッケージをインストールし、リダイレクトを有効にします。

- 1) パッケージマネージャを開きます。デフォルトの URL は `http:[server]:[port]/lc/crx/packmgr` です。
- 2) 「パッケージの追加」をクリックし、`[aem-forms_root]/deploy/crx` フォルダーに移動します。
- 3) 次のパッケージを選択してアップロードします。
 - `adobe-lc-formsmanager-upgrade-pkg.zip`
 - `adobe-aemds-formsportal-upgrade-pkg.zip`
- 4) 各パッケージで「インストール」をクリックします。

6.2.3. Workspace へのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/workspace`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

6.2.4. HTML ワークスペースへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/lc/ws`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

6.2.5. Forms Manager へのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/lc/fm`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

6.2.6. PDF Generator Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[ホスト名]:[ポート]/pdfgui`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) JEE 上の AEM Forms のユーザー名とパスワードを使用してログインします。

6.2.7. Document Security へのアクセス

User Management で Document Security エンドユーザーロールのユーザーを作成し、そのユーザーに関連付けられたログイン情報を使用して Document Security の管理者またはエンドユーザーのアプリケーションにログインする必要があります。

注：デフォルトの管理者ユーザーは、Document Security エンドユーザー Web アプリケーションにはアクセスできません。ただし、このユーザーのプロファイルに必要なロールを追加できます。新しいユーザーを作成したり、既存のユーザーを修正したりするには、管理コンソールを使用します。

Document Security エンドユーザー Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/edc`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

Document Security 管理者 Web アプリケーションへのアクセス

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[hostname]:[port]/adminui`

注：WebLogic の場合、[port] は WebLogic 管理対象サーバーに割り当てられているポートです。

- 2) サービス／**Document Security** をクリックします。

ユーザーおよびロールの設定について詳しくは、管理ヘルプを参照してください。

Document Security エンドユーザーロールの割り当て

- 1) 管理コンソールにログインします（「管理コンソールへのアクセス」を参照してください。）
- 2) 設定／**User Management**／ユーザーとグループをクリックします。
- 3) 「キーワード」ボックスに `all` と入力し、条件 2 リストで「グループ」を選択します。
- 4) 「検索」をクリックし、該当するドメインについて、表示されるリストの「すべてのプリンシパル」をクリックします。
- 5) 「ロールアサイン」タブをクリックし、「ロールを検索」をクリックします。
- 6) ロールのリストで、「**Rights Management End User**」の横にあるチェックボックスを選択します。
- 7) 「OK」をクリックし、「保存」をクリックします。

6.2.8. User Management へのアクセス

User Management を使用すると、管理者は 1 つまたは複数のサードパーティユーザーディレクトリに同期するすべてのユーザーおよびグループのデータベースを管理できます。User Management により、認証、承認、およびユーザー管理を、JEE 上の AEM Forms のモジュール（Acrobat Reader DC Extensions、Workspace、Document Security、Forms ワークフロー、Forms Standard、PDF Generator など）で行うことができます。

- 1) 管理コンソールにログインします。
- 2) ホームページで、設定／**User Management** をクリックします。

注：User Management でのユーザー設定について詳しくは、User Management ページの右上隅にある「**User Management ヘルプ**」をクリックしてください。

6.3. 作成者インスタンスと発行インスタンスの設定

CRX リポジトリをインストールおよび設定している場合にのみ、次のタスクを実行して、作成者インスタンスと発行インスタンスを設定してください。

6.3.1. 作成者インスタンスの設定

作成者インスタンスは、JEE 上の AEM Forms サーバーに埋め込まれています。これは、作成者インスタンスの設定を更新する必要がないことを意味します。インスタンスは、JEE 上の AEM Forms インスタンスからすべての構成設定を引き継ぎます。

6.3.2. 発行インスタンスの設定

作成者インスタンスと発行インスタンスは別々に実行する必要があります。2つのインスタンスを別々のマシンに構成することができます。

注：発行インスタンスには、クラスタートポロジは推奨されません。発行インスタンスを単独で使用するか、発行インスタンスのファームを設定します。

注：デフォルトでは、発行インスタンスは対応する作成者インスタンスと同じモードを実行するように設定されています。そのモードは、TarMK、MongoMK または RDBMK のいずれかになります。発行インスタンスを TarMK モードで実行します。

発行ノードの設定

- 1) 発行インスタンス用のアプリケーションサーバーのプロファイルを、同じマシンまたは別のマシンに新規作成します。
- 2) 作成者インスタンスで、[aem-forms root]/configurationManager/export/ ディレクトリに移動します。
- 3) adobe-lifecycle-cq-publish.ear ファイルをコピーし、手順 1 で作成したアプリケーションサーバーのプロファイルにデプロイします。
- 4) [aem-forms root]/configurationManager/export/crx-quickstart ディレクトリの内容を、発行インスタンス用のファイルサーバーにコピーします。
- 5) (作成者インスタンスが RDBMK を実行するように設定されている場合) 発行インスタンスにコピーしたインストールディレクトリから、次のファイルを削除します。
 - org.apache.jackrabbit.oak.plugins.document.DocumentNodeStoreService.cfg
 - org.apache.sling.datasource.JNDIDataSourceFactory-oak.cfg

- 6) `-Dcom.adobe.livecycle.crx.home=<location for crx-repository>` パラメーターを使用して、発行サーバーを起動します。ここで、`<location for crx-repository>` は発行インスタンス用の `crx-repository` ディレクトリのコピー元の場所です。例えば、`cq-quickstart` ディレクトリの内容を `C:\CM-publish\crx-repository` ディレクトリにコピーした場合、`<location for crx-repository>` パラメーターは `Dcom.adobe.livecycle.crx.home=C:\CM-publish\crx-repository` になります。

注：同じコンピューター上に作成者インスタンスと発行インスタンスが両方ある場合には、発行インスタンスを起動する際に必ず別のポートを使用するようにしてください。

重要：CRX リポジトリパスに空白が含まれていないことを確認してください。

6.3.3. 作成者インスタンスと発行インスタンス間の通信

作成者インスタンスと発行インスタンス間の双方向通信を有効にします。

発行インスタンス URL の定義

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish.html` に移動します。
- 2) 「編集」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。
- 3) 「Transport」タブをクリックして、パブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。

`http://<publishHost>:<publishPort>/lc/bin/receive?sling:authRequestLogin=1`

注：ロードバランサーによって複数の発行インスタンスが管理されている場合は、URI フィールドにその URL を指定します。

- 4) 「OK」をクリックします。

注：別のクラスターに対しては、1つの作成者インスタンス（できればマスターインスタンス）でこれらの手順を実行する必要があります。

ActivationManagerImpl の発行インスタンス URL の定義

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/system/console/configMgr` に移動します。ログイン用のデフォルトのユーザー名とパスワードは、`admin` と `admin` です（CRX 管理者と同じです）。
- 2) 「`com.adobe.livecycle.content.activate.impl.ActivationManagerImpl.name`」設定の横にある「編集」アイコンをクリックします。
- 3) 「ActivationManager Publish URL」フィールドで、対応する発行インスタンスの URL を指定します。
- 4) 「保存」をクリックします。

逆複製キューの設定

- 1) `http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish_reverse.html` に移動します。
- 2) 「編集」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。
- 3) 「**Transport**」タブをクリックして、対応するパブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。
注：ロードバランサーによって複数の発行インスタンスが管理されている場合は、URI フィールドにその URL を指定します。
- 4) 「OK」をクリックします。

作成者インスタンス URL の定義

- 1) `http://<publishHost>:<publishPort>/lc/system/console/configMgr` に移動します。ログイン用のデフォルトのユーザー名とパスワードは、`admin` と `admin` です（CRX 管理者と同じです）。
- 2) 「`com.adobe.livecycle.content.activate.impl.VersionRestoreManagerImpl.name`」設定の横にある「編集」アイコンをクリックします。
- 3) 「VersionRestoreManager Author URL」フィールドで、対応する作成者インスタンスの URL を指定します。
注：ロードバランサーによって複数の作成者インスタンスが管理されている場合は、「VersionRestoreManager Author URL」フィールドにその URL を指定します。
- 4) 「保存」をクリックします。

6.3.4. IPv6 実装の設定

注：マシン／サーバーが1つのIPv6アドレスを使用している場合のみ、次の手順を実行します。

IPv6 アドレスをサーバーおよびクライアントコンピューターにマップするには：

- 1) `C:\Windows\System32\drivers\etc` ディレクトリを開きます。
- 2) `hosts` ファイルをテキストエディターで開きます。
- 3) IPv6 アドレスのマッピングをホスト名に追加します。例えば、以下のように行います。
`2001:1890:110b:712b:d1d:9c99:37ef:7281 <ipv6_hostname>`
- 4) ファイルを保存して閉じます。

マシンへのアクセスに IPv6 アドレスではなくマップされたホスト名が使用されていることを確認します。

6.3.5. Adobe Reader 用日本語フォントのインストール

ドキュメントフラグメントで日本語フォントを使用する場合は、Adobe Reader 用日本語サポートパッケージをインストールする必要があります。インストールしないと、文字やフォームのレンダリングおよび機能が正常に実行されません。言語パックをインストールするには、Adobe Reader のダウンロードページにアクセスします。

6.4. PDF Generator の設定

PDF Generator をインストールした場合は、次のタスクを実行します。

6.4.1. 環境変数

ファイルを PDF に変換するように PDF Generator を設定している場合は、一部のファイル形式に関して、対応するアプリケーションを起動する際に使用する実行可能ファイルの絶対パスを含む環境変数を手動で設定する必要があります。次の表に、ネイティブアプリケーション用の環境変数の一覧を示します。

注：クラスター内のすべてのノードに、必要なアプリケーションがインストールされていることを確認してください。

注：すべての環境変数とそれぞれのパスでは、大文字と小文字が区別されます。

アプリケーション	環境変数	例
Adobe Acrobat	Acrobat_PATH	C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat 2015\Acrobat\Acrobat.exe
メモ帳	Notepad_PATH	C:\WINDOWS\notepad.exe Notepad_PATH 変数は空欄でかまいません。
OpenOffice	OpenOffice_PATH	C:\Program Files (x86)\OpenOffice 4

注：これらの環境変数は、クラスター内のすべてのノードに対して設定する必要があります。

注：環境変数 OpenOffice_PATH は、実行ファイルへのパスではなく、インストールフォルダーのパスに設定します。

6.4.2. HTTP プロキシサーバーを使用するようにアプリケーションサーバーを設定

JEE 上の AEM Forms が実行されているコンピューターが、プロキシ設定を使用して外部 Web サイトにアクセスしている場合、アプリケーションサーバーは、次の値を Java 仮想マシン (JVM) 引数として設定して起動する必要があります。

```
-Dhttp.proxyHost=[server host]
-Dhttp.proxyPort=[server port]
```

アプリケーションサーバーを HTTP プロキシホスト設定で起動するには、次の手順を完了します。

- 1) WebLogic が実行されている場合は停止します。
- 2) コマンドラインから、[WL_HOME]\user_projects\appserverdomain\bin ディレクトリ内の startWebLogic スクリプトを編集します。
 - (Windows) startWebLogic.cmd
 - (Linux、UNIX) startWebLogic.sh

3) 次のテキストをスクリプトファイルに追加します。

- (Windows)

```
set PROXY_SETTINGS=-Dhttp.proxyHost=<hostname> -Dhttp.proxyPort=[port]
```

- (Linux、UNIX)

```
PROXY_SETTINGS=-Dhttp.proxyHost=<hostname> -Dhttp.proxyPort=[port]
```

4) ファイルを保存して閉じ、WebLogicを再起動します。

6.4.3. Adobe PDF プリンターをデフォルトのプリンターとして設定

Adobe PDF プリンターを、サーバーのデフォルトプリンターに設定する必要があります。Adobe PDF プリンターがデフォルトとして設定されていない場合、PDF Generator ではファイルを変換できません。

クラスターの場合、Adobe PDF プリンターを、すべてのノードのデフォルトプリンターに設定する必要があります。

デフォルトプリンターの設定

- 1) スタート／プリンターと FAX を選択します。
- 2) プリンターと FAX ウィンドウで、「**Adobe PDF**」を右クリックし、「通常使うプリンターに設定」を選択します。

6.4.4. Acrobat Professional の設定 (Windows ベースのコンピューターのみ)

注：この手順は、JEE 上の AEM Forms のインストールを完了後に Acrobat へのアップグレードまたは Acrobat のインストールを行った場合にのみ必要です。Acrobat のアップグレードは、Configuration Manager を実行してアプリケーションサーバーに JEE 上の AEM Forms をデプロイした後に実行できます。Acrobat Professional のルートディレクトリは、[Acrobatroot] と表記します。通常、ルートディレクトリは C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat 2015\Acrobat\ です。

PDF Generator で使用するための Acrobat の設定

- 1) Acrobat の以前のバージョンがインストールされている場合、Windows コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を使用して Acrobat をアンインストールします。
- 2) インストーラーを実行して Acrobat DC Pro をインストールします。
- 3) JEE 上の AEM Forms のインストールメディアの additional\scripts フォルダーに移動します。
- 4) 次のバッチファイルを実行します。

```
Acrobat_for_PDFG_Configuration.bat [aem_forms root]/pdfg_config
```

- 5) JEE 上の AEM Forms Configuration Manager を実行しない他のクラスターノード上で、次の手順を実行します。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Print に、SplWOW64TimeOut という名前の新しいレジストリ DWORD エントリを追加します。値を 60000 に設定します。
 - JEE 上の AEM Forms がインストールされているノード上の [aem-forms root]/plugins/x86_win32 ディレクトリにある PDFGen.api を、現在設定しているノード上の [Acrobat root]/plug_ins ディレクトリにコピーします。
- 6) Acrobat を開き、ヘルプ／アップデートの有無をチェック／環境設定を選択します。
- 7) 「自動的に新しいアップデートを確認する」を選択解除します。

Acrobat のインストールの検証

- 1) システム上の PDF ファイルに移動し、そのファイルをダブルクリックして Acrobat で開きます。PDF ファイルが正常に開いた場合は、Acrobat が正しくインストールされています。
- 2) PDF ファイルを正しく開くことができない場合は、Acrobat をアンインストールしてから再インストールします。

注：Acrobat のインストール完了後に表示される Acrobat のすべてのダイアログボックスを閉じてから、Acrobat の自動アップデートを無効化してください。環境変数 Acrobat_PATH を、Acrobat.exe を指すように設定してください（例えば、C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat 2015\Acrobat\Acrobat.exe）。

Acrobat の信頼できるディレクトリリストへの一時ディレクトリの追加

OptimizePDF サービスでは、Adobe Acrobat を使用し、JEE 上の AEM Forms の一時ディレクトリおよび PDF Generator の一時ディレクトリを Acrobat の信頼できるディレクトリリストに作成します。

JEE 上の AEM Forms の一時ディレクトリおよび PDF Generator の一時ディレクトリが信頼できるディレクトリリストに追加されない場合、OptimizePDF サービスの実行は失敗します。一時ディレクトリリストにディレクトリを追加するには、次の手順を実行します。

- 1) Acrobat を開き、編集／環境設定を選択します。
- 2) 左側のカテゴリから、「セキュリティ（強化）」を選択し、「拡張セキュリティを有効にする」オプションを選択します。
- 3) JEE 上の AEM Forms の一時ディレクトリおよび PDF Generator の一時ディレクトリを信頼できるディレクトリリストに追加するには、「フォルダーパスの追加」をクリックし、ディレクトリを選択して、「OK」をクリックします。

6.4.5. PDF Generator へのフォントの追加

JEE 上の AEM Forms では、フォントの中央リポジトリを提供しています。これは、すべての JEE 上の AEM Forms モジュールにアクセスすることができます。サーバー上にある JEE 上の AEM Forms 以外のアプリケーションで、追加フォントを使用できるように設定します。これにより、PDF Generator では、そのアプリケーションを使用して作成された PDF ドキュメントで追加フォントを使用できるようになります。

注：指定したフォントフォルダーに新しいフォントを追加したら、アプリケーションサーバーを再起動します。

JEE 上の AEM Forms 以外のアプリケーション

次のリストには、サーバー側で PDF を生成する際に PDF Generator で使用できる、JEE 上の AEM Forms 以外のアプリケーションが記載されています。

Windows 専用アプリケーション

- Microsoft Office Word
- Microsoft Office Excel
- Microsoft Office PowerPoint
- Microsoft Office Project
- Microsoft Office Publisher
- Adobe FrameMaker
- Adobe PageMaker
- Adobe Acrobat Professional

マルチプラットフォームアプリケーション

- OpenOffice Writer
- OpenOffice Calc
- OpenOffice Draw
- OpenOffice Impress

注：これらのアプリケーションの他にも、各ユーザーが追加したアプリケーションが含まれている場合があります。

上記のアプリケーションのうち OpenOffice スイート（Writer、Calc、Draw および Impress）は、他のアプリケーションが Windows にのみ対応しているのに対して、Windows、Solaris および Linux プラットフォームに対応しています。

Windows 専用アプリケーションへの新しいフォントの追加

上記のすべての Windows 専用アプリケーションでは、C:\Windows\Fonts（または同等の）フォルダーにあるすべてのフォントにアクセスできます。これらのアプリケーションには、C:\Windows\Fonts に加えて、それぞれ固有のフォントフォルダーが存在する場合があります。

このため、JEE 上の AEM Forms フォントディレクトリにカスタムフォントを追加する場合、C:\Windows\Fonts（または同等の）フォルダーにそのフォントをコピーして、Windows 専用のアプリケーションでもこれらのフォントを使用できるようにする必要があります。

カスタムフォントの使用に際しては、使用許諾契約に基づくライセンスを取得して、そのフォントにアクセスするアプリケーションでの使用が許可されている必要があります。

その他のアプリケーションへの新しいフォントの追加

他のアプリケーションにPDF作成のサポートを追加した場合、これらのアプリケーションのヘルプを参照して新しいフォントを追加します。Windowsでは、通常はカスタムフォントをC:\Windows\Fonts（または同等の）フォルダーに追加すれば十分です。

OpenOfficeスイートへの新しいフォントの追加

OpenOfficeスイートへのカスタムフォントの追加方法は、OpenOffice Fonts-FAQ ページ (<http://wiki.services.openoffice.org>) で説明されています。

6.4.6. HTML から PDF への変換の設定

HTMLからPDFへの変換プロセスは、Acrobat DC Proの設定を使用するように設計されています。この設定は、PDF Generatorの設定よりも優先されます。

注：この設定は、HTMLからPDFへの変換プロセスを有効にするために必要です。設定が行われていない場合、この変換タイプは失敗します。

HTMLからPDFへの変換の設定

- 1) Acrobatのインストールおよび検証は、「Acrobat Professionalの設定」で説明されています。
- 2) [aem-forms root]\plugins\x86_win32ディレクトリにあるpdfgen.apiファイルを探し、[Acrobat root]\Acrobat\plug_insディレクトリにコピーします。

HTMLからPDFへの変換におけるUnicodeフォントのサポート

重要：入力用zipファイルにファイル名が2バイト文字のHTMLファイルが含まれている場合、HTMLからPDFへの変換は失敗します。この問題を回避するには、HTMLファイルに名前を付けるときに2バイト文字を使用しないようにします。

- 1) Unicodeフォントを、使用しているシステムに応じて、次のいずれかのディレクトリにコピーします。

- ウィンドウ
[Windows root]\Fonts
[Windows root]\WINNT\Fonts
- UNIX
/usr/lib/X11/fonts/TrueType
/usr/openwin/lib/X11/fonts/TrueType
/usr/share/fonts/default/TrueType
/usr/X11R6/lib/X11/fonts/ttf

```

/usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype
/usr/X11R6/lib/X11/fonts/TrueType
/usr/X11R6/lib/X11/fonts/TTF
/Users/cfqauser/Library/Fonts
/System/Library/Fonts
/Library/Fonts
/Users/ + System.getProperty(<username>, root) + /Library/Fonts
System.getProperty(JAVA_HOME) + /lib/fonts
/usr/share/fonts (Solaris)

```

注：/usr/lib/X11/fonts ディレクトリが存在することを確認します。ディレクトリがない場合は、ln コマンドを使用して /usr/share/X11/fonts から /usr/lib/X11/fonts へのシンボリックリンクを作成します。

注：フォントが /usr/share/fonts または /usr/share/X11/fonts ディレクトリのいずれかに存在することを確認します。

- 2) IBM type1 Courier フォントを /usr/share/X11/fonts/font-ibm-type1-1.0.3 フォルダーに解凍します。
- 3) /usr/share/fonts から /usr/share/X11/fonts へのシンボリックリンクを作成します。
- 4) [aem-forms root]/deploy/adobe-generatepdf-dsc.jar ファイルにある cffont.properties ファイルで、フォント名マッピングを変更します。
 - このアーカイブファイルを展開し、cffont.properties ファイルを探して、エディターで開きます。
 - Java フォント名のコンマ区切りリストで、フォントタイプごとに、Unicode システムフォントにマップを追加します。以下の例では、kochi mincho が Unicode システムフォントの名前です。


```

dialog=Arial, Helvetica, kochi mincho

dialog.bold=Arial Bold, Helvetica-Bold, kochi mincho ...

```
 - プロパティファイルを保存して閉じ、adobe-generatepdf-dsc.jar ファイルを再パッケージ化して再デプロイします。

注：日本語のオペレーティングシステムでは、cffont.properties ja ファイルでもフォントマッピングを指定します。これは、標準の cffont.properties ファイルよりも優先されます。

ヒント：リスト内のフォントは、左から右に検索され、最初に見つかったフォントが使用されます。HTML から PDF の変換ログでは、システム内で見つかったすべてのフォント名のリストが返されます。マップが必要なフォント名を特定するには、前述したいずれかのディレクトリにフォントを追加し、サーバーを再起動して変換を実行します。マッピングに使用するフォント名は、ログファイルから特定できます。

生成された PDF ファイルにフォントを埋め込むには、cffont.properties ファイル内の embedFonts プロパティを true に設定します（デフォルトは false）。

6.4.7. Network Printer Clientのインストール

PDF Generatorには、クライアントコンピューターにPDF Generator ネットワークプリンターをインストールするための実行ファイルが含まれています。インストールが完了すると、PDF Generator プリンターがクライアントコンピューターの既存のプリンターのリストに追加されます。その後、このプリンターを使用してドキュメントを送信し、PDFに変換することができます。

注：管理コンソールのネットワークプリンタークライアントのインストールウィザードでは、Windowsオペレーティングシステムのみがサポートされています。ネットワークプリンタークライアントのインストールウィザードの起動には、32ビットJVMを使用してください。64ビットJVMを使用した場合は、エラーが発生します。

WindowsでPDFG ネットワークプリンターのインストールが失敗する場合や、プリンターをUNIXまたはLinuxのプラットフォームにインストールする場合は、各オペレーティングシステムのネイティブのプリンター追加ユーティリティを使用して、Windowsでネイティブのプリンターの追加ウィザードを使用したPDFG ネットワークプリンターの設定の説明に従って設定してください。

PDF Generator ネットワークプリンタークライアントのインストール

注：Windows Server 2012でPDF Generator ネットワークプリンタークライアントをインストールする前に、Windows Server 2012にインターネット印刷クライアント機能がインストールされていることを確認してください。機能のインストールについては、Windows Server 2012のヘルプを参照してください。

- 1) PDF Generatorをサーバーに正常にインストールしたことを確認します。
- 2) 次のいずれかの操作を行います。
 - Windows クライアントコンピューターで、Web ブラウザーから次のURLを開きます。[host]はPDF Generatorをインストールしたサーバーの名前、[port]は使用しているアプリケーションサーバーポートです。

`http://[host]:[port]/pdfg-ipp/install`

- 管理コンソールで、ホーム／サービス／PDF Generator／PDFG ネットワークプリンターをクリックします。「PDFG ネットワークプリンターのインストール」セクションで、「ここをクリックしてください」をクリックして、PDFG ネットワークプリンターのインストールを起動します。
- 3) インターネットポートの構成画面で、「指定されたユーザーアカウントを使う」オプションを選択して、PDFG 管理者またはユーザーのロールを持つJEE上のAEM Formsユーザーの資格情報を指定します。このユーザーには電子メールアドレスも必要です。このアドレスは、変換済みのファイルを受信する際に使用できます。このセキュリティ設定をクライアントコンピューター上のすべてのユーザーに適用するには、「すべてのユーザーに同じセキュリティ設定を使う」を選択して、「OK」をクリックします。

注：ユーザーのパスワードが変更された場合、ユーザーは使用しているコンピューターにPDFG ネットワークプリンターを再インストールする必要があります。パスワードを管理コンソールから更新することはできません。

インストールが終了すると、プリンターが正常にインストールされたことを示すダイアログボックスが表示されます。

- 4) 「OK」をクリックします。プリンターのリストに使用可能な「PDF Generator」という名前のプリンターが追加されます。

Windows でネイティブのプリンターの追加ウィザードを使用した PDFG ネットワークプリンターの設定

- 1) スタート／プリンターと FAX をクリックし、「プリンターの追加」をダブルクリックします。
- 2) 「次へ」をクリックし、「ネットワークプリンター、または他のコンピューターに接続されているプリンター」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 3) 「インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンターに接続する」を選択し、次の PDFG プリンターの URL を入力します。[host] はサーバー名、[port] はサーバーを実行しているポート番号です。

`http://[host]:[port]/pdfg-ipp/printer`

- 4) インターネットポートの構成画面で、「指定されたユーザーアカウントを使う」を選択し、ユーザーの有効な資格情報を指定します。
- 5) 「プリンタードライバの選択」ボックスで、任意の標準的な PostScript ベースのプリンタードライバ（HP Color LaserJet PS など）を選択します。
- 6) 適切なオプション（このプリンターをデフォルトに設定するなど）を選択してインストールを完了します。

注：プリンターの追加の際に使用するユーザーの資格情報では、応答を受信するために、有効な電子メール ID を User Management で設定する必要があります。

- 7) 電子メールサービスの sendmail サービスを設定します。サービスの設定オプションで有効な SMTP サーバーと認証情報を指定します。

プロキシサーバーのポート転送を使用した PDF Generator Network Printer Client のインストールと設定

- 1) CC プロキシサーバーで特定のポートについて JEE 上の AEM Forms サーバーへのポート転送を設定し、プロキシサーバーレベルで認証を無効にします（JEE 上の AEM Forms で独自の認証を使用するため）。転送を設定したポートでクライアントがこのプロキシサーバーに接続すると、すべての要求が JEE 上の AEM Forms サーバーに転送されます。

- 2) 次の URL を使用して、PDFG ネットワークプリンターをインストールします。

`http://[proxy server]:[forwarded port]/pdfg-ipp/install.`

- 3) PDFG ネットワークプリンターの認証に必要な資格情報を指定します。
- 4) PDFG ネットワークプリンターがクライアントマシンにインストールされます。これにより、ファイアウォールで保護されている JEE 上の AEM Forms サーバーを使用した PDF 変換が可能になります。

6.4.8. ファイル制限機能の設定の変更

Microsoft Office のセキュリティセンター設定を変更して、PDFG が古いバージョンの Microsoft Office ドキュメントを変更できるようにします。

- 1) 任意の Office 2013 アプリケーションで、「ファイル」タブをクリックします。「ファイル」の下に「オプション」をクリックします。オプションダイアログボックスが表示されます。
- 2) 「セキュリティセンター」をクリックし、「セキュリティセンターの設定」をクリックします。
- 3) セキュリティセンターダイアログで、「ファイル制限機能の設定」をクリックします。
- 4) 「ファイルの種類」リストで、PDF Generator で変換するファイルの種類に対して、「開く」チェックボックスをオフにします。

6.4.9. 監視フォルダーのパフォーマンスパラメーター

監視フォルダーを使用した PDF の変換を実行するための十分なディスク容量がないことを示す `java.io.IOException` エラーメッセージが発生しないように、管理コンソールで PDF Generator の設定を変更できます。

PDF Generator のパフォーマンスパラメーターの設定

- 1) 管理コンソールにログインして、サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理を選択します。
- 2) サービスのリストで **PDFGConfigService** を探してクリックし、以下の値を設定します。
 - **PDFG Cleanup Scan Seconds** : 1800
 - **Job Expiration Seconds** : 6000
 - **Server Conversion Timeout** : デフォルト値の 270 を、450 などの大きい値に変更します。
- 3) 「保存」をクリックして、サーバーを再起動します。

6.4.10. 保護フィールドを含む Microsoft Word 文書に対する PDF 変換の有効化

PDF Generator は保護フィールドを含む Microsoft Word 文書をサポートします。保護フィールドを含む Microsoft Word 文書に対して PDF 変換を有効にするには、次のようにファイルタイプ設定を変更します。

- 1) 管理コンソールで、**Services / PDF Generator / File Type Settings** に行き、ファイルタイプ設定プロファイルを開きます。
- 2) **Microsoft Word** オプションを展開し、「**Adobe PDF でドキュメントマークアップを保持 (Microsoft Office 2003 以降)**」オプションを選択します。
- 3) 「名前を付けて保存」をクリックし、ファイルタイプ設定の名前を指定し、「**OK**」をクリックします。

6.5. Document Security に対する SSL の設定

Document Security では、SSL を使用するようにアプリケーションサーバーを設定する必要があります [管理ヘルプ](#) を参照してください。

6.6. LDAP アクセスの設定

注：以前のバージョンで LDAP アクセスを設定している場合は、次の手順をスキップしてください。

アップグレード時、LDAP を使用した認証をサポートするように User Management を設定する際は、次の手順をガイドラインとして使用します。

以前のバージョンの LiveCycle で LDAP を設定した場合、これらの設定はアップグレードプロセス中に移行されるので、この節の手順を実行する必要はありません。LDAP を設定していない場合は次の手順を参照し、LDAP を使用した認証がサポートされるように User Management を設定してください。

6.6.1. User Management の設定（ローカルドメイン）

- 1) Web ブラウザーを開き、[http://\[host\]:\[port\]/adminui](http://[host]:[port]/adminui) にアクセスしてログインします（「管理コンソールへのアクセス」を参照してください）。
- 2) 設定／User Management／ドメインの管理をクリックし、「新規ローカルドメイン」をクリックします。
- 3) 該当するボックスにドメイン ID とドメイン名を入力します（[管理ヘルプ](#)の「ローカルドメインの追加」を参照してください）。
- 4) （オプション）「アカウントロックを有効にする」オプションの選択を解除して、アカウントロックを無効にします。
- 5) 「OK」をクリックします。

6.6.2. User Management の LDAP 設定（エンタープライズドメイン）

- 1) Web ブラウザーを開き、[http://\[host\]:\[port\]/adminui](http://[host]:[port]/adminui) にアクセスしてログインします（「管理コンソールへのアクセス」を参照してください）。
- 2) 設定／User Management／ドメインの管理をクリックし、「新規エンタープライズドメイン」をクリックします。
- 3) 「ID」ボックスにドメインの一意の ID を入力し、「名前」ボックスにドメインの識別名を入力します。

注：JEE 上の AEM Forms データベースとして DB2 を使用している場合、ID の許容される最大長は、1 バイト（ASCII）文字で 100 文字、2 バイト文字で 50 文字、4 バイト文字で 25 文字です（[管理ヘルプ](#)の「エンタープライズドメインの追加」を参照してください）。

- 4) 「認証を追加」をクリックし、認証プロバイダーリストで「LDAP」を選択します。

- 5) 「OK」をクリックします。
- 6) 「ディレクトリを追加」をクリックし、「プロファイル名」ボックスに、LDAPプロファイルの名前を入力します。
- 7) 「次へ」をクリックします。
- 8) 「サーバー」、「ポート」、「SSL」および「バインド」フィールドの値を指定します。「ページに次の情報を入力」ボックスで、ディレクトリ設定オプション（「Sun ONEのデフォルト値」など）を選択します。また、「名前」ボックスと「パスワード」ボックスで、匿名アクセスが無効な場合にLDAPデータベースへの接続に使用する値を指定します（[管理ヘルプ](#)の「ディレクトリ設定」を参照を参照してください）。
- 9) （オプション）設定をテストします。
 - 「テスト」をクリックします。画面に、サーバーのテストが成功したか、または設定エラーが存在することを示すメッセージが表示されます。
- 10) 「次へ」をクリックして、必要に応じて、「ユーザー設定」を設定します（[管理ヘルプ](#)の「ディレクトリ設定」を参照を参照してください）。
- 11) （オプション）設定をテストします。
 - 「テスト」をクリックします。
 - 「検索フィルター」ボックスで、検索フィルターを確認するか新しい検索フィルターを指定してから、「送信」をクリックします。画面に検索条件に一致するエントリのリストが表示されます。
 - 「閉じる」をクリックしてユーザー設定画面に戻ります。
- 12) 「次へ」をクリックして、必要に応じて、「グループ設定」を設定します（[管理ヘルプ](#)の「ディレクトリ設定」を参照を参照してください）。
- 13) （オプション）設定をテストします。
 - 「テスト」をクリックします。
 - 「検索フィルター」ボックスで、検索フィルターを確認するか新しい検索フィルターを指定してから、「送信」をクリックします。画面に検索条件に一致するエントリのリストが表示されます。
 - 「閉じる」をクリックしてグループの設定画面に戻ります。
- 14) 「完了」をクリックして新規ディレクトリページを閉じ、「OK」をクリックして終了します。

6.7. FIPS モードの有効化

注：以前のバージョンで設定している場合は、次の手順をスキップしてください。

JEE 上の AEM Forms には FIPS モードがあり、RSA BSAFE Crypto-C 2.1 暗号化モジュールを使用して、データ保護を連邦情報処理規格（FIPS）140-2 承認アルゴリズムに限定しています。

JEE 上の AEM Forms の設定中に Configuration Manager を使用してこのオプションを有効化しなかった場合、または有効化した設定を無効化する場合は、Administration Console からこの設定を変更できます。

FIPS モードを変更した場合は、サーバーを再起動する必要があります。

FIPS モードは Acrobat 7.0 より前のバージョンをサポートしていません。FIPS モードが有効で、パスワードによる暗号化およびパスワード削除のプロセスに Acrobat 5 の設定が含まれる場合、このプロセスは失敗します。

通常、FIPS が有効化されていると、Assembler サービスでは、どのドキュメントにもパスワードの暗号化が適用されません。この処理が試行されると、FIPSMoDeException が発生し、FIPS モードではパスワードを暗号化できないことが示されます。また、ベースドキュメントがパスワードで暗号化されている場合、PDFsFromBookmarks エレメントは FIPS モードではサポートされません。

6.7.1. FIPS モードのオンまたはオフ

- 1) 管理コンソールにログインします。
- 2) 設定／コアシステム設定／設定をクリックします。
- 3) 「**FIPS を有効にする**」を選択して FIPS モードを有効化するか、選択を解除して FIPS モードを無効化します。
- 4) 「**OK**」をクリックして、アプリケーションサーバーを再起動します。

注：JEE 上の AEM Forms ソフトウェアでは、コードを検証して FIPS の互換性を確認しません。FIPS 操作モードは、FIPS で承認されたライブラリ（RSA）の暗号化サービスで、FIPS で承認されたアルゴリズムが使用されるようにするために提供されています。

6.8. Connector for EMC Documentum の設定

注：JEE 上の AEM Forms は、EMC Documentum 6.7 SP1 および 7.0 のマイナーアップデートのみをサポートします。ECM が適切にアップグレードされていることを確認してください。

Connector for EMC Documentum を JEE 上の AEM Forms の一部としてインストールした場合は、次の手順を実行して、Documentum リポジトリに接続するように、このサービスを設定します。

6.8.1. Connector for EMC Documentum の設定

- 1) [appserverdomain] フォルダーにある adobe-component-ext.properties ファイルを開きます（ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します）。
- 2) 次の Documentum Foundation Classes JAR ファイルを指定する新しいシステムプロパティを追加します。
 - dfc.jar
 - aspectjrt.jar
 - log4j.jar
 - jaxb-api.jar
 - configservice-impl.jar
 - configservice-api.jar
 - commons-codec-1.3.jar
 - commons-lang-2.4.jar

新しいシステムプロパティは、次の形式にする必要があります。

```
[component id].ext=[JAR files and/or folders]
```

例えば、デフォルトの Content Server と Documentum Foundation Classes のインストールを使用して、次のいずれかのシステムプロパティをファイルに追加します。その際、システムプロパティは新しい行に記述し、行中に改行を入れず、末尾で改行してください。

- 3) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

```
http://[host]:[port]/adminui
```

- 4) 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

ユーザー名：administrator

パスワード：password

- 5) サービス／**Connector for EMC Documentum**／環境設定に移動して、以下のタスクを実行します。
 - 必要な Documentum リポジトリ情報のすべてを入力します。
 - Documentum をリポジトリプロバイダーとして使用するには、「リポジトリサービスプロバイダー」で「**EMC Documentum** リポジトリプロバイダー」を選択し、「保存」をクリックします。詳しくは、[管理ヘルプ](#)のページの右上隅にあるヘルプリンクをクリックしてください。
- 6) (オプション) サービス／**Connector for EMC Documentum**／リポジトリ証明書の設定に移動して、「追加」をクリックし、Docbase 情報を指定して、「保存」をクリックします（詳しくは、右上隅の「ヘルプ」をクリックしてください）。
- 7) アプリケーションサーバーが現在実行されていない場合は、サーバーを起動します。実行されている場合は、サーバーを停止し、再起動します。

- 8) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[host]:[port]/adminui`

- 9) 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

ユーザー名: administrator

パスワード: password

- 10) サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理に移動して、以下のサービスを選択します。

- EMCDocumentumAuthProviderService
- EMCDocumentumContentRepositoryConnector
- EMCDocumentumRepositoryProvider
- EMCDocumentumECMUpgradeService

- 11) 「開始」をクリックします。サービスのいずれかが正常に起動されない場合は、前の手順で実行した設定を確認します。

- 12) 次のいずれかのタスクを実行します。

- Documentum Authorization サービス (EMCDocumentumAuthProviderService) を使用して、Workbench の Resources ビューで Documentum リポジトリのコンテンツを表示するには、この手順を続行します。Documentum Authorization サービスを使用すると、デフォルトの JEE 上の AEM Forms 認証が上書きされるので、Documentum の資格情報を使用して Workbench にログインするように設定する必要があります。
- JEE 上の AEM Forms リポジトリを使用するには、JEE 上の AEM Forms の上級管理者の資格情報（デフォルトは administrator と password）を使用して Workbench にログインします。

これで、この手順に必要なステップを完了しました。この場合、この手順で指定した資格情報を使用してデフォルトリポジトリにアクセスし、デフォルトの JEE 上の AEM Forms 認証サービスを使用します。

- 13) 次のタスクを実行して、リモートおよび EJB のエンドポイントを有効にします。

- 管理コンソールにログインして、ホーム／サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理を選択します。
- 「Connector for EMC Documentum」カテゴリをフィルタリングして、「**EMC DocumentumContentRepositoryConnector:1.0**」をクリックします。
- 無効になっているエンドポイントを選択して有効にします。

- 14) アプリケーションサーバーを再起動します。

- 15) 管理コンソールにログインし、設定／**User Management**／ドメインの管理をクリックします。

- 16) 「新規エンタープライズドメイン」をクリックして、ドメイン ID と名前を入力します。ドメイン ID は、ドメインの一意の識別子です。名前は、ドメインの識別名です。

注：(WebLogic および WebSphere のみ) JEE 上の AEM Forms データベースとして DB2 を使用している場合、ID の許容される最大長は、1 バイト (ASCII) 文字で 100 文字、2 バイト文字で 50 文字、4 バイト文字で 25 文字です (管理ヘルプの「エンタープライズドメインの追加」を参照してください。)

- 17) カスタム認証プロバイダーを追加します。
 - 「認証を追加」をクリックします。
 - 認証プロバイダーリストで「カスタム」を選択します。
 - 「EMCDocumentumAuthProvider」を選択し、「OK」をクリックします。
- 18) LDAP 認証プロバイダーを追加します。
 - 「認証を追加」をクリックします。
 - 認証プロバイダーリストで「LDAP」を選択し、「OK」をクリックします。
- 19) LDAP ディレクトリを追加します。
 - 「ディレクトリを追加」をクリックします。
 - 「プロファイル名」ボックスに一意の名前を入力し、「次へ」をクリックします。
 - 「サーバー」、「ポート」、「SSL」、「バインド」および「ページに次の情報を入力」オプションの値を指定します。「バインド」オプションで「ユーザー」を選択する場合は、「名前」と「パスワード」フィールドにも値を指定する必要があります。
 - (オプション) 必要に応じてベースドメイン名を取得するには、「BaseDNを取得」を選択します。
 - 「次へ」をクリックし、ユーザー設定を指定して「次へ」をクリックし、必要に応じてグループ設定を指定して「次へ」をクリックします。

設定について詳しくは、ページの右上隅にある「**User Management ヘルプ**」をクリックしてください。
- 20) 「OK」をクリックして「ディレクトリを追加」ページを閉じ、もう一度「OK」をクリックします。
- 21) 新しいエンタープライズドメインを選択し、「今すぐ同期」をクリックします。LDAP ネットワークのユーザーとグループ数および接続の速度によって、同期処理には数分かかる場合があります。

(オプション) 同期のステータスを確認するには、「更新」をクリックし、「現在の同期の状態」列にステータスを表示します。
- 22) 設定／User Management／ユーザーとグループをクリックします。
- 23) LDAP から同期されたユーザーを検索し、以下のタスクを実行します。
 - 1つ以上のユーザーを選択し、「ロールをアサイン」をクリックします。
 - JEE 上の AEM Forms のロールを1つ以上選択し、「OK」をクリックします。
 - 「OK」をもう一度クリックして、ロールアサインを確認します。

ロールをアサインするすべてのユーザーについて、この手順を繰り返します。詳しくは、ページの右上隅にある「**User Management ヘルプ**」をクリックしてください。

- 24) Workbench を起動し、Documentum リポジトリ用の次の資格情報を使用してログインします。

Username : [username]@[repository_name]

Password : [password]

ログイン後は、Documentum リポジトリは、Workbench 内の Resources ビューに表示されます。
username@repository_name を使用してログインしない場合、Workbench では、デフォルトリポジトリへのログインが試行されます。

- 25) (オプション) Connector for EMC Documentum の JEE 上の AEM Forms サンプルをインストールするには、Samples という名前の Documentum リポジトリを作成して、その中にサンプルをインストールします。

Connector for EMC Documentum サービスの設定後の、Documentum リポジトリでの Workbench の設定について詳しくは、JEE 上の AEM Forms 管理ヘルプを参照してください。

6.8.2. 複数の接続ブローカーのサポートの追加

JEE 上の AEM Forms の Configuration Manager では、1 つの接続ブローカーの構成のみサポートしています。JEE 上の AEM Forms の Administrator Console を使用して、複数の接続ブローカーのサポートを追加します。

- 1) JEE 上の AEM Forms の Administrator Console を開きます。
- 2) ホーム／サービス／Connector for EMC Documentum／環境設定に移動します。
- 3) 「接続ブローカーのホスト名または IP アドレスで、別の接続ブローカーのホスト名のカンマで区切りられたリストを入力します。例えば、host1、host2、host3 と入力します。
- 4) 「接続ブローカーのポート番号」で、対応する接続ブローカーのポートのカンマで区切りられたリストを入力します。例えば、1489、1491、1489 を入力します。
- 5) 「保存」をクリックします。

6.9. Connector for IBM Content Manager の設定

注：AEM Forms は、IBM Content Manager をサポートしています。「[サポートされているプラットフォームの組み合わせ](#)」ドキュメントを確認して、ECM がサポートされているバージョンにアップグレードされていることを確認してください。

Connector for IBM Content Manager サービスを AEM Forms インストールの一部としてインストールした場合は、次の手順を実行して、IBM Content Manager データストアに接続するようサービスを設定します。

6.9.1. Connector for IBM Content Manager の設定

- 1) [appserverdomain] フォルダーにある adobe-component-ext.properties ファイルを開きます。ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します。
- 2) 次の IBM II4C JAR ファイルの場所を指定する、新しいシステムプロパティを追加します。
 - cmb81.jar
 - cmbcm81.jar
 - cmbicm81.jar
 - cmblog4j81.jar
 - cmbsdk81.jar
 - cmbutil81.jar
 - cmbutilicm81.jar
 - cmbview81.jar
 - cmbwas81.jar
 - cmbwcm81.jar
 - cmgmt

注：cmgmt は JAR ファイルではありません。Windows では、このフォルダーはデフォルトで C:\Program Files\IBM\db2cmv8\ にあります。

- common.jar
- db2jcc.jar
- db2jcc_license_cisuz.jar
- db2jcc_license_cu.jar
- ecore.jar
- ibmjgssprovider.jar
- ibmjsseprovider2.jar
- ibmpkcs.jar
- icrm81.jar
- jcache.jar
- log4j-1.2.8.jar
- xerces.jar
- xml.jar
- xsd.jar

新しいシステムプロパティは次のようになります。

```
[component id].ext=[JAR files and/or folders]
```

例えば、デフォルトのDB2 Universal Database ClientおよびII4Cインストールを使用する場合、次のシステムプロパティをファイルに追加します。その際、システムプロパティは新しい行に記述し、行中に改行を入れず、末尾で改行してください。

```
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/cmgmt,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/java/jre/lib/ibmjsseprovider2.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/java/jre/lib/ibmjgssprovider.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/java/jre/lib/ibmpkcs.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/java/jre/lib/xml.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbview81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmb81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbcm81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/xsd.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/common.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/ecore.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbicm81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbwcm81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/jcache.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbutil81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbutilicm81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/icrm81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/db2jcc.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/db2jcc_license_cu.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/db2jcc_license_cisuz.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/xerces.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmblog4j81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/log4j-1.2.8.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbsdk81.jar,  
C:/Program Files/IBM/db2cmv8/lib/cmbwas81.jar
```

- 3) アプリケーションサーバーが現在実行されていない場合は、サーバーを起動します。実行されている場合は、サーバーを停止し、再起動します。

これで、IBMCMConnectorService プロパティシートから IBM Content Manager データストアに、「Use User credentials」をログインモードとして使用して接続できます。

これで、この手順に必要なステップを完了しました。

(オプション) IBMCMConnectorService プロパティシートから IBM Content Manager データストアに、「Use Credentials From Process Context」をログインモードとして使用して接続するには、次の手順を実行します。

6.9.2. 「Use Credentials from process context」 ログインモードを使用した接続

- 1) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。
`http://[host]/:[port]/adminui`
- 2) 上級管理者の資格情報を使用してログインします。インストール中に設定されたデフォルト値は、次のとおりです。

ユーザー名：administrator
パスワード：password
- 3) サービス／**Connector for IBM Content Manager** をクリックします
- 4) 必要なりポジトリ情報のすべてを入力して「保存」をクリックします。IBM Content Manager リポジトリ情報について詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。
- 5) 次のいずれかのタスクを実行します。
 - IBM Content Manager Authorization サービス (IBMCMAuthProvider) を使用して IBM Content Manager データストアのコンテンツを Workbench の Processes ビューで使用するには、この手順を続行します。IBM Content Manager Authorization サービスを使用すると、デフォルトの AEM Forms 認証が上書きされるので、IBM Content Manager の資格情報を使用して Workbench にログインするように設定する必要があります。
 - Workbench の Processes ビューで IBM Content Manager データストアのコンテンツを使用するために手順 4 で指定したシステム資格情報を使用するには、AEM Forms の上級管理者の資格情報（デフォルトは administrator と password）を使用して、Workbench にログインします。これで、この手順に必要なステップを完了しました。この場合、手順 4 で指定したシステム資格情報は、デフォルトリポジトリにアクセスするためのデフォルトの AEM Forms 認証サービスを使用します。
- 6) 管理コンソールにログインし、設定／**User Management**／ドメインの管理をクリックします。
- 7) 「新規エンタープライズドメイン」をクリックして、ドメイン ID と名前を入力します。ドメイン ID は、ドメインの一意の識別子です。名前は、ドメインの識別名です。

注：AEM Forms データベースとして DB2 を使用している場合、ID の許容される最大長は、1 バイト (ASCII) 文字で 100 文字、2 バイト文字で 50 文字、4 バイト文字で 25 文字です（管理ヘルプの「エンタープライズドメインの追加」を参照してください。）
- 8) カスタム認証プロバイダーを追加します。
 - 「認証を追加」をクリックします。
 - 認証プロバイダーリストで「カスタム」を選択し、「**IBMCMAuthProviderService**」を選択して、「OK」をクリックします。
- 9) LDAP 認証プロバイダーを追加します。
 - 「認証を追加」をクリックします。
 - 認証プロバイダーリストで「**LDAP**」を選択し、「OK」をクリックします。

10) LDAPディレクトリを追加します。

- 「ディレクトリを追加」をクリックします。
- 「プロファイル名」ボックスに一意の名前を入力し、「次へ」をクリックします。
- 「サーバー」、「ポート」、「SSL」、「バインド」および「ページに次の情報を入力」オプションの値を指定します。「バインド」オプションで「ユーザー」を選択する場合は、「名前」と「パスワード」フィールドにも値を指定する必要があります。(オプション) 必要に応じてベースドメイン名を取得するには、「BaseDNを取得」を選択します。完了したら、「次へ」をクリックします。
- ユーザー設定を指定し、「次へ」をクリックし、必要に応じてグループ設定を指定して「次へ」をクリックします。

上記の設定について詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックしてください。

11) 「OK」をクリックして「ディレクトリを追加」ページを閉じ、もう一度「OK」をクリックします。

12) 新しいエンタープライズドメインを選択し、「今すぐ同期」をクリックします。LDAP ネットワークのユーザーとグループ数および接続の速度によって、同期処理には数分かかる場合があります。

13) 同期のステータスを確認するには、「更新」をクリックし、「現在の同期の状態」列にステータスを表示します。

14) 設定／User Management／ユーザーとグループをクリックします。

15) LDAPから同期されたユーザーを検索し、以下のタスクを実行します。

- 1つ以上のユーザーを選択し、「ロールをアサイン」をクリックします。
- AEM Formsのロールを1つ以上選択し、「OK」をクリックします。
- 「OK」をもう一度クリックして、ロールアサインを確認します。

ロールをアサインするすべてのユーザーについて、この手順を繰り返します。詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。

16) Workbenchを起動し、IBM Content Manager データストア用の次の資格情報を使用してログインします。

Username : [username]@[repository_name]

Password : [password]

これで、IBMCMConnectorService オークストレーション可能コンポーネントのログインモードが「**Use Credentials from process context**」として選択されている場合に、Workbench のProcessesビューでIBM Content Manager データストアを使用できます。

6.10. Connector for IBM FileNet の設定

注：AEM Forms は FileNet 5.2 Content Engine をサポートしています。FileNet 5.2 Process Engine はサポートしていません。

AEM Forms は、IBM FileNet のバージョン 5.0 および 5.2 のみをサポートしています。ECM が適切にアップグレードされていることを確認してください。

Connector for IBM FileNet を AEM Forms の一部としてインストールした場合は、FileNet オブジェクトストアに接続するように、このサービスを設定する必要があります。

- 1) [appserverdomain]/config/config.xml ファイルを探し、そのバックアップコピーを作成します。
- 2) WebLogic Server Administration Console の「Domain Structure」で、**Environment** / **Servers** をクリックし、右側のウィンドウでサーバーの名前をクリックします。
- 3) 「Configuration」タブをクリックし、「Server Start」をクリックします。
- 4) Change Center で、「**Lock & Edit**」をクリックします。
- 5) [appserverdomain] フォルダにある adobe-component-ext.properties ファイルを開きます（ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します）。
- 6) 次の FileNet Application Engine JAR ファイルの場所を指定する、新しいシステムプロパティを追加します。

注：pe.jar ファイルは、デプロイメントで IBMFileNetProcessEngineConnector サービスを使用する場合にのみ追加します。新しいシステムプロパティには、次の構造を反映させる必要があります。

```
[component id].ext=[JAR files and/or folders]
```

注：プロパティファイルの既存のコンテンツを上書きしないでください。コンテンツに新しいシステムプロパティを追加します。

例えば、デフォルトの FileNet Application Engine インストールを Windows オペレーティングシステムで使用する場合、次のシステムプロパティをファイルに追加します。その際、システムプロパティは新しい行に記述し、行中に改行を入れず、末尾で改行してください。

注：次のテキストには、レイアウトのために 1 行が分割されている部分があります。このテキストを、このドキュメント以外の場所にコピーする場合は、新しい場所に貼り付けるときに改行を削除してください。

```
com.adobe.livecycle.ConnectorforIBMFileNet.ext=
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/lib2/javaapi.jar,
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/lib2/log4j-1.2.13.jar
```

- 7) (FileNet Process Engine Connector のみ) 次の手順で、プロセスエンジンの接続プロパティを設定します。

- テキストエディターを使用してファイルを作成し、次のコンテンツを 1 行で入力します。末尾で改行してください。

(FileNet 5.0 のみ)

```
RemoteServerUrl = cemp:http://[contentserver_IP]:[contentengine_port]/wsi/FNCEWS40DIME/
```

(FileNet 5.2 のみ)

```
RemoteServerUrl = cemp:http://[contentserver_IP]:[contentengine_port]/wsi/FNCEWS40MTOM/
```

- このファイルを WcmApiConfig.properties という名前で別のフォルダーに保存して、そのフォルダーの場所を adobe-component-ext.properties ファイルに追加します。

例えば、このファイルを c:\pe_config\WcmApiConfig.properties として保存して、パス c:\pe_config を adobe-component-ext.properties ファイルに追加します。

注：ファイル名では大文字と小文字が区別されます。

- カスタム JAAS 設定ファイルが使用されている場合、次の行をカスタム JAAS 設定ファイルに追加します。

```
FileNetP8 {weblogic.security.auth.login.UsernamePasswordLoginModule
required authOnLogin=true;};
FileNetP8WSI {com.filenet.api.util.WSILoginModule required;};
FileNetP8Engine
{weblogic.security.auth.login.UsernamePasswordLoginModule required
authOnLogin=true;};
FileNetP8Server
{weblogic.security.auth.login.UsernamePasswordLoginModule required
authOnLogin=true;};
```

ヒント：カスタム JAAS 設定ファイルが使用されているかどうかは、アプリケーションサーバーの start コマンドのプロパティ -Djava.security.auth.login.config の値で識別できます。

- (FileNet Process Engine Connector のみ) この FileNet Process Engine Connector をデプロイメントで使用する場合、設定に応じて次のいずれかの手順を実行します。

- カスタム JAAS ファイルをデプロイメントで使用する場合、次の行をカスタム JAAS 設定ファイルに追加します。

```
FileNetP8 {com.filenet.api.util.WSILoginModule required;};
```

- カスタム JAAS ファイルをデプロイメントで使わない場合、テキストエディターを使用して次の内容を含むファイルを作成します。

```
FileNetP8 {com.filenet.api.util.WSILoginModule required;};
```

このファイルを jaas.conf.WSI として保存して、その場所を、WebLogic Server start コマンドに次の Java オプションとして追加します。

```
-Djava.security.auth.login.config=<JAAS file location>
```

例えば、このファイルを C:\pe_config\jaas.conf.WSI として保存して、次の Java オプションを追加します。

```
-Djava.security.auth.login.config=C:/pe_config/jaas.conf.WSI
```

- config.xml ファイルを開き、管理対象サーバーのユーザードメインの <credential-encrypted> 値を探します。このエレメントに値が設定されていない場合は、手順 1 で作成した config.xml ファイルのバックアップコピーを開き、<credential-encrypted> 値をコピーします。
- 新しい config.xml ファイルに値を貼り付けてから、このファイルを保存して閉じます。
- アプリケーションサーバーが現在実行されていない場合は、サーバーを起動します。実行されている場合は、サーバーを停止し、再起動します。

- 13) Web ブラウザーを開き、次の URL を入力します。

`http://[host]:[port]/adminui`

- 14) 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

ユーザー名: administrator

パスワード: password

- 15) サービス / **Connector for IBM FileNet** をクリックします。

- 16) コンテンツエンジンの URL を入力します。例: `cemp:http://ContentEngineHostNameorIP:port/wsi/FNCEWS40MTOM?jaasConfigurationName=FileNetP8WSI`

- 17) 必要なすべての FileNet リポジトリ情報を入力し、「リポジトリサービスプロバイダー」の下で「**IBM FileNet** リポジトリプロバイダー」を選択します。

オプションのプロセスエンジンサービスをデプロイメントで使用する場合、「プロセスエンジン設定」領域で「**プロセスエンジンコネクタサービスを使用**」を選択し、プロセスエンジンの各設定を指定します。詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。

注: この手順で指定する資格情報は、IBM FileNet リポジトリサービスを後で起動するときに検証されます。資格情報が無効な場合はエラーが発生し、サービスは起動されません。

- 18) 「保存」をクリックし、サービス / アプリケーションおよびサービス / サービスの管理に移動します。

- 19) **IBMFileNetProcessEngineConnector** (設定されている場合) の横のチェックボックスを選択して、「開始」をクリックします。

- 20) 次のいずれかのタスクを実行します。

- FileNet Authorization サービス (IBMFileNetAuthProviderService) を使用して Workbench の Resources ビューで FileNet オブジェクトストアからコンテンツを表示するには、この手順を続行します。FileNet Authorization サービスを使用すると、デフォルトの AEM Forms 認証が上書きされるので、FileNet の資格情報を使用して Workbench にログインするように設定する必要があります。
- AEM Forms リポジトリを使用するには、AEM Forms の上級管理者の資格情報 (デフォルトは administrator と password) を使用して Workbench にログインします。この場合、手順 16 で指定した資格情報は、デフォルトリポジトリにアクセスするためにデフォルトの AEM Forms 認証サービスを使用します。

- 21) 次のタスクを実行して、リモートおよび EJB のエンドポイントを有効にします。

- 管理コンソールにログインして、ホーム / サービス / アプリケーションおよびサービス / サービスの管理を選択します。
- Connector for IBM FileNet カテゴリをフィルタリングして、「**IBMFileNetContentRepositoryConnector:1.0**」をクリックします。
- 無効になっているエンドポイントを選択して有効にします。

- 22) アプリケーションサーバーを再起動します。

- 23) 管理コンソールにログインし、設定 / **User Management** / ドメインの管理をクリックします。

- 24) 「新規エンタープライズドメイン」をクリックして、ドメインIDと名前を入力します。ドメインIDは、ドメインの一意の識別子です。名前は、ドメインの識別名です。

AEM Forms データベースとしてDB2を使用している場合、IDの許容される最大長は、1バイト（ASCII）文字で100文字、2バイト文字で50文字、4バイト文字で25文字です（[管理ヘルプ](#)の「エンタープライズドメインの追加」を参照してください）。

- 25) カスタム認証プロバイダーを追加します。

- 「認証を追加」をクリックします。
- 「認証プロバイダー」リストで「カスタム」を選択します。
- 「IBMFileNetAuthProviderService」を選択し、「OK」をクリックします。

- 26) LDAP 認証プロバイダーを追加します。

- 「認証を追加」をクリックします。
- 認証プロバイダーリストで「LDAP」を選択し、「OK」をクリックします。

- 27) LDAPディレクトリを追加します。

- 「ディレクトリを追加」をクリックし、「プロファイル名」ボックスに一意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
- 「サーバー」、「ポート」、「SSL」、「バインド」および「ページに次の情報を入力」オプションの値を指定します。「バインド」オプションで「ユーザー」を選択する場合は、「名前」と「パスワード」フィールドにも値を指定する必要があります。
- （オプション）必要に応じてベースドメイン名を取得するには、「BaseDNを取得」を選択します。完了したら、「次へ」をクリックします。
- ユーザー設定を指定し、「次へ」をクリックし、必要に応じてグループ設定を指定して「次へ」をクリックします。

設定について詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックしてください。

- 28) 「OK」をクリックして「ディレクトリを追加」ページを閉じ、もう一度「OK」をクリックします。

- 29) 新しいエンタープライズドメインを選択し、「今すぐ同期」をクリックします。LDAP ネットワークのユーザーとグループ数および接続の速度によって、同期処理には数分かかる場合があります。

（オプション）同期のステータスを確認するには、「更新」をクリックし、「現在の同期の状態」列にステータスを表示します。

- 30) 設定／User Management／ユーザーとグループをクリックします。

- 31) LDAPから同期されたユーザーを検索し、以下のタスクを実行します。

- 1つ以上のユーザーを選択し、「ロールをアサイン」をクリックします。
- AEM Formsのロールを1つ以上選択し、「OK」をクリックします。
- 「OK」をもう一度クリックして、ロールアサインを確認します。

ロールをアサインするすべてのユーザーについて、この手順を繰り返します。詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。

- 32) Workbench を起動して、IBM FileNet リポジトリ用の次の資格情報を使用してログインします。

ユーザー名: [username]@[repository_name]

Password: [password]

これで、FileNet オブジェクトストアが Workbench の Resources ビューに表示されます。

username@repository name を使用してログインしない場合、Workbench では、手順 16 で指定したデフォルトリポジトリへのログインが試行されます。

- 33) (オプション) Connector for IBM FileNet の AEM Forms サンプルをインストールする場合、Samples という名前の FileNet オブジェクトストアを作成してその中にインストールします。

Connector for IBM FileNet を設定したら、FileNet リポジトリを使用した Workbench の機能の設定について、管理ヘルプを参照することをお勧めします。

6.11. アダプティブフォームおよび Correspondence Management アセットの移行

移行ユーティリティにより、以前のバージョンのアセットが AEM 6.3 Forms で使用できるようになります。AEM パッケージ共有からユーティリティをダウンロードできます。手順について詳しくは、<https://helpx.adobe.com/jp/aem-forms/6-3/migration-utility.html> を参照してください。

6.11.1. Adobe Correspondence Management Utilities バンドルの削除

AEM Forms では、Correspondence Management Utilities バンドルに AEM Forms の以前のリリースが付属しています。このバンドルは、AEM 6.3 Forms のセットアップには必要ありません。次の手順を実行してバンドルをアンインストールします。

- 1) ブラウザーウィンドウで `http://[server]:[port]/lc/system/console/bundles` URL を開きます。
- 2) Adobe Correspondence Management Utilities バンドルを検索して開きます。
- 3) バンドルを削除するアイコンをクリックします。

6.11.2. Adobe Sign の再設定

Adobe Sign を以前のバージョンの AEM Forms で設定している場合は、AEM クラウドサービスから Adobe Sign を再設定します。詳しくは、<https://helpx.adobe.com/content/help/jp/aem-forms/6-3/adobe-sign-integration-adaptive-forms.html> を参照してください。

6.11.3. 分析とレポートの再設定

AEM 6.3 Forms では、ソースのトラフィック変数とインプレッションの成功イベントは利用できません。このため、AEM 6.3 Forms にアップグレードすると、AEM Forms は Adobe Analytics サーバーへのデータ送信を停止し、アダプティブフォームとアダプティブドキュメントの分析レポートは使用できなくなります。また、AEM 6.3 Forms には、フォームバージョン分析用のトラフィック変数と、フィールドの処理時間に関する成功イベントが導入されています。このため、AEM Forms 環境で分析とレポートを再設定してください。手順について詳しくは、<https://helpx.adobe.com/content/help/jp/aem-forms/6-3/configure-analytics-forms-documents.html> を参照してください。

フォームの平均記入時間とアダプティブドキュメントの平均読み取り時間を計算する方法が変更されました。したがって、AEM 6.3 Forms にアップグレードすると、これらの指標が古いデータ（以前の AEM Forms リリースのデータ）は、Adobe Analytics でしか使用できなくなります。これは、AEM Forms の分析レポートには表示されません。これらの指標について、AEM Forms の分析レポートでは、アップグレードが実行された後に取得されたデータを表示します。

6.12. Content Repository Connector サービスの設定

デフォルトでは、Content Repository Connector サービスは、`http://localhost:8080/lc/crx/server/` という URL を使用して設定されます。次の手順を実行して、使用する環境に合わせてサービスを構成します。

- 1) AEM Forms Admin UI に、資格情報 administrator/password を使用してログインします。管理 UI のデフォルト URL は `http://[IP]:[Port]/adminui` です。
- 2) サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理に移動します。
- 3) 編集のため、Content Repository Connector を検索して開きます。
- 4) 設定タブを開き、Experience Management Server フィールドのデフォルトの URL を、使用する環境の URL に変更します。

IP

アプリケーションサーバーを実行しているマシンの IP アドレス。

ポート

AEM Forms が使用しているポート番号。JBoss、WebLogic、WebSphere のデフォルトのポート番号は、それぞれ 8080、8001、9080 です。

7. 付録-コマンドラインインターフェイスを使用したインストール

7.1. 概要

JEE 上の AEM Forms では、インストールプログラムにコマンドラインインターフェイス (CLI) を提供しています。CLI は、JEE 上の AEM Forms の上級ユーザーが使用したり、インストールプログラムのグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) がサポートされていないサーバー環境で使用したりすることを前提としています。CLI はコンソールモードで実行します。1つのインタラクティブセッションで、すべてのインストール操作を行うことができます。

CLI インストールオプションを使用してモジュールをインストールする前に、該当する準備ガイド (新規のシングルサーバーインストール、クラスターセットアップまたはアップグレード) に従って、JEE 上の AEM Forms の実行に必要な環境の準備が整っていることを確認します。JEE 上の AEM Forms の完全なドキュメントは、http://www.adobe.com/go/learn_aemforms_documentation_63_jp から入手できます。

インストールプロセスを開始したら、画面の指示に従ってインストールオプションを選択します。各プロンプトに応答しながらインストールを進めてください。

注：前の手順で選択した内容を変更する場合は、back と入力します。quit と入力すれば、いつでもインストールをキャンセルできます。

7.2. JEE 上の AEM Forms のインストール

- 1) コマンドプロンプトを開き、実行可能なインストーラーが含まれるインストールメディアまたはハードディスクのフォルダーに移動します。
 - (Windows) server\Disk1\InstData\Windows_64\NoVM
 - (Linux) server/Disk1/InstData/Linux/NoVM
 - (Solaris) server/Disk1/InstData/Solaris/NoVM
- 2) コマンドプロンプトを開いて、次のコマンドを実行します。
 - (Windows) `install.exe -i console`
 - (Windows 以外) `/install.bin -i console`

注：-i console オプションを指定せずにコマンドを入力すると、GUI ベースのインストーラーが起動します。

3) 次の表の説明に従って、プロンプトに応答します。

プロンプト	説明
Choose Locale	インストールで使用するロケールを値 1～2 を入力して選択します。デフォルト値を選択するには、 Enter キーを押します。 English、または日本語を選択できます。デフォルトのロケールは日本語です。
Upgrade Installation	インストールオプションを選択して、 Enter キーを押します。Perform Update または Skip Update を選択できます。 インストーラーによって LiveCycle の以前のインストールが検出された場合、既存のインストールのアップグレードを選択できます。アップグレードインストールでは、現在のインストールで役立つように既存のインストールの情報が使用されます。
Choose Install Folder	Destination 画面で、 Enter キーを押してデフォルトディレクトリを使用するか、新しいインストールディレクトリの場所を入力します。 ディレクトリ名にアクセント記号付きの文字を使用しないでください。アクセント記号付きの文字を使用すると、CLI によってアクセントが無視され、アクセント記号付きの文字が変更されてからディレクトリが作成されます。
JEE 上の AEM Forms サーバー使用許諾契約書	Enter キーを押して、使用許諾契約のページに目を通します。 契約に同意する場合は、Y を入力し、 Enter キーを押します。
Pre-Installation Summary	Enter キーを押すと、選択した内容でインストールが続行します。 前の手順に戻って設定を変更するには、back と入力します。
Ready To Install	Enter キーを押すと、インストールプロセスが開始します。
Installing	インストール中、進行状況バーによりインストールの進行状況が示されます。
Configuration Manager	JEE 上の AEM Forms のインストールを完了するには、 Enter キーを押します。 Configuration Manager を GUI モードで実行するには、次のスクリプトを呼び出します。 (Windows) : C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms\configurationManager\bin\ ConfigurationManager.bat (Windows 以外) : /opt/adobe/Adobe_Experience_Manager_Forms/ configurationManager/bin/ConfigurationManager.sh
Installation Complete	Enter キーを押すと、インストーラーが終了します。

7.3. エラーログ

エラーが発生した場合は、次のインストールのログディレクトリで install.log を確認できます。

- (Windows) [aem-forms root]\log

8. 付録 - Configuration Manager コマンドラインインターフェイス

CLI は、Configuration Manager のグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) がサポートされていないサーバー環境で使用することを前提としています。

8.1. 操作の順序

Configuration Manager CLI は、GUI バージョンの Configuration Manager の操作と同じ順序で実行する必要があります。CLI の操作は以下の順序で実行してください。

- 1) JEE 上の AEM Forms を設定します。
- 2) CRX を設定します。
- 3) JEE 上の AEM Forms のコア設定を更新します。
- 4) 既存の自動インストールデータベースを移行します (自動アップグレードのみ)。
- 5) アプリケーションサーバーポートプロジを検証します。
- 6) データベース接続を検証します。
- 7) アプリケーションサーバーを設定します。
- 8) アプリケーションサーバーの設定を検証します。
- 9) JEE 上の AEM Forms をデプロイします。
- 10) JEE 上の AEM Forms を初期化します。
- 11) JEE 上の AEM Forms を検証します。
- 12) コンポーネントのデプロイメント前に重要なタスクを実行します。
- 13) JEE 上の AEM Forms モジュールをデプロイします。
- 14) JEE 上の AEM Forms モジュールのデプロイメントを検証します。
- 15) crx-repository をアップグレードします。
- 16) JEE 上の AEM Forms に必須のデータを移行します
- 17) デプロイメント後の設定を行います。
- 18) PDF Generator のシステム準備設定を確認します。
- 19) PDF Generator 用の管理者ユーザーを追加します。
- 20) Connector for IBM Content Manager を設定します。
- 21) Connector for IBM FileNet を設定します。
- 22) Connector for EMC Documentum を設定します。
- 23) Connector for SharePoint を設定します。

重要： Configuration Manager CLI の操作を完了したら、各クラスターノードを再起動する必要があります。

重要： Configuration Manager CLI の操作を完了したら、アプリケーションサーバーを再起動する必要があります。

8.2. コマンドラインインターフェイスのプロパティファイル

Configuration Manager CLI には、JEE 上の AEM Forms 環境用に定義したプロパティを含む 2 つのプロパティファイルが必要です。プロパティファイルのテンプレートである `cli_propertyFile_template.txt` および `cli_propertyFile_upgrade_template.txt` は、`[aem-forms root]/configurationManager/bin` フォルダーにあります。

- `cli_propertyFile_template.txt` ファイル（JEE 上の AEM Forms のインストールシナリオと設定シナリオに適用されるプロパティ全般を格納）
- `cli_propertyFile_upgrade_template.txt` ファイル（アップグレードタスク専用のプロパティを格納）以前のバージョンの JEE 上の AEM Forms からのアップグレードには両方必要です。

これらのファイルのコピーを作成して値を編集します。プロパティファイルは、インストールの状態に応じて作成する必要があります。次のいずれかの方法を使用します。

- プロパティファイル `cli_propertyFile_template.txt` および `cli_propertyFile_upgrade_template.txt` をコピーしてこれらのファイルをテンプレートとして使用し、使用する Configuration Manager 操作に基づいて値を編集します。
- Configuration Manager の GUI を使用し、GUI バージョンによって作成されたプロパティファイルを CLI バージョンのプロパティファイルとして使用します。`[aem-forms root]/configurationManager/bin/ConfigurationManager.bat/sh` ファイルを実行すると、`userValuesForCLI.properties` ファイルが `[aem-forms root]/configurationManager/config` ディレクトリに作成されます。このファイルを Configuration Manager CLI の入力として使用できます。

注：ファイルには、以下のオプションのプロパティは含まれていません。必要に応じて、これらのプロパティを手動でファイルに追加してください。

- `ApplicationServerRestartRequired`
- `lcGdsLocation`
- `lcPrevGdsLocation`

注：CLI プロパティファイルでは、Windows パスのディレクトリ区切り文字（¥）にエスケープ文字（¥）を使用する必要があります。例えば、指定する Fonts フォルダーが `C:¥Windows¥Fonts` である場合、Configuration Manager CLI スクリプトでは `C:¥¥Windows¥¥Fonts` と入力する必要があります。

注：次のモジュールは、ALC-LFS-ContentRepository に依存します。`cli_propertyFile_template.txt` をテンプレートとして使用する場合は、ALC-LFS-ContentRepository を `excludedSolutionComponents` リストから削除するか、あるいは次の LFS を `excludedSolutionComponents` リストに追加してください。

- ALC-LFS-ProcessManagement
- ALC-LFS-CorrespondenceManagement
- ALC-LFS-ContentRepository
- ALC-LFS-MobileForms
- ALC-LFS_FormsManager

8.3. JEE 上の AEM Forms コマンドのアップグレード

8.3.1. JEE 上の AEM Forms のコア設定の更新コマンド

upgrade-configureCoreSettings コマンドは、JEE 上の AEM Forms の様々なコア設定を更新します。例えば、元の LiveCycle システムで、グローバルドキュメントストレージ (GDS) ディレクトリを C:\LC\GDS に設定しており、新しい JEE 上の AEM Forms で、E:\DS\GDS に設定する場合、この CLI コマンドを実行しない限り、新しい場所はデータベース内で更新されません。同様の方法で更新できる他のコア設定には、Adobe サーバーフォントディレクトリ、カスタマーフォントディレクトリ、システムフォントディレクトリ、FIPS の有効化、JEE 上の AEM Forms 一時ディレクトリ、JEE 上の AEM Forms グローバルドキュメントストレージディレクトリがあります。upgrade-configureCoreSettings コマンドでは以下のプロパティを使用できます。

プロパティ	詳細	必須	空の値
prevLCVersion	アップグレードされる JEE 上の AEM Forms のバージョン。有効値は 6.1 または 6.2 です。 注：LiveCycle ES4 SP1 から AEM 6.3 Forms にアップグレードするには、値 6.1 を指定します。	はい	いいえ
excludedSolutionComponents	アップグレード (またはインストール) されないモジュールのコンマ区切りリスト。これは、インストール (ライセンス) されているソリューションコンポーネントを Configuration Manager GUI で選択解除することと同等です。	いいえ	はい

8.3.2. (自動オプションのみ) 既存の自動データベースの移行コマンド

upgrade-migrateTurnkeyDatabase コマンドは、以前の LiveCycle の MySQL 自動インストールの「adobe」スキーマから、JEE 上の AEM Forms の MySQL 自動インストールの「adobe」スキーマに、データを移行するために使用します。このコマンドを実行する前に、両方の MySQL サービスが実行中で、アクセス可能であることを確認してください。また、両方の MySQL サービスが別々のポートで実行されていることも必要です。upgrade-migrateTurnkeyDatabase コマンドでは以下のプロパティを使用できます。

注：このコマンドを実行するのは、JEE 上の AEM Forms 自動インストールと以前の自動インストールが同じマシン上に共存し、JEE 上の AEM Forms を自動インストールするときにアップグレードインストールを実行することを選択した場合のみです。

プロパティ	詳細	必須	空の値
lcDatabaseHostName	JEE 上の AEM Forms 自動データベースのホスト名	はい	いいえ
lcDatabaseName	JEE 上の AEM Forms 自動データベースのデータベース名デフォルトは adobe です。	はい	いいえ
lcDatabaseUserName	JEE 上の AEM Forms 自動データベースにアクセスするユーザー名	はい	いいえ
lcDatabaseUserPassword	JEE 上の AEM Forms 自動データベースにアクセスするパスワードファイルでパスワードを指定しなかった場合、コマンドラインでパスワードを指定するよう求められます。	いいえ	はい

プロパティ	詳細	必須	空の値
lcDatabaseDriverFile	JEE 上の AEM Forms 自動データベースのドライバーファイルへのパス	はい	いいえ
lcDatabasePortNumber	JEE 上の AEM Forms 自動データベースが使用するポート	はい	いいえ
lcDatabaseType	JEE 上の AEM Forms 自動データベースに設定されるデータベースのタイプ デフォルトは mysql です。	はい	いいえ
lcPrevDatabaseHostName	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースのホスト名	はい	いいえ
lcPrevDatabaseName	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースのデータベース名デフォルト は adobe です。	はい	いいえ
lcPrevDatabaseUserName	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースにアクセスするユーザー名	はい	いいえ
lcPrevDatabaseUserPassword	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースにアクセスするパスワード ファイルでパスワードを指定しなかった場合、コマンドラインでパスワード を指定するよう求められます。	いいえ	はい
lcPrevDatabaseDriverFile	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースのドライバーファイルへのパス	はい	いいえ
lcPrevDatabasePortNumber	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースが使用するポート	はい	いいえ
lcPrevDatabaseType	以前の JEE 上の AEM Forms 自動データベースに設定されるデータベースの タイプデフォルトは mysql です。	はい	いいえ

8.3.3. デプロイメント完了後の設定コマンド

upgrade-configurePostDeploy コマンドは、システムの実際のアップグレードを行います。JEE 上の AEM Forms EAR ファイルおよびモジュールがデプロイされた後で実行されます。

upgrade-configurePostDeploy コマンドでは以下のプロパティを使用できます。

プロパティ	詳細	必須	空の値
prevLCVersion	アップグレードされる JEE 上の AEM Forms のバージョン。有効値は 6.1 または 6.2 です。 注：LiveCycle ES4 SP1 から AEM 6.3 Forms にアップグレードするには、 値 6.1 を指定します。	はい	いいえ
excludedSolutionComponents	インストールされない JEE 上の AEM Forms コンポーネントのコンマ区切りのリスト。これは、インストール（ライセンス）されているソリューション コンポーネントを GUI で選択解除することと同等です。	いいえ	はい

JEE 上の AEM Forms のホストおよび認証情報

プロパティ	詳細	必須	空の値
LCHost	JEE 上の AEM Forms サーバーのホスト名。	はい	いいえ
LCPort	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート番号。	はい	いいえ
localServer.appServerRootDir	アプリケーションサーバーのクライアント JAR ファイルにアクセスするために使用されます (WebLogic および WebSphere の場合のみ、ローカルアプリケーションサーバーのルートディレクトリが必要です)。	はい	はい
LCAdminUserID	JEE 上の AEM Forms の管理者ユーザーのユーザー名	はい	いいえ
LCAdminPassword	管理者ユーザーのパスワード。ファイルでパスワードを指定しなかった場合、コマンドラインでパスワードを指定するよう求められます。	いいえ	はい

JEE 上の AEM Forms データベースの情報

プロパティ	詳細	必須	空の値
lcDatabaseType	JEE 上の AEM Forms に設定されるデータベースのタイプ。mysql、db2、oracle または sqlserver の値を指定できます。	はい	いいえ
lcDatabaseHostName	JEE 上の AEM Forms データベースのホスト名。	はい	いいえ
lcDatabasePortNumber	JEE 上の AEM Forms データベースのポート番号。	はい	いいえ
lcDatabaseDriverFile	JEE 上の AEM Forms データベースのドライバファイルへのパス。	はい	いいえ
lcDatabaseUserName	JEE 上の AEM Forms データベースのにアクセスするユーザー名。	はい	いいえ
lcDatabaseName	JEE 上の AEM Forms データベースの名前。デフォルトは adobe です。	はい	いいえ
lcDatabaseUserPassword	データベースにアクセスするためのパスワード。ファイルでパスワードを指定しなかった場合、コマンドラインでパスワードを指定するよう求められます。	いいえ	はい

8.4. 一般的な設定プロパティ

8.4.1. 共通のプロパティ

共通のプロパティは以下のとおりです。

WebLogic および WebSphere 固有のプロパティ：アプリケーションサーバーの設定、JEE 上の AEM Forms のデプロイ、アプリケーションサーバートポロジの検証およびアプリケーションサーバー設定の検証操作に必要です。

JEE 上の AEM Forms Server 固有のプロパティ：JEE 上の AEM Forms を初期化し、JEE 上の AEM Forms コンポーネントの操作をデプロイするのに必要です。

以下の操作に必要なプロパティは次の表のとおりです。

- JEE 上の AEM Forms の初期化
- JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイ

プロパティ	値	説明
targetServer.topologyType	server または cluster	JEE 上の AEM Forms をデプロイするアプリケーションサーバートポロジのタイプ。
targetServer.name	文字列	アプリケーションサーバー（管理サーバー）ノードまたはクラスターに割り当てられた名前。
targetServer.adminHost	文字列 デフォルトは localhost です。	Admin サーバーがインストールされているサーバーのホスト名。
targetServer.adminPort	整数値	管理サーバーが SOAP 要求をリスンするポートのポート番号。
targetServer.adminUserID	文字列	アプリケーションサーバーへのアクセスに使用する管理ユーザー ID。
targetServer.adminPassword	文字列	WebLogic 管理ユーザー ID に関連付けられているパスワード。
localServer.appServerRootDir	(Windows) WebLogic <12.2.1 または 12.1.3> C:\Oracle\Middleware\wlserver (Linux, Solaris) WebLogic <12.2.1 または 12.1.3> /opt/Oracle/Middleware/wlserver	ローカルに設定するアプリケーションサーバーインスタンスのルートディレクトリ（JEE 上の AEM Forms をデプロイしたり、JEE 上の AEM Forms をデプロイするリモートサーバーと通信するために使用したりするディレクトリ）。
targetServer.appServerRootDir	デフォルト： (Windows) WebLogic <12.2.1 または 12.1.3> C:\Oracle\Middleware\wlserver (Linux, Solaris) WebLogic <12.2.1 または 12.1.3> /opt/Oracle/Middleware/wlserver	リモートサーバー上に設定するアプリケーションサーバーインスタンスのルートディレクトリ（JEE 上の AEM Forms のデプロイ先となるディレクトリ）。

プロパティ	値	説明
JEE 上の AEM Forms Server 固有のプロパティ		
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms がデプロイされるサーバーのホスト名。 クラスターデプロイメントの場合、アプリケーションサーバーを実行しているいずれかのクラスターノードのホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms がデプロイされる Web ポート番号。
excludedSolutionComponents	文字列。次の値がサポートされています。 ALC-LFS-Forms、 ALC-LFS-ConnectorEMCDocumentum、 ALC-LFS-ConnectorIBMFileNet、 ALC-LFS-ConnectorIBMContentManager、 ALC-LFS-DigitalSignatures、 ALC-LFS-DataCapture、 ALC-LFS-Output、 ALC-LFS-PDFGenerator、 ALC-LFS-ProcessManagement、 ALC-LFS-ReaderExtensions、 ALC-LFS-RightsManagement、 ALC-LFS-CorrespondenceManagement、 ALC-LFS-ContentRepository、 ALC-LFS-MobileForms、 ALC-LFS_FormsManager	(オプション) 設定をしない JEE 上の AEM Forms モジュールをリストします。構成対象から除外するモジュールが複数ある場合はコンマで区切ります。
includeCentralMigrationService	true : サービスを含める false : サービスを含めない	Central Migration Bridge Service を含めるまたは除外するためのプロパティ。
CRX Content レポジトリ 次のプロパティは、 cli_propertyFile_ crx_template.txt ファイルで指定されます。	true : false :	
contentRepository.rootDir		CRX レポジトリのパス。
is.new.installation.of.crx.repository	true : 新しいリポジトリを作成 false : 既存のリポジトリにアップグレード	アップグレード前にコンテンツリポジトリが存在せず、初めてコンテンツリポジトリをインストールする場合、値を true に設定します。
use.crx3.mongo	true : false :	新規インストールを実行する場合、Mongo DB で CRX3 を使用するには値を true に設定します。値が false の場合、CRX3 TAR が設定されます。
mongo.db.uri	<Mongo DB の URI>	Mongo DB を使用している場合は、Mongo DB の URI を設定します
mongo.db.name	<Mongo DB の名前>	Mongo DB を使用している場合は、Mongo DB インスタンスの名前を指定します

プロパティ	値	説明
use.crx3.rdb.mk	true : false :	このプロパティの値がtrueの場合、CRX リポジトリをRDB MKで設定します。デフォルト値はfalseです。この場合、リポジトリはCRX3 TARに設定されます。

8.4.2. JEE 上の AEM Forms プロパティの設定

これらのプロパティは、JEE 上の AEM Forms の操作の設定にのみ適用されます。

プロパティ	値	説明
AdobeFontsDir	文字列	Adobe サーバーフォントディレクトリの場所。 このパスは、デプロイ先のサーバーからアクセスできるようにする必要があります。 このパスは、デプロイ先のすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
customerFontsDir	文字列	カスタマーフォントディレクトリの場所。 このパスは、デプロイ先のサーバーからアクセスできるようにする必要があります。 このパスは、デプロイ先のすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
systemFontsDir	文字列	システムフォントディレクトリの場所。 このパスは、デプロイ先のサーバーからアクセスできるようにする必要があります。 このパスは、デプロイ先のすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
LCTempDir	文字列	一時ディレクトリの場所。 このパスは、デプロイ先のサーバーからアクセスできるようにする必要があります。 このパスは、デプロイ先のすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
LCGlobalDocStorageDir	文字列	グローバルドキュメントストレージのルートディレクトリ。 長期間有効なドキュメントを保存したり、それらをすべてのクラスターノードで共有したりするために使用する、NFS 共有ディレクトリのパスを指定します。 このパスは、デプロイ先のサーバーからアクセスできるようにする必要があります。 このパスは、デプロイ先のすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
EnableDocumentDBStorage	true または false デフォルト: false	永続ドキュメントについて、データベースへのドキュメントの保存を有効または無効にします。 データベースへのドキュメントの保存を有効にしても、GDS のファイルシステムディレクトリは必要です。

8.4.3. アプリケーションサーバーの設定および検証のプロパティ

WebLogicの設定および検証のプロパティ

Configuration Manager では、必要に応じて、WebLogic アプリケーションサーバーを JEE 上の AEM Forms で設定および検証できます。

以下の操作に適用されるプロパティは次の表のとおりです。

- アプリケーションサーバーの構成
- アプリケーションサーバーポートの検証
- アプリケーションサーバー構成の検証
- データベース接続の検証

アプリケーションサーバーのプロパティ

プロパティ	値	説明
アプリケーションサーバー固有のプロパティセクションを設定する必要があります。詳しくは、「共通のプロパティ」を参照してください。		
jvm.initialHeapSize	デフォルト： 256	JVM の初期ヒープサイズ (MB)。
jvm.maxHeapSize	デフォルト： 4096	JVM の最大ヒープサイズ (MB)。
WebLogic および WebSphere クラスターのみ		
cache.useUDP	true	JEE 上の AEM Forms でキャッシュの実装に UDP を使用する場合は、値を <code>true</code> に設定してください。 JEE 上の AEM Forms でキャッシュの実装に TCP を使用する場合は、値を <code>false</code> に設定してください。
cache.udp.port	デフォルト： 33456	プライマリコンピューターが UDP ベースのキャッシュ通信に使用するポート番号。 <code>cache.useUDP=true</code> の場合にのみ設定します。
cache.tcpip.primaryhost	文字列	プライマリアプリケーションサーバーがインストールされているコンピューターのホスト名。 <code>cache.useUDP!=true</code> の場合にのみ設定します。
cache.tcpip.primaryport	デフォルト： 22345	プライマリアプリケーションサーバーコンピューターが TCP ベースのキャッシュ通信に使用するポートのポート番号。 <code>cache.useUDP!=true</code> の場合にのみ設定します。

プロパティ	値	説明
cache.tcpip.secondaryhost	文字列	セカンダリアプリケーションサーバーがインストールされているコンピュータのホスト名。 cache.useUDP!=true の場合にのみ設定します。
cache.tcpip.secondaryport	デフォルト : 22345	セカンダリアプリケーションサーバーコンピュータがTCPベースのキャッシュ通信に使用するポートのポート番号。 cache.useUDP!=true の場合にのみ設定します。
WebLogic サーバーのコアクラスパス構成		
classpath.targetServer.javaHome	文字列	ターゲットアプリケーションサーバーの構成では、ターゲットアプリケーションサーバーの実行で使用する Java Home の場所を指定する必要があります。 このパスは、構成するサーバーからアクセスできる必要があります。 このパスは、設定するすべてのクラスターノードからアクセスできるようにする必要があります。
classpath.targetServer.pop3JarPath	文字列	ターゲットアプリケーションサーバーがアクセスできる Pop3 JAR ファイルのパス。このパスは、構成するサーバーからアクセスできる必要があります。
データソース構成		
datasource.dbType	選択 : • oracle • db2 • sqlserver	JEE 上の AEM Forms で使用するために設定されるデータベースのタイプ。
datasource.dbName	文字列	データベースの名前。
datasource.dbHost	文字列	データベースがあるサーバーのホスト名または IP アドレス。
datasource.dbPort	整数値	データベースと通信するときに JEE 上の AEM Forms が使用するデータベースポート。
datasource.dbUser	文字列	データベースにアクセスするときに JEE 上の AEM Forms が使用するユーザー ID。
datasource.dbPassword	文字列	データベースユーザー ID に関連付けられているパスワード。
datasource.target.driverPath	文字列	アプリケーションサーバーの lib ディレクトリ内の JDBC ドライバー。 このパスは、設定するサーバーからアクセスできる、有効なパスである必要があります。 このパスは、設定するすべてのクラスターノードからアクセスできる、有効なパスである必要があります。
datasource.local.driverPath	文字列	ローカル JDBC ドライバー。この値は、直接データベース接続のテストにのみ使用します。

8.4.4. JEE 上の AEM Forms プロパティのデプロイ

これらの JEE 上の AEM Forms プロパティのデプロイは、JEE 上の AEM Forms のデプロイの設定にのみ適用されます。

プロパティ	値	説明
詳しくは、「 共通のプロパティ 」を参照してください。		
deployment.includeIVS	false	IVS EAR ファイルをデプロイメントに含めるかどうかを指定します。IVS EAR ファイルは実稼働環境に含めないようにすることをお勧めします。

8.4.5. JEE 上の AEM Forms プロパティの初期化

これらの JEE 上の AEM Forms プロパティの初期化は、JEE 上の AEM Forms の初期化の設定にのみ適用されます。

プロパティ	値	説明
詳しくは、「 共通のプロパティ 」を参照してください。		

8.4.6. JEE 上の AEM Forms コンポーネントプロパティのデプロイ

以下の操作に適用されるプロパティは次の表のとおりです。

- JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイ
- JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイメントの検証
- JEE 上の AEM Forms Server の検証

プロパティ	値	説明
JEE 上の AEM Forms Server 情報セクションを設定する必要があります。詳しくは、「 共通のプロパティ 」を参照してください		
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。このパスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。

8.4.7. PDF Generator 用の管理者ユーザーの追加

以下のプロパティは、PDF Generator 用の管理者ユーザーを追加する場合にのみ適用されます。これらのプロパティは、cli_propertyFile_pdfg_template.txt にあります。

プロパティ	値	説明
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms がインストールされるホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート番号。
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。このパスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCServerMachineAdminUser	文字列	JEE 上の AEM Forms をホストする運用システムの管理者ユーザーのユーザー ID。
LCServerMachineAdminUserPasswd	文字列	JEE 上の AEM Forms をホストする運用システムの管理者ユーザーのパスワード。

8.4.8. Connector for IBM Content Manager の設定

注：以下のプロパティは cli_propertyFile_ecm_ibmcm_template.txt ファイル内で指定されています。

プロパティ	値	説明
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms がインストールされるホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート番号。
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。このパスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。
CDVTopology.appserverrootdir	文字列	リモートサーバー上に設定するアプリケーションサーバーインスタンスのルートディレクトリ（JEE 上の AEM Forms のデプロイ先となるディレクトリ）
ConfigureIBMC	true または false	Connector for IBM Content Manager を設定するには、true を指定します。
IBMCClientPathDirectory	文字列	IBM Content Manager クライアントのインストールディレクトリの場所。

プロパティ	値	説明
DataStoreName	文字列	接続する IBM Content Manager サーバーのデータストアの名前。
IBMCMUsername	文字列	IBM Content Manager 管理者ユーザーに割り当てるユーザー名。このユーザー ID は、IBM Content Manager へのログインに使用されます。
IBMCMPassword	文字列	IBM Content Manager 管理者ユーザーに割り当てるパスワード。このパスワードは、IBM Content Manager へのログインに使用されます。
ConnectionString	文字列	IBM Content Manager に接続するための接続文字列内に使用される追加の引数（オプション）。

8.4.9. Connector for IBM FileNet の設定

注：以下のプロパティは cli_propertyFile_ecm_filenet_template.txt ファイル内で指定されています。

プロパティ	値	説明
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms サーバーがインストールされるマシンのホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート番号。
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。このパスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。
CDVTopology.appserverrootdir	文字列	リモートサーバー上に設定するアプリケーションサーバーインスタンスのルートディレクトリ（JEE 上の AEM Forms のデプロイ先となるディレクトリ）。
ConfigureFilenetCE	true または false	Connector for IBM FileNet を設定するには、true を指定します。
FilenetConfigureCEVersion	文字列	設定する FileNet クライアントのバージョン。FilenetClientVersion5.0 または FilenetClientVersion5.2 を指定します。
FilenetCEClientPathDirectory	文字列	IBM FileNet Content Manager クライアントのインストールディレクトリの場所。
ContentEngineName	文字列	IBM FileNet Content Engine がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレス
ContentEnginePort	文字列	IBM FileNet Content Engine が使用するポート番号。
CredentialProtectionSchema	CLEAR または SYMMETRIC	保護のレベルを指定します。

プロパティ	値	説明
EncryptionFileLocation	文字列	暗号化ファイルの場所。これは、CredentialProtectionSchema 属性に対して SYMMETRIC オプションを選択した場合にのみ必要です。パス区切り文字には、スラッシュ (/) または二重の円記号 (\\) を使用します。
DefaultObjectStore	文字列	Connector for IBM FileNet Content Server のオブジェクトストアの名前。
FileNetContentEngineUsername	文字列	IBM FileNet Content Server に接続するためのユーザー ID。読み取りアクセス権限を持つユーザー ID では、デフォルトのオブジェクトストアへの接続が許可されます。
FileNetContentEnginePassword	文字列	IBM FileNet ユーザーに割り当てるパスワード。このパスワードは、デフォルトのオブジェクトストアに接続する際に使用されます。
ConfigureFileNetPE	true または false	Connector for IBM FileNet を設定するには、true を指定します。
FileNetPEClientPathDirectory	文字列	IBM FileNet クライアントのインストールディレクトリの場所。
FileNetProcessEngineHostname	文字列	プロセスルーターのホスト名または IP アドレス。
FileNetProcessEnginePortNumber	整数値	IBM FileNet Content Server のポート番号。
FileNetPERouterURLConnectionPoint	文字列	プロセスルーターの名前。
FileNetProcessEngineUsername	文字列	IBM FileNet Content Server に接続するためのユーザー ID。
FileNetProcessEnginePassword	文字列	IBM FileNet Content Server に接続するためのパスワード。

8.4.10. Connector for EMC Documentum の設定

注：以下のプロパティは cli_propertyFile_ecm_documentum_template.txt ファイル内で指定されています。

プロパティ	値	説明
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms サーバーがインストールされるホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート番号。
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用されます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。このパスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。
CDVTopology.appserverrootdir	文字列	リモートサーバー上に設定するアプリケーションサーバーインスタンスのルートディレクトリ (JEE 上の AEM Forms のデプロイ先となるディレクトリ)。
ConfigureDocumentum	true または false	Connector for EMC Documentum を設定するには、true を指定します。

プロパティ	値	説明
DocumentumClientVersion	文字列	設定する EMC Documentum クライアントのバージョン。 DocumentumClientVersion7.0 または DocumentumClientVersion6.7 を指定します。
DocumentumClientPathDirectory	文字列	EMC Documentum クライアントのインストールディレクトリの場所。
ConnectionBrokerHostName	文字列	EMC Documentum Content Server のホスト名または IP アドレス。
ConnectionBrokerPortNumber	文字列	EMC Documentum Content Server のポート番号。
DocumentumUsername	文字列	EMC Documentum Content Server に接続するためのユーザー ID。
DocumentumPassword	文字列	EMC Documentum Content Server に接続するためのパスワード。
DocumentumDefaultRepositoryName	文字列	MC Documentum Content Server のデフォルトリポジトリの名前。

8.4.11. Connector for Microsoft SharePoint の設定

注：以下のプロパティは cli_propertyFile_ecm_sharepoint_template.txt ファイル内で指定されています。

プロパティ	値	説明
LCHost	文字列	JEE 上の AEM Forms サーバーがインストールされるホスト名。
LCPort	整数値	JEE 上の AEM Forms アプリケーションサーバーが構成されるポート 番号。
LCAdminUserID	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるユーザー ID。 このユーザー ID は、Administration Console へのログオンに使用さ れます。
LCAdminPassword	文字列	JEE 上の AEM Forms 管理者ユーザーに割り当てられるパスワード。この パスワードは、Administration Console へのログオンに使用されます。
CDVTopology.appserverrootdir	文字列	リモートサーバー上に設定するアプリケーションサーバーインスタン スのルートディレクトリ (JEE 上の AEM Forms のデプロイ先となる ディレクトリ)。
ConfigureSharePoint	true または false	Connector for Microsoft SharePoint を設定するには、true を指定します。
SharePointServerAddress	文字列	SharePoint Server のホスト名または IP アドレス
SharePointUsername	文字列	SharePoint Server に接続するためのユーザー ID。
SharePointPassword	文字列	SharePoint Server に接続するためのパスワード。
SharePointDomain	文字列	SharePoint Server のドメイン名。
ConnectionString	文字列	SharePoint Server に接続するための接続文字列内に使用される追加の 引数 (オプション)。

8.4.12. コマンドラインインターフェイスの使用

プロパティファイルを設定したら、[AEM Forms on JEE root]/configurationManager/bin フォルダーに移動する必要があります。

Configuration Manager CLI のコマンドの詳細な説明を表示するには、`ConfigurationManagerCLI help <command name>` と入力します。

JEE 上の AEM Forms の設定 CLI の使用

JEE 上の AEM Forms の操作の設定では、次の構文を使用する必要があります。

`configureLiveCycle -f <propertyFile>`

場所：

- `-f <propertyFile>`：必要な引数が含まれるプロパティファイル。プロパティファイルの作成について詳しくは、「[コマンドラインインターフェイスのプロパティファイル](#)」を参照してください。

CRX CLI の使用の設定

CRX リポジトリの設定では、次の構文を使用する必要があります。

`configureCRXRepository -f <propertyFile>`

アプリケーションサーバートポロジの検証 CLI の使用

アプリケーションサーバートポロジの検証操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

`validateApplicationServerTopology -f <propertyFile> -targetServer_AdminPassword <password>`

場所：

- `-targetServer_AdminPassword <password>`：コマンドラインで管理者パスワードを設定できます。この引数を指定すると、プロパティファイルの `targetServer.adminPassword` プロパティが上書きされます。

データベース接続の検証 CLI の使用

データベース接続の検証操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

`validateDBConnectivity -f <propertyFile> -datasource_dbPasssword <password>`

場所：

- `-datasource_dbPasssword <password>`：コマンドラインでデータベースユーザーパスワードを設定できます。この引数を指定すると、プロパティファイルの `datasource.dbPasssword` プロパティが上書きされます。

アプリケーションサーバーの設定 CLI の使用

アプリケーションサーバーの設定操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
configureApplicationServer -targetServer_AdminPassword <password> -f <propertyFile>  
[-skip <configurationsToSkipList>]
```

場所：

- `-targetServer_AdminPassword <password>`：コマンドラインで管理者パスワードを設定できます。この引数を指定すると、プロパティファイルの `targetServer_AdminPassword` プロパティが上書きされます。
- `-skip <configurationsToSkipList>`：構成しないアプリケーションサーバーコンポーネントを指定できるオプションのパラメーターです。構成対象から除外するコンポーネントが複数ある場合はコンマで区切ります。有効なオプションは、`Datasource` および `Core` です。

アプリケーションサーバー設定の検証 CLI の使用

アプリケーションサーバー構成の検証操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

```
validateApplicationServerConfigurations -f <propertyFile> -targetServer_AdminPassword <password>
```

場所：

- `-targetServer_AdminPassword <password>`：コマンドラインで管理者パスワードを設定できます。この引数を指定すると、プロパティファイルの `targetServer.adminPassword` プロパティが上書きされます。

（WebSphere および Weblogic のみ）JEE 上の AEM Forms デプロイ CLI の使用

JEE 上の AEM Forms のデプロイの操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
deployLiveCycle -f <propertyFile>
```

重要： JEE 上の AEM Forms のデプロイの操作を完了したら、アプリケーションサーバーを再起動する必要があります。

JEE 上の AEM Forms 初期化 CLI の使用

JEE 上の AEM Forms の初期化の操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
initializeLiveCycle -f <propertyFile>
```

JEE 上の AEM Forms Server の検証 CLI の使用

JEE 上の AEM Forms の検証操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

```
validateLiveCycleServer -f <propertyFile> -LCAdminPassword <password>
```

場所：

- `-LCAdminPassword <password>`：コマンドライン上で管理者パスワードを設定できます。この引数を指定すると、プロパティファイルの `targetServer.adminPassword` プロパティが上書きされます。

JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイ CLI の使用

JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイの操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
deployLiveCycleComponents -f <propertyFile> -LCAdminPassword <password>
```

JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイメントの検証 CLI の使用

JEE 上の AEM Forms コンポーネントのデプロイメントの検証操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

```
validateLiveCycleComponentDeployment -f <propertyFile> -LCAdminPassword <password>
```

PDF Generator のシステム準備設定の確認

PDF Generator のシステム準備設定の確認操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
pdfg-checkSystemReadiness
```

PDF Generator の管理者ユーザーの追加

PDF Generator の管理者ユーザーの追加操作では、次の構文を使用する必要があります。

```
pdfg-addAdminUser -f <propertyFile>
```

場所：

- -f <propertyFile>：必要な引数が含まれるプロパティファイル。プロパティファイルの作成について詳しくは、「[コマンドラインインターフェイスのプロパティファイル](#)」を参照してください。

Connector for IBM Content Manager の設定

Connector for IBM Content Manager の設定操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

```
IBMCM-configurationCLI -f <propertyFile>
```

重要： [aem-forms root]\configurationManager\bin\ ディレクトリにある cli_propertyFile_ecm_ibmcm_template.txt という名前の <propertyFile> を修正します。

- 1) [aem-forms root]/configurationManager/configure-ecm/weblogic の adobe-component-ext.properties ファイルを次の [appserver root]/users_projects/domain/[appserverdomain] ディレクトリにコピーします。
- 2) アプリケーションサーバーを再起動します。
- 3) 管理コンソールから以下のサービスを開始します。
 - IBMCMAuthProviderService
 - IBMCMConnectorService

Connector for IBM FileNet の設定

Connector for IBM FileNet の設定操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

`filenet-configurationCLI -f <propertyFile>`

重要：[aem-forms root]\configurationManager\bin\ディレクトリにある `cli_propertyFile_ecm_filenet_template.txt` という名前の `<propertyFile>` を修正します。

Connector for IBM Content Manager の設定を完了するには、次の手順を手動で実行してください。

- 1) [aem-forms root]/configurationManager/configure-ecm/weblogic の `adobe-component-ext.properties` ファイルを次の [appserver root]/users_projects/domain/[appserverdomain] ディレクトリにコピーします。
- 2) カスタム JAAS ファイルをデプロイメントで使用する場合、カスタム JAAS ファイルを探し、そのファイルに [aem-forms root]/configurationManager/configure-ecm/weblogic ディレクトリにある `jaas.conf.WSI` ファイルの内容を追加します。そうしない場合は、`jaas.conf.WSI` ファイルの場所を WebLogic Server の `start` コマンドに次の Java オプションとして追加します

```
-Djava.security.auth.login.config=[aem-forms root]/configurationManager/
configure-ecm/weblogic/jaas.conf.WSI.
```

- 3) アプリケーションサーバーを再起動します。
- 4) 管理コンソールから以下のサービスを開始します。
 - IBMFileNetAuthProviderService
 - IBMFileNetContentRepositoryConnector
 - IBMFileNetRepositoryProvider
 - IBMFileNetProcessEngineConnector（設定されている場合）

Connector for EMC Documentum の設定

Connector for EMC Documentum の設定操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

`documentum-configurationCLI -f <propertyFile>`

重要：[aem-forms root]\configurationManager\bin\ディレクトリにある `cli_propertyFile_ecm_documentum_template.txt` という名前の `<propertyFile>` を修正します。

Connector for EMC Documentum の設定を完了するには、次の手順を手動で実行してください。

- 1) [aem-forms root]/configurationManager/configure-ecm/weblogic の `adobe-component-ext.properties` ファイルを次の [appserver root]/users_projects/domain/[appserverdomain] ディレクトリにコピーします。
- 2) アプリケーションサーバーを再起動します。
- 3) 管理コンソールから以下のサービスを開始します。
 - EMCDocumentumAuthProviderService
 - EMCDocumentumRepositoryProvider
 - EMCDocumentumContentRepositoryConnector

Connector for Microsoft SharePoint の設定

Connector for Microsoft SharePoint の設定操作（オプション）では、次の構文を使用する必要があります。

```
sharepoint-configurationCLI -f <propertyFile>
```

場所：

重要：[aem-forms root]\configurationManager\bin\ ディレクトリにある cli_propertyFile_ecm_sharepoint_template.txt という名前の <propertyFile> を修正します。

8.5. 使用例

C:\Adobe\Adobe_Experience_Manager_Forms\configurationManager\bin から、次のように入力します。

```
ConfigurationManagerCLI configureLiveCycle -f cli_propertyFile.txt
```

cli_propertyFile.txt には、作成済みのプロパティファイルの名前を指定します。

8.6. Configuration Manager CLI のログ

エラーが発生した場合は、[aem-forms root]\configurationManager\log フォルダーにある CLI ログで確認できます。生成されるログファイルには、命名規則に基づいて lcmCLI.0.log のような名前が付けられます。ファイル名の数字（ここでは 0）は、ログファイルがロールオーバーされるたびに増加します。

8.7. 次の手順

Configuration Manager CLI を使用して JEE 上の AEM Forms を設定およびデプロイした場合は、次のタスクを実行します。

- CRX リポジトリをアップグレードし、リポジトリ内のコンテンツを移行する
- デプロイメント後の設定を行います

9. 付録 - SharePoint サーバーでの Connector for Microsoft SharePoint の設定

Connector for Microsoft SharePoint を使用すると、JEE 上の AEM Forms と SharePoint の両方の開発の観点で、ワークフローを統合できます。このモジュールには、JEE 上の AEM Forms サービスと、この2つのシステム間のエンドツーエンドの接続を容易にするサンプルの SharePoint の機能が含まれています。

このサービスによって、SharePoint リポジトリでの検索、読み取り、書き込み、削除、更新およびチェックイン/チェックアウトが可能になります。SharePoint のユーザーは、SharePoint 内からの承認プロセスなどの JEE 上の AEM Forms プロセスの開始、ドキュメントの Adobe PDF への変換、PDF 形式やネイティブ形式のファイルの権限の管理が可能です。さらに、SharePoint コンテキスト内から、JEE 上の AEM Forms プロセスの SharePoint ワークフロー内からの実行を自動化できます。

9.1. インストールと設定

JEE 上の AEM Forms のインストールを設定した後に、次の手順を実行して SharePoint サーバーでコネクタを設定します。

9.1.1. SharePoint サーバーの必要システム構成

SharePoint サイトを実行するサーバーが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Microsoft SharePoint Server 2007、2010 または 2013
- Microsoft .NET Framework 3.5

9.1.2. インストールに関する考慮事項

インストールの計画にあたって、次の点に注意してください。

- Microsoft SharePoint Server 2007 を使用している場合、SharePoint サーバーに Connector for Microsoft SharePoint をインストールすると、インストールプロセスによって Windows IIS Server が停止し、再起動します。
- インストールを実行する前に、他のサイトや Web アプリケーションが IIS Server 上のサービスを使用していないことを確認します。インストールを行う前に、IIS の管理者に問い合わせてください。
- (SharePoint サーバー 2010 のファームインストールの場合) SharePoint 管理サービスは、SharePoint サーバーファームの一元管理サーバーで実行されています。(SharePoint サーバー 2010 スタンドアロンインストールの場合) SharePoint 管理サービスは、SharePoint サーバーで停止します。

9.2. SharePoint サーバー 2007 でのインストールと設定

9.2.1. Web パーツのインストーラーの抽出

JEE 上の AEM Forms サーバーをインストールしたときに、SharePoint サーバーの Web パーツのインストーラー (Adobe Connector-2007.zip) が [aem-forms root]\plugins\sharepoint フォルダー内に作成されています。SharePoint をホストしている Windows サーバー上のフォルダーにこのファイルをコピーしてから、抽出します。

9.2.2. バッチファイルの編集

Web パーツのインストーラーから抽出されたフォルダー内に、バッチファイル (Install.bat) があります。使用している SharePoint サーバーに関連するファイルおよびフォルダーのパスを使用して、このバッチファイルを更新する必要があります。

- 1) Install.bat ファイルをテキストエディターで開きます。
- 2) ファイル内で次の行を探して編集します。

```
@SET GACUTILEXE="C:\Program Files\Microsoft SDKs\Windows\v6.0A\Bin\ gacutil.exe"  
@SET TEMPLATEDIR="c:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\ web server  
extensions\12\TEMPLATE"  
@SET WEBAPPDIR="C:\Inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\<port>"  
@SET SITEURL="http://<SharePoint Server>:<port>/SiteDirectory/<site name>/"  
@SET STSADM="C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\ web server extensions\  
12\bin\stsadm.exe"
```

- GACUTILEXE：GAC ユーティリティがあるフォルダーへのパスを変更します。
- TEMPLATEDIR：システム上の IIS Server のテンプレートのディレクトリパスを変更します。
- WEBAPPDIR：システム上の IIS Server の WEBAPPDIR のパスがバッチファイル内のデフォルト値と異なる場合に変更します。
- SITEURL：JEE 上の AEM Forms の機能をアクティブにする、システム上の SharePoint サイトの URL を変更します。
- STSADM：STSADM ユーティリティがあるフォルダーへのパスを変更します。

注：JEE 上の AEM Forms の機能は、SharePoint サーバーの Web アプリケーションにインストールされます。JEE 上の AEM Forms の機能は、URL を指定したサイトでのみアクティブになります。他の SharePoint サイトについては、各サイトのサイトの設定ページで後から JEE 上の AEM Forms の機能をアクティブにすることができます。詳しくは、SharePoint のヘルプを参照してください。

- 3) ファイルを保存して閉じます。

9.2.3. バッチファイルの実行

編集されたバッチファイルがあるフォルダーに移動してから、Install.bat ファイルを実行します。

バッチファイルが実行されている間は SharePoint サイトで他のサービスを使用できないことに注意してください。

バッチファイルを実行すると、次の処理が行われます。

- AdobeLiveCycleConnector.dll および AdobeLiveCycleWorkflow.dll のファイルが登録されます。これらのダイナミックライブラリは、JEE 上の AEM Forms の機能と SharePoint サーバーを統合します。
- 以前にインストールされていた SharePoint コネクタがアンインストールされます。
- テンプレートファイルが WSS \TEMPLATE ディレクトリにコピーされます。
- リソースファイルが WEBAPPDIR \App_GlobalResources ディレクトリにコピーされます。
- JEE 上の AEM Forms の機能を Web サーバー拡張機能とあわせてインストールして有効化します。
- インストーラーが閉じて、プロンプトに戻ります。

9.2.4. サービスモデル設定の IIS Web アプリケーションのフォルダーへのコピー

SharePoint Connector 固有の設定を、IIS Server の Web アプリケーションのホームディレクトリにコピーする必要があります。これにより、JEE 上の AEM Forms の機能が Web アプリケーションに追加されます。

- 1) JEE 上の AEM Forms の機能のインストーラーを抽出したときに作成された sharepoint-webpart フォルダーに移動します。
- 2) AdobeLiveCycleConnector.dll.config ファイルをテキストエディターで開きます。
- 3) <system.serviceModel> タグと </system.serviceModel> タグの内容（開始タグと終了タグを含む）をコピーしてから、ファイルを閉じます。
- 4) バッチファイルで指定したコンピューター上の IIS サービスの Web アプリケーションのホームディレクトリに移動します。そのフォルダーは、通常は C:\¥Inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥<port> です。
- 5) web.config ファイルのバックアップを作成してから、元のファイルをテキストエディターで開きます。
- 6) コピーした内容を </configuration> タグの前に追加します。
- 7) ファイルを保存して閉じます。

9.3. SharePoint Server 2010 および SharePoint server 2013 でのインストールと設定

9.3.1. 環境変数の編集

stsadm.exe のパスを PATH 環境変数に追加します。stsadm.exe のデフォルトのパスは C:\Program Files\Common Files\MicrosoftShared\Web Server Extensions\14\BIN です。

9.3.2. Web パーツのインストーラーの抽出

JEE 上の AEM Forms サーバーをインストールしたときに、SharePoint サーバーファイルの Web パーツのインストーラー (Adobe Connector-2010.zip と Adobe Connector-2013.zip) が [aem-forms root]\plugins\sharepoint フォルダー内に作成されます。

- Microsoft SharePoint 2010 を使用している場合は、SharePoint をホストする Windows server 上のフォルダに Adobe Connector-2010.zip ファイルをコピーし、コピーしたファイルを解凍します。
- Microsoft SharePoint 2013 を使用している場合は、SharePoint をホストする Windows server 上のフォルダに Adobe Connector-2013.zip ファイルをコピーし、コピーしたファイルを解凍します。

9.3.3. Connector のインストールとアクティベート

- 1) (オプション) コネクタをインストールする前に SharePoint Server のコンテキストメニューのオプションを選択します。詳細な手順については、[機能の有効化または無効化](#)を参照してください。
- 2) 次のコマンドをリストの順序どおりに実行して、Connector for SharePoint Server をインストールします。変更がすべてのサーバーに適用されたことを確認するために、各コマンドの後に stsadm - o enumsolutions を実行します。

resultant xml に <state>pending</state> タグが追加されるまで、stsadm - o enumsolutions を繰り返し実行します。

```
install.bat -create
install.bat -add
install.bat -deploy
install.bat -install
```

注：install.bat の -deploy コマンドの場合は、resultant xml に <LastOperationResult>DeploymentSucceeded</LastOperationResult> タグが追加されるまで、stsadm - o enumsolutions を繰り返し実行します。

- 3) SharePoint Web アプリケーションからコネクタをアクティベートします。コネクタをアクティベートするには、次の手順を実行します。
 - a) ブラウザーで SharePoint Web アプリケーションを開きます。
 - b) 「サイトの設定」をクリックします。
 - c) 「Site Collection Features」をクリックします。
 - d) **Adobe Connector** 機能および **Workflow** 機能について「アクティベート」をクリックします。

9.3.4. 機能の有効化または無効化

コンテキストメニューのオプションを変更し、SharePoint サイトの他の機能を無効にすることができます。一連のオプションをデフォルトのまま SharePoint Connector をインストールした場合、SharePoint Server で次のオプションを有効にします。

- Adobe PDF に変換
- Acrobat Reader による注釈機能を有効化
- Adobe ポリシーで保護
- JEE 上の AEM Forms の処理の起動

Elements.xml ファイルを変更してこれらのオプションを変更したり、別の機能の有効／無効を切り替えたりすることができます。Elements.xml を変更するには、次の手順を実行します。

- 1) Adobe Connector-2010.zip ファイルまたは Adobe Connector-2013.zip ファイルを展開した内容が含まれるフォルダーに移動します。
- 2) Elements.xml ファイルのバックアップを作成します。Elements.xml のデフォルトの場所は < 展開した Adobe Connector-2010/2013.zip ファイルが含まれるディレクトリ > \TEMPLATE\FEATURES\LiveCycle\Elements.xml です。
- 3) Elements.xml ファイルをテキストエディターで開きます。
- 4) 無効にする機能の CustomAction 要素を削除するかコメントにします。

Document Server の機能	CustomAction 要素の ID	説明
ReaderExtensions	LiveCycle.ApplyReaderExtensions	PDF ドキュメントの Acrobat Reader DC extensions を有効にします。
権限管理	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPdf	PDF ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDoc	Microsoft Word ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToXls	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPpt	Microsoft PowerPoint ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDocx	Microsoft Word ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToXlsx	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPptx	Microsoft PowerPoint ドキュメントの権限保護を実行します

	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDwg	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDxf	AutoCAD ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDwf	AutoCAD ドキュメントの権限保護を実行します
PDF Generator	LiveCycle.GeneratePDFFromPdf	サイトの設定でファイルの種類として標準の OCR が使用された場合に、画像から作成された PDF をテキストベースの PDF に変換します
	LiveCycle.GeneratePDFFromDoc	Microsoft Word ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPs	PostScript ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromEps	EPS ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPrn	PRN ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromDocx	Microsoft Word 2007 ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPpt	Microsoft PowerPoint ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPptx	Microsoft PowerPoint ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromXls	Microsoft Excel ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromXlsx	Microsoft Excel ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromBmp	BMP ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromGif	GIF ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpeg	JPEG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpg	JPG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromTiff	TIFF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromTif	TIF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPng	PNG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpf	JPF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpx	JPX 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJp2	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJ2k	JPEG 2000 画像から PDF を生成します

	LiveCycle.GeneratePDFFromJ2c	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpc	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromHtm	HTM ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromHtml	HTML ドキュメントから PDF を生成します
	(非推奨) LiveCycle.GeneratePDFFromSwf	(非推奨) SWF ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromFlv	Flash ビデオファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromTxt	テキストファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromRtf	リッチテキスト形式のファイルから PDF を生成 します
	LiveCycle.GeneratePDFFromMpp	Microsoft Project ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPub	Microsoft Publisher ドキュメントから PDF を生 成します
LiveCycle プロセスを起動	LiveCycle.InvokeGenericLiveCycleProcessOnALL	LiveCycle プロセスを起動します
Adobe Forms ライブラリ	AdobeFormsLibrary	フォームデータのリポジトリとして SharePoint を設定します。CustomAction、ListTemplate お よび ListInstance の各要素を削除します。
AEM Forms ユーザータスク	LiveCycleUserTasks	ユーザータスクのリストを表示します。 ListTemplate 要素を削除します。
LiveCycle グループタスク	LiveCycleGroupTasks	グループタスクのリストを表示します。 ListTemplate 要素を削除します。

- 5) Elements.xml を保存して閉じます。

9.3.5. Microsoft SharePoint Server 2010 のコネクタおよび Microsoft SharePoint Server 2013 のアンインストール

- 1) SharePoint Web アプリケーションから SharePoint Connector のアクティベートを解除します。SharePoint Connector のアクティベートを解除するには
 - a) ブラウザーで SharePoint Web アプリケーションを開きます。
 - b) 「サイトの設定」をクリックします。
 - c) 「**Site Collection Features**」をクリックします。
 - d) **Adobe Connector** 機能および **Adobe LiveCycle Workflow** 機能について「アクティベートの解除」をクリックします。
- 2) コマンドプロンプトで、次のコマンドを順番どおりに実行します。変更がすべてのサーバーに適用されたことを確認するために、各コマンドの後に `stsadm - o enumsolutions` を実行します。resultant xml に `<state>pending</state>` タグが追加されるまで、`stsadm - o enumsolutions` を繰り返し実行します。

```
Install.bat -uninstall
```

```
Install.bat -retract
```

```
Install.bat -delete
```

注: Install.bat の -retract コマンドの場合は、resultant xml に `<LastOperationResult>RetractionSucceeded</LastOperationResult>` タグが追加されるまで、`stsadm - o enumsolutions` を繰り返し実行します。